

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	コクリツダゲイブクホクジン クマモトダゲイブク 国立大学法人 熊本大学									
フリガナ大学の名称	クマモトダゲイブク 熊本大学 (Kumamoto University)									
大学本部の位置	熊本県熊本市中央区黒髪二丁目39番1号									
大学の目的	<p>1. 教育 個性ある創造的人材を育成するために、学部から大学院まで一貫した理念のもとに総合的な教育を行う。学部では、幅広く深い教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備えた人材を育成する。大学院では、学部教育を基盤に、人間と自然への深い洞察に基づく総合的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門職業人を育成する。また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に提供する。</p> <p>2. 研究 高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の文化遺産の豊かな継承・発展に努める。また、総合大学の特徴を活かして、人間、社会、自然の諸科学を総合的に深化させ、学際的な研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。</p> <p>3. 地域貢献・国際貢献 地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域における研究中核の機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることにより、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手の育成を目指す。</p>									
新設学部等の目的	創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	文学部 人文科学科	年	人	年次人	人	学士（文学）	文学関係	令和8年4月 第1年次	熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	
	計	4	170	-	680					
同一設置者内における変更（定員の移行、名称の変更等）	<p>文学部 総合人間学科（廃止） (△55) ※令和8年4月学生募集停止 歴史学科（廃止） (△35) ※令和8年4月学生募集停止 文学科（廃止） (△50) ※令和8年4月学生募集停止 コミュニケーション情報学科（廃止） (△30) ※令和8年4月学生募集停止 (3年次編入学定員) [定員減] (△10) ※令和8年4月学生募集停止</p> <p>教育学部 共同教員養成課程 (140) (令和7年7月届出) 養護教諭養成課程 (30) (令和7年7月届出) 学校教育教員養成課程（廃止） (△220) ※令和8年4月学生募集停止</p> <p>工学部 土木建築学科 [定員増] (13) (令和8年4月) 機械数理工学科 [定員増] (11) (令和8年4月) 情報電気工学科 [定員増] (13) (令和8年4月) 材料・応用化学科 [定員増] (13) (令和8年4月) 共創学環 (80) (令和7年7月届出) ※学部等連係課程実施基本組織</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	文学部人文科学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
		290科目	250科目	32科目	572科目					
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		(注) 【】の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）と兼ねる教員の数。
		教授	准教授	講師	助教	計				
新	文学部 人文科学科	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)	0 (0)	253 (253)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人	

設

b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	/	/
小計（a～b）	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		
教育学部 共同教員養成課程	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)	0 (0)	218 (218)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)		
養護教諭養成課程	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)	0 (0)	257 (257)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)		
学部等連係課程実施基本組織 共創学環							
連係協力学部（Ⅰ） 文学部 人文科学科	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)	<0> 【0】 (0)	231 (231)
連係協力学部（Ⅱ） 法学部 法学科							
連係協力学部（Ⅲ） 理学部 理学科							
連係協力学部（Ⅳ） 工学部 土木建築学科 機械数理工学科 情報電気工学科 材料・応用化学科 半導体デバイス工学課程							
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
小計（a～b）	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)		

大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
令和7年7月届出済み

大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
令和7年7月届出済み

(注)
<>の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）のみに従事する基幹教員。
【】の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）と連係協力学部等を兼ねる教員の数。

大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
令和7年7月届出済み

分	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	
	計(a～d)	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)		
	計	<6> 【5】 38 (55)	<11> 【0】 62 (74)	<1> 【0】 1 (3)	<1> 【0】 0 (38)	<19> 【5】 101 (133)	- (-)	- (-)
既	法学部 法学科	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)	1 (1)	220 (220)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)		
	理学部 理学科	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)	0 (0)	204 (204)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	22 【1】 (29)	27 【0】 (28)	1 【0】 (1)	5 【0】 (5)	55 【1】 (63)		
	医学部 医学科	57 【0】 (71)	36 【1】 (38)	44 【0】 (47)	151 【0】 (153)	288 【1】 (309)	0 (0)	236 (236)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	57 【0】 (71)	36 【1】 (38)	44 【0】 (47)	151 【0】 (153)	288 【1】 (309)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	57 【0】 (71)	36 【1】 (38)	44 【0】 (47)	151 【0】 (153)	288 【1】 (309)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		

(注) []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人

(注) []の中の数は共創学環(学部等連係課程実証基本組織)と連携協力学部等を兼ねる教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 13人

(注) []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 105人

計 (a～d)	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)			
保健学科看護学専攻	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)	0 (0)	236 (236)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)			
保健学科放射線技術学専攻	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)		236 (236)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)			
保健学科検査技術科学専攻	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)	0 (0)	236 (236)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)			
薬学部 薬学科	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	236 (236)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 17人	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)			
創薬・生命薬科学科	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)	0 (0)	236 (236)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人	

設

b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)		
工学部 土木建築学科	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)	0 (0)	234 (234)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)		
機械数理工学科	12 【2】 (14)	6 【0】 (9)	0 【0】 (0)	7 【0】 (7)	25 【2】 (30)	0 (0)	239 (239)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 【2】 (14)	6 【0】 (9)	0 【0】 (0)	7 【0】 (7)	25 【2】 (30)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	12 【2】 (14)	6 【0】 (9)	0 【0】 (0)	7 【0】 (7)	25 【2】 (30)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	12 【2】 (14)	6 【0】 (9)	0 【0】 (0)	7 【0】 (7)	25 【2】 (30)		
情報電気工学科	13 【3】 (20)	13 【3】 (16)	0 【0】 (0)	5 【3】 (8)	31 【9】 (44)	0 (0)	224 (224)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 【3】 (20)	13 【3】 (16)	0 【0】 (0)	5 【3】 (8)	31 【9】 (44)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	13 【3】 (20)	13 【3】 (16)	0 【0】 (0)	5 【3】 (8)	31 【9】 (44)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	13 【3】 (20)	13 【3】 (16)	0 【0】 (0)	5 【3】 (8)	31 【9】 (44)		

(注)
[]の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）と兼ねる教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人

(注)
[]の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人

(注)
[]の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人

	材料・応用化学科	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)	0 (0)	221 (221)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
	半導体デバイス工学課程	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※	0 (0)	225 (225)	(注) ※は、工学部土木建築学科、機械理工学科、情報電気工学科、材料・応用化学科と兼ねる基幹教員の数
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			[]の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
	学部等連係課程実施基本組織 情報融合学環	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)	0 (0)	225 (225)	(注) <>の中の数は学部等連係課程実施基本組織のみに従事する基幹教員、[]の中の数は連係協力学部と兼ねる基幹教員の数。
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			
分	計	<4> 【4】 [8] 172 (222)	<3> 【0】 [4] 146 (162)	<1> 【0】 [0] 57 (61)	<4> 【0】 [3] 202 (211)	<12> 【4】 [15] 577 (656)			
	合 計	233 (277)	226 (236)	60 (64)	210 (212)	729 (789)	- (-)	- (-)	
	職 種	専 属		そ の 他		計			
	事 務 職 員	448 (448) 人		455 (455) 人		903 (903) 人			
	技 術 職 員	99 (99)		314 (314)		413 (413)			
	図 書 館 職 員	7 (7)		0 (0)		7 (7)			
	そ の 他 の 職 員	1205 (1205)		807 (807)		2012 (2012)			
	指 導 補 助 者	0 (0)		0 (0)		0 (0)			

計		1759 (1759)		1576 (1576)		3335 (3335)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	514,776㎡	623㎡	0㎡		515,399㎡		放送大学熊本学習 センターとの共用 623㎡ 地上権設定者：財 団法人熊本テクノ ポリス財団 地上権設定期間： H29.9.1から3年間 19,945㎡ 貸与者：熊本市 借用期間：H29.4.1 からH30.3.31（以 降、毎年度更新） 494㎡ 貸与者：益城町 借用期間： H30.10.1から R2.9.30（以降、毎 年度更新） 331㎡	
	そ の 他	144,293㎡	0㎡	0㎡		144,293㎡			
	合 計	659,069㎡	623㎡	0㎡		659,692㎡			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		放送大学熊本学習 センターの専用 1,112㎡	
		(464,523㎡)	(0㎡)	(1,112㎡)		(465,635㎡)			
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	1446 室	教 員 研 究 室	808 室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部等单位 での特定不 能なため、 大学全体の 数	
	共創学環	1,326,394〔545,241〕 (1,326,394〔545,241〕)	69,426〔68,115〕 (69,426〔68,115〕)	38,551〔22,962〕 (38,551〔22,962〕)	17,031〔15,706〕 (17,031〔15,706〕)	67,684 (67,684)	35 (35)		
	計	1,326,394〔545,241〕 (1,326,394〔545,241〕)	69,426〔68,115〕 (69,426〔68,115〕)	38,551〔22,962〕 (38,551〔22,962〕)	17,031〔15,706〕 (17,031〔15,706〕)	67,684 (67,684)	35 (35)		
スポーツ施設等		スポーツ施設 22,045 ㎡		講 堂 - ㎡	厚生補導施設 18,255 ㎡		大学全体		
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営 費交付金） による
	教員1人当り研究費等		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	共同研究費等		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	図 書 購 入 費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	設 備 購 入 費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし							
大 学 等 の 名 称		熊本大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開 設 年 度	所 在 地	
文学部	年	人	年次 人	人		倍		熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	
総合人間学科	4	55	10 (3年次)	220	学士（文学）	1.08 《1.02》	平成17年度		
歴史学科	4	35		140	学士（文学）	1.09 《1.05》	平成17年度		
文学科	4	50		200	学士（文学）	1.09 《1.04》	平成17年度		
コミュニケーション情報学科	4	30		120	学士（文学）	1.04 《0.97》	平成17年度		
教育学部								熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	令和4年度入学定員 減（△10人） 令和4年度より 学生募集 停止
学校教育教員養成課程	4	220	-	880	学士（教育学）	1.30 《1.19》	平成17年度		
小学校教員養成課程	4	-	-	-	学士（教育学）	1.05 《1.05》	令和4年度		
中学校教員養成課程	4	-	-	-	学士（教育学）	-	平成24年度		
特別支援教育教員養成課程	4	-	-	-	学士（教育学）	-	平成19年度		
養護教諭養成課程	4	-	-	-	学士（教育学）	-	昭和52年度		
法学部								熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	令和6年度から情報 融合学環（学部等 連携課程実施基本 組織）に入学定員 10名を活用
法学科	4	210	10	860	学士（法学）	1.04 《1.00》	平成16年度		

大学院自然科学研究科 (博士後期課程) 情報電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士(工学), 博士(学術)	—	平成18年度	熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	平成30年度より学 生募集停止
大学院自然科学教育部 (博士前期課程) 理学専攻	2	110	—	220	修士(理学), 修士(学術)	1.07 0.89	平成30年度	熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	
土木建築学専攻	2	75	—	150	修士(工学), 修士(学術)	1.39	平成30年度		
機械システム工学専攻	2	55	—	55	修士(工学), 修士(学術)	1.18	令和7年度		
機械数理工学専攻	2	—	—	—	修士(工学), 修士(学術)	—	平成30年度		平成30年度より学 生募集停止
電気電子工学専攻	2	63	—	63	修士(工学), 修士(学術)	0.95	令和7年度		
情報電気工学専攻	2	—	—	—	修士(工学), 修士(学術)	—	平成30年度		平成30年度より学 生募集停止
材料・応用化学専攻	2	90	—	180	修士(工学), 修士(学術)	1.12	平成30年度		
半導体・情報数理解専攻	2	120	—	120	修士(工学), 修士(情報学)	0.93	令和7年度		
(博士後期課程) 理学専攻	3	12	—	36	博士(理学), 博士(学術)	0.94 1.00	平成30年度		
工学専攻	3	24	—	116	博士(工学), 博士(学術)	1.03	平成30年度		
半導体・情報数理解専攻	3	22	—	22	博士(工学), 博士(情報学)	0.36	令和7年度		
大学院医学教育部 (修士課程) 医科学専攻	2	20	—	40	修士(医科学), 修士(健康生命科学)	0.90	平成15年度	熊本市中央区本荘 1丁目1-1	
(博士課程) 医学専攻	4	88	—	352	博士(医学), 博士(生命科学), 博士(健康生命科学)	1.12	平成20年度		
大学院保健学教育部 (博士前期課程) 保健学専攻	2	24	—	48	修士(保健学), 修士(看護学)	0.85	平成22年度	熊本市中央区九品寺4 丁目24-1	
(博士後期課程) 保健学専攻	3	6	—	18	博士(保健学), 博士(看護学)	1.28	平成22年度		
大学院薬学教育部 (博士前期課程) 創薬・生命薬科学専攻	2	35	—	70	修士(薬科学), 修士(健康生命科学)	0.97	平成22年度	熊本市中央区大江本町 5-1	
(博士後期課程) 創薬・生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士(薬科学), 博士(生命科学), 博士(健康生命科学)	1.63	平成24年度		
(博士課程) 医療薬学専攻	4	8	—	32	博士(薬学)	0.91	平成24年度		
<p>名称：教育学部附属幼稚園 目的：附属学校は、教育基本法及び学校教育法に規定する教育又は保育を行うとともに、教育学部の教育計画に従って、次に掲げる事項を行うことを目的とする。 (1) 教育理論及び教育の実践に関する研究並びにその実証を行うこと。 (2) 教育学部学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 (3) 地方の教育に協力すること。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区城東町5番9号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 4,632㎡ 建物 1,199㎡</p> <p>名称：教育学部附属小学校 目的：附属幼稚園に同じ 所在地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 51,547㎡ 建物 7,282㎡</p>									

名称：教育学部附属中学校
目的：附属幼稚園に同じ
所在地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号
設置年月：昭和24年5月
規模等：土地 51,547㎡ 建物 5,885㎡

名称：教育学部附属特別支援学校
目的：附属幼稚園に同じ
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪5丁目17番1号
設置年月：昭和40年4月
規模等：土地 26,375㎡ 建物 4,164㎡

名称：病院
目的：診療を通して医学の教育及び研究に資することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番1号
設置年月：昭和24年5月
規模等：土地 82,463㎡ 建物 111,388㎡

名称：大学院生命科学研究所附属グローバル天然物科学研究センター
目的：薬用植物資源を活用した教育及び研究を行い、薬学の視点に立った環境問題への取組を通して、薬学の発展を図ることを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区大江本町5番1号
設置年月：平成22年4月
規模等：土地 51,264㎡ 建物 340㎡

名称：発生医学研究所
目的：発生学の視点から様々な生命現象を解明し、医学に貢献することを目指す発生医学の研究活動を、分子、細胞、組織、器官、個体へと連続する観点から、統合的に推進することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月：平成21年4月
規模等：土地 25,088㎡ 建物 6,293㎡

名称：産業ナノマテリアル研究所
目的：未来材料“二次元マテリアル”を核として理論から産業実装化を目指した世界に類のない研究所として、新たな研究領域への展開、および産業振興・地域活性化を推進することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：令和2年4月
規模等：土地 115,176㎡ 建物 4,356㎡

名称：ヒトレトロウイルス学共同研究センター
目的：世界的課題である難治性ウイルス（HIV-1、HTLV-1、HBV及びその他の関連するウイルスをいう。）感染症について、本学と鹿児島大学の強みを統合することで、両大学が有する資源を有効に活用し、感染病態の基礎研究を基に、感染予防と治療を目指した世界的・全学的な研究及び教育の総合的推進を図ることを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月：平成31年4月
規模等：土地 25,088㎡ 建物 2,165㎡

名称：研究開発戦略本部
目的：研究から研究成果の社会実装までの一貫した研究サポート・マネジメントを行うことにより、熊本大学の研究力の向上を図るとともに、地域課題の解決に貢献することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：令和7年4月
規模等：土地 115,176㎡ 建物 5,362㎡

名称：グローバル推進機構
目的：グローバル戦略の企画立案を行い、教育研究における国際交流を推進するとともに、グローバル人材の育成及び地域社会のグローバル化に貢献することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成27年3月
規模等：土地 169,619㎡ 建物 2,078㎡

名称：大学教育統括管理運営機構
目的：教養教育を含む学士課程教育及び大学院課程教育の理念及び目的が達成されるよう、大学教育を統括するとともに教養教育の円滑な運営・実施及び戦略的な入学者選抜の企画・立案を行うことを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成28年6月
規模等：土地 169,619㎡ 建物 427㎡

附属施設の概要

<p>名称：先進軽金属材料国際研究機構</p> <p>目的：富山大学と連携し、リソースの有効活用と相互補完によるマグネシウム・アルミニウム研究の強化、チタン研究の育成、マグネシウム・アルミニウム・チタンの融合研究の促進および軽金属モノづくり高度人材育成を図り、日本の科学技術と産業の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：令和3年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡</p>
<p>名称：半導体・デジタル研究教育機構</p> <p>目的：熊本大学における半導体分野及びデータサイエンスを含むデジタルトランスフォーメーション分野の研究教育機能を集約することにより、各分野の研究の高度化及び高度な知見を有する人材の育成を図り、もって地域産業の強靱化に資することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：令和5年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 10,639㎡</p>
<p>名称：国際先端医学研究機構</p> <p>目的：国際的な先端医学研究、人材発掘及び人材育成を行い、本学の生命科学分野の基礎研究から臨床応用並びに国際レベルの研究力及び教育力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号</p> <p>設置年月：平成27年4月</p> <p>規模等：土地 25,088㎡ 建物 982㎡</p>
<p>名称：キャンパスミュージアム推進機構</p> <p>目的：熊本大学の各キャンパスにおいて保有する歴史的・文化的な展示資材・施設の全学的な連携により、重要文化財等の効果的な展示及び情報発信の強化を図り、キャンパス全体のミュージアム化を推進することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：令和6年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 2,225㎡</p>
<p>名称：永青文庫研究センター</p> <p>目的：永青文庫資料をはじめとする熊本藩関係資料の総合的な研究を通じて当該資料に立脚した拠点的研究を組織するとともに、文化行政機関等との連携によって地域文化振興に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成29年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 117㎡</p>
<p>名称：くまもと水循環・減災研究教育センター</p> <p>目的：先進的な地下水循環、沿岸環境及び減災型社会システムに関する研究を推進することで、学生及び社会人の人材育成を行うとともに、その成果を国内外に発信・展開することを通じて地域と国際社会に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：平成29年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,410㎡</p>
<p>名称：先進マグネシウム国際研究センター</p> <p>目的：我が国のマグネシウム研究を牽引し、マグネシウム合金に関する世界的研究拠点として、地域のみならず、我が国さらには世界の科学技術の発展及び産業の活性化に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：平成23年12月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡</p>
<p>名称：生命資源研究・支援センター</p> <p>目的：遺伝子改変動物その他の研究資源及びこれらの研究資源情報の利用等をおして、諸科学分野の教育研究の総合的推進に資することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号</p> <p>設置年月：平成15年4月</p> <p>規模等：土地 25,088㎡ 建物 15,322㎡</p>
<p>名称：環境安全センター</p> <p>目的：環境管理及び安全管理に係る教育研究の推進及び啓発を図ることにより、良好な教育研究環境及び教育研究活動等における職員、学生等の安全を確保することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成18年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 477㎡</p>

名称：埋蔵文化財調査センター
目的：本学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用することを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：平成23年10月
規模等：土地 115,176㎡ 建物 514㎡

名称：保健センター
目的：学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。
所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成16年4月
規模等：土地 169,619㎡ 建物 579㎡

熊本大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和7年度(2025年度)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度(2026年度)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
熊本大学 文学部		3年次		熊本大学 文学部		3年次		
				人文科学科	170	-	680	学科の設置(事前相談) 共創学環の内数【10】
総合人間学科	55	-	220		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
歴史学科	35	-	140		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
文学科	50	-	200		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
コミュニケーション情報学科 (学部共通)	30	-	120		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
	-	10	20		-	0	0	令和8年4月学生募集停止
教育学部				教育学部				
				共同教員養成課程	140	-	560	学科の設置(事前相談)
学校教育教員養成課程	220	-	880	養護教諭養成課程	30	-	120	学科の設置(事前相談)
					0	-	0	令和8年4月学生募集停止
法学部		3年次		法学部		3年次		
法学科	210	10	860	法学科	210	10	860	情報融合学環の内数【10】 共創学環の内数【10】
理学部				理学部				
理学科	200	-	800	理学科	200	-	800	情報融合学環の内数【10】 共創学環の内数【10】
医学部				医学部				
医学科(6年制)	109	-	659	医学科(6年制)	105	-	630	医学部臨時定員に伴う収 容定員変更(△4)
保健学科	144	16	608	保健学科	144	16	608	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	55	-	330	薬学科(6年制)	55	-	330	
創薬・生命薬科学科	35	-	140	創薬・生命薬科学科	35	-	140	
工学部		3年次		工学部		3年次		
土木建築学科	124	10	516	土木建築学科	137	10	568	定員変更(13) 情報融合学環の内数【6】 共創学環の内数【13】
機械数理工学科	108	10	452	機械数理工学科	119	10	496	定員変更(11) 情報融合学環の内数【7】 共創学環の内数【11】
情報電気工学科	132	20	568	情報電気工学科	145	20	620	定員変更(13) 情報融合学環の内数【20】 共創学環の内数【13】
材料・応用化学科	129	5	526	材料・応用化学科	142	5	578	定員変更(13) 情報融合学環の内数【7】 共創学環の内数【13】
半導体デバイス工学課程	20	20	120	半導体デバイス工学課程	20	20	120	
情報融合学環	【60】		【240】	情報融合学環	【60】		【240】	
				共創学環	【80】		【320】	学部等連係課程実施基本 組織の設置 (事前相談)
計	1,656	101	7,159	計	1,652	91	7,110	
熊本大学大学院 教育学研究科				熊本大学大学院 教育学研究科				
教職実践開発専攻(P)	30	-	60	教職実践開発専攻(P)	30	-	60	
社会文化科学教育部				社会文化科学教育部				
法政・紛争解決学専攻(M)	14	-	25	法政・紛争解決学専攻(M)	14	-	25	
現代社会人間学専攻(M)	18	-	36	現代社会人間学専攻(M)	18	-	36	
文化学専攻(M)	18	-	36	文化学専攻(M)	18	-	36	
教授システム学専攻(M)	15	-	30	教授システム学専攻(M)	15	-	30	
人間・社会科学専攻(D)	6	-	18	人間・社会科学専攻(D)	6	-	18	
文化学専攻(D)	6	-	18	文化学専攻(D)	6	-	18	
教授システム学専攻(D)	3	-	9	教授システム学専攻(D)	3	-	9	
自然科学教育部				自然科学教育部				
理学専攻(M)	110	-	220	理学専攻(M)	110	-	220	
土木建築学専攻(M)	75	-	150	土木建築学専攻(M)	75	-	150	
機械システム工学専攻(M)	55	-	110	機械システム工学専攻(M)	55	-	110	
電気電子工学専攻(M)	63	-	126	電気電子工学専攻(M)	63	-	126	
材料・応用化学専攻(M)	90	-	180	材料・応用化学専攻(M)	90	-	180	
半導体・情報数理専攻(M)	120	-	240	半導体・情報数理専攻(M)	120	-	240	
理学専攻(D)	12	-	36	理学専攻(D)	12	-	36	
工学専攻(D)	24	-	72	工学専攻(D)	24	-	72	
半導体・情報数理専攻(D)	22	-	66	半導体・情報数理専攻(D)	22	-	66	
医学教育部				医学教育部				
医科学専攻(M)	20	-	40	医科学専攻(M)	20	-	40	
医学専攻(4年制D)	88	-	352	医学専攻(4年制D)	88	-	352	
保健学教育部				保健学教育部				
保健学専攻(M)	24	-	48	保健学専攻(M)	24	-	48	
保健学専攻(D)	6	-	18	保健学専攻(D)	6	-	18	
薬学教育部				薬学教育部				
創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70	創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70	
創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30	創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30	
医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32	医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32	
計	872	-	2,022	計	872	-	2,022	

教育課程等の概要																		
(文学部人文科学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員		
基礎科目	必修外国語科目(既修)	英語A-1	1前・後		1				○						14			
		英語A-2	1前・後		1				○		1				16			
		英語B-1	1前・後		1				○		1				16			
		英語B-2	1前・後		1				○		1	2			13			
		英語e	1前・後		1				○		1	1			8			
		英語C-1	2前		1				○		1	1			16			
		英語C-2	2後		1				○		1	1			8			
	必修外国語科目(初修)	ドイツ語A-1	1前			1			○		2				2	選択必修		
		ドイツ語A-2	1後			1			○		1				2	選択必修		
		ドイツ語B-1	1前			1			○		1				2	選択必修		
		ドイツ語B-2	1後			1			○		1				2	選択必修		
		ドイツ語C-1	2前			1			○		2				1	選択必修		
		ドイツ語C-2	2後			1			○		2				1	選択必修		
		フランス語A-1	1前			1			○			1			1	選択必修		
		フランス語A-2	1後			1			○			1			1	選択必修		
		フランス語B-1	1前			1			○		1				1	選択必修		
		フランス語B-2	1後			1			○		1				1	選択必修		
		フランス語C-1	2前			1			○		1	1			1	選択必修		
		フランス語C-2	2後			1			○		1	1			1	選択必修		
		中国語A-1	1前			1			○		1	2			3	選択必修		
		中国語A-2	1後			1			○		1	2			3	選択必修		
		中国語B-1	1前			1			○		1	2			1	選択必修		
		中国語B-2	1後			1			○		1	2			1	選択必修		
		中国語C-1	2前			1			○		1	1			1	選択必修		
		中国語C-2	2後			1			○			1			1	選択必修		
		韓国語A-1	1前			1			○						2	選択必修		
		韓国語A-2	1後			1			○						2	選択必修		
		韓国語B-1	1前			1			○						1	選択必修		
		韓国語B-2	1後			1			○						1	選択必修		
		韓国語C-1	2前			1			○						1	選択必修		
		韓国語C-2	2後			1			○						1	選択必修		
		日本語A-1	1・2前			1			○							1		
		日本語A-2	1・2前・後			1			○							1		
		日本語B-1	1・2前			1			○							1		
		日本語B-2	1・2後			1			○							1		
		日本語D-1	1・2前			1			○							2		
		日本語D-2	1・2後			1			○							2		
		自由選択外国語科目	ドイツ語 I-1	1前			1			○							1	
			ドイツ語 I-2	1後			1			○							1	
			ドイツ語 II-1	2前			1			○		1						
			ドイツ語 II-2	2後			1			○		1						
			フランス語 I-1	1前			1			○		1						
フランス語 I-2	1後				1			○		1								
フランス語 III-1	2前				1			○			1							
フランス語 III-2	2後				1			○		1								
中国語 I-1	1前				1			○							1			
中国語 I-2	1後				1			○							1			
韓国語 I-1	1前				1			○							1			
韓国語 I-2	1後				1			○							1			
韓国語 II-1	2前				1			○							1			
韓国語 II-2	2後				1			○							1			
韓国語 III-1	2前				1			○							1			
韓国語 III-2	2後				1			○							1			
ロシア語 I-1	1前				1			○							1			
ロシア語 I-2	1後				1			○							1			
ラテン語 I-1	1前				1			○							1			
ラテン語 I-2	1後				1			○							1			
スペイン語 I-1	1前				1			○							1			
スペイン語 I-2	1後				1			○							1			
スペイン語 II-1	2前				1			○							1			
スペイン語 II-2	2後			1			○							1				
ヘブライ語 I-1	1前			1			○			1								
ヘブライ語 I-2	1後			1			○			1								
イタリア語 I-1	1前			1			○							1				
イタリア語 I-2	1後			1			○							1				

	現代社会の解読	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○			2	1				
	自然と人間の地理学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○			1	1				1
	小計 (24科目)	—	—	0	24~48	0	—		10	13	0	0	0	50
教養科目	数学と文化	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								2
	物理学の世界	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								1
	暮らしと化学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								3
	化学と環境	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								3
	最先端の生命科学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								5
	地球環境科学の最前線	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								6
	地域づくりと科学技術	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○			1					4
	ものづくりの科学と技術	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								6
	暮らしと情報・通信技術	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								3
	健康の科学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								2
	病気の医科学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								2
	臨床医学の最前線	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								2
	現代社会と医学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								1
	心身の健康と看護	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								3
	医療における理工学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								1
	現代の医学検査	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								1
	現代医療と生命科学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								2
	薬科学入門	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								2
	現代社会と薬学	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								2
	現代教育について考える	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								7
心理学の探求	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○			1						
芸術への招待	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○								2	
現代と言語	1・2前・ 後・①・ ②・③・④			1又は2	○			1					1	

英会話	2前	○		2		○			1								
英作文	3前	○		2		○			1								
英文学史 I	2後	○		2		○				1							
英文学史 II	3後	○		2		○				1							
独語学概論	2前	○		2		○			1								
独文学史	2後	○		2		○										1	
独語独文学基礎演習 A 1	2前	○		2			○		1								1
独語独文学基礎演習 A 2	2後	○		2			○										1
仏文学史	2前	○		2		○				1							
仏語仏文学基礎演習 A 1	2前	○		2			○		1								
仏語仏文学基礎演習 A 2	2後	○		2			○		1								
比較文学概論 I	2前	○		2		○			1								
比較文学概論 II	2後	○		2		○			1								
比較文学基礎演習 I	2前	○		2			○		1								
比較文学基礎演習 II	2後	○		2			○		1								
比較文学基礎演習 III	2前	○		2			○		2								
国際文化学概論	2前	○		2		○				1							
国際文化学基礎演習 I	2前	○		2			○			1							
国際文化学基礎演習 II	2後	○		2			○			1							
現代文化資源学基礎演習 I	2前・後	○		2			○			1							
現代文化資源学基礎演習 II	2前・後	○		2			○			1							
メディア論	2後	○		2		○				1							
現代文化資源学概論 I	2前・後	○		2		○				1							
現代文化資源学概論 II	2前・後	○		2		○				1							
現代文化資源学実習 A	2前・後	○		2				○		1							
現代文化資源学実習 B	2前・後	○		2				○		1							
小計 (97科目)	—	—	0	194	0	—	—	—	16	24	0	0	0	0	0	14	
哲学特殊講義 A	3後			2		○				1							
哲学特殊講義 B	3後			2		○				1							
哲学特殊講義 C	3前・後			2		○				1							
哲学特殊講義 D	2前			2		○										1	
哲学特殊講義 E	2前			2		○										1	
哲学特殊講義 F	2前・後			2		○										1	
哲学特殊講義 G	2前・後			2		○				1							
哲学演習 II A 1	3前			2			○			1							
哲学演習 II A 2	3前			2			○			1							
哲学演習 II A 3	3前・後			2			○			1							
哲学演習 II B 1	3後			2			○			1							
哲学演習 II B 2	3後			2			○			1							
哲学演習 II B 3	3前・後			2			○			1							
哲学演習 II C 1	3後			2			○			1							
哲学演習 II C 2	3後			2			○			1							
哲学演習 II C 3	3前・後			2			○			1							
哲学演習 II D 1	3前・後			2			○			1							
哲学演習 II D 2	3前・後			2			○			1							
哲学演習 II D 3	3前・後			2			○			1							
神経・生理心理学	2前			2		○				1							
心理学特殊講義 A	2前・後			2		○										1	
心理学特殊講義 B	2前・後			2		○										1	
心理学特殊講義 C	2前・後			2		○				1							
心理学演習 II A-1	3前			2			○			1							
心理学演習 II A-2	3後			2			○			1							
心理学演習 II A-3	3前			2			○			1							
心理学演習 II A-4	3後			2			○			1							
心理学演習 II B-1	3前			2			○				1						
心理学演習 II B-2	3後			2			○				1						
心理学演習 II B-3	3前			2			○				1						
心理学演習 II B-4	3後			2			○				1						
心理学演習 II C-1	3後			2			○			1							
心理学実験 I	3前			2				○		1							
心理学実験 II	3後			2				○		1							
人間科学上級演習 A1	4前			2			○				1						
人間科学上級演習 A2	4後			2			○				1						
人間科学上級演習 B1	4前			2			○				1						
人間科学上級演習 B2	4後			2			○				1						
社会調査実習 I	3前			2				○		2							
社会調査実習 II	3後			2				○		2							
倫理学演習 A-I	3前			2			○			1							
倫理学演習 A-II	3前			2			○			1							
倫理学演習 B-I	3前・後			2			○				1					1	
倫理学演習 B-II	3前			2			○				1					1	
倫理学応用演習 A-I	3後			2			○			1							
倫理学応用演習 A-II	3後			2			○			1							
倫理学応用演習 B-I	3後			2			○				1					1	
倫理学応用演習 B-II	3後			2			○				1						
社会学演習 A-I	3前			2			○			1							
社会学演習 A-II	3後			2			○			1							

2-1 社会人間学コース（倫理学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び倫理学概論（2単位）を履修する。この他に専門基礎科目のうち、社会学概論、文化人類学概論、哲学概論Ⅰ、心理学概論、地域社会学概論Ⅰ、民俗学概論Ⅰ及び地理学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて、前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

倫理学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説及び社会人間学演習（各2単位）を履修する。また、社会人間学特殊講義A-Ⅰ～B-Ⅵ（各2単位）から10単位以上履修し、合計14単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に倫理学演習A-Ⅰ～B-Ⅱ及び倫理学応用演習A-Ⅰ～B-Ⅱ（各2単位）から計8単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、3～4年次に社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、社会学演習A-Ⅰ～C-Ⅳ、現代社会分析演習、文化人類学演習Ⅰ～Ⅳ、文化人類学応用演習Ⅰ～Ⅳ及び社会人間学応用演習A-Ⅰ～B（各2単位）から計6単位以上を履修

2-2 社会人間学コース（社会学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び社会学概論（2単位）を履修する。この他に専門基礎科目のうち、倫理学概論、文化人類学概論、哲学概論Ⅰ、心理学概論、地域社会学概論Ⅰ、民俗学概論Ⅰ及び地理学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて、前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

社会学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説及び社会人間学演習（各2単位）を履修する。また、社会人間学特殊講義A-Ⅰ～B-Ⅵ（各2単位）から10単位以上履修し、合計14単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3～4年次に社会学演習A-Ⅰ～C-Ⅳ（各2単位）から計8単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、3～4年次に社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、倫理学演習A-Ⅰ～B-Ⅱ、倫理学応用演習A-Ⅰ～B-Ⅱ、現代社会分析演習、文化人類学演習Ⅰ～Ⅳ、文化人類学応用演習Ⅰ～Ⅳ及び社会人間学応用演習A-Ⅰ～B（各2単位）から計6単位以上を履修

2-3 社会人間学コース（文化人類学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び文化人類学概論（2単位）を履修する。この他に専門基礎科目のうち、倫理学概論、社会学概論、哲学概論Ⅰ、心理学概論、地域社会学概論Ⅰ、民俗学概論Ⅰ及び地理学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて、前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

文化人類学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説及び社会人間学演習（各2単位）を履修する。また、社会人間学特殊講義A-Ⅰ～B-Ⅵ（各2単位）から10単位以上履修し、合計14単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3～4年次に文化人類学演習Ⅰ～Ⅳ及び文化人類学応用演習Ⅰ～Ⅳ（各2単位）から計8単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、3～4年次に社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、倫理学演習A-Ⅰ～B-Ⅱ、倫理学応用演習A-Ⅰ～B-Ⅱ、社会学演習A-Ⅰ～C-Ⅳ、現代社会分析演習及び社会人間学応用演習A-Ⅰ～B（各2単位）から計6単位以上を履修

3-1 地域科学コース（地域社会学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び地域社会学概論Ⅰ（2単位）を履修する。また、民俗学概論Ⅰ、地理学概論、哲学概論Ⅰ、心理学概論、倫理学概論、社会学概論及び文化人類学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

地域社会学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説、地域社会学概論Ⅱ、地域社会分析演習（各2単位）計6単位を履修し、地理調査法概説、民俗学概論Ⅱ、人文地理学、自然地理学Ⅰ、地誌学、基層文化論演習及び地域文化論演習から計6単位以上を履修し、合計12単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に社会調査実習A1～A2（各2単位）、地域科学演習A1～A2（各4単位）から計12単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～4年次に地域科学特殊講義A1～C2、地域科学応用演習、及び社会学演習A-Ⅰ～C-Ⅲ（各2単位）から計2単位以上を履修

3-2 地域科学コース（民俗学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び民俗学概論Ⅰ（2単位）を履修する。また、地域社会学概論Ⅰ、地理学概論、哲学概論Ⅰ、心理学概論、倫理学概論、社会学概論及び文化人類学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

民俗学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説、民俗学概論Ⅱ、基層文化論演習、地域文化論演習（各2単位）計8単位を履修し、地域社会学概論Ⅱ、地理調査法概説、人文地理学、及び自然地理学Ⅰから計4単位以上履修し、合計12単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に社会調査実習BⅠ～BⅡ（各2単位）及び地域科学演習BⅠ～BⅡ（各4単位）から計12単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～4年次に地域科学特殊講義AⅠ～CⅡ及び地域科学応用演習（各2単位）から計2単位以上を履修

3-3 地域科学コース（地理学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び地理学概論（2単位）を履修する。また、地域社会学概論Ⅰ、民俗学概論Ⅰ、哲学概論Ⅰ、心理学概論、倫理学概論、社会学概論及び文化人類学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

地理学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に地理調査法概説、人文地理学、自然地理学Ⅰ（各2単位）計6単位を履修し、社会調査法概説、地域社会学概論Ⅱ、地域社会分析演習、民俗学概論Ⅱ、地誌学、基層文化論演習及び地域文化論演習から計6単位以上履修し、合計12単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、2～3年次に地理調査実習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）、地域科学演習CⅠ～Ⅳ（各4単位）から計20単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～4年次に地域科学特殊講義AⅠ～AⅡ、地域科学特殊講義BⅠ～BⅣ、地域科学特殊講義CⅠ～CⅡ、地域分析論演習、自然地理学Ⅱ（各2単位）から計2単位以上を履修

4-1 歴史資料科学コース（日本史学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、日本史概説Ⅰ及び考古学概説Ⅰ（各2単位）計8単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から6単位以上を履修する。また、1年次に基盤科目から、博物館概論（2単位）を履修し、合計16単位以上を履修する。

<2～4年次>

日本史学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に博物館資料論2単位を履修し、日本史概説Ⅱ、歴史資料科学実習AⅠ～BⅠから計8単位以上履修し、合計10単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に歴史資料科学演習AⅠ～Ⅳ（各2単位）及び歴史資料科学野外実習A（4単位）の計12単位以上を履修する。また、歴史資料科学特殊講義AⅠ～AⅥ（各2単位）から計8単位以上を履修し、歴史資料科学演習BⅠ～BⅣ、歴史資料科学特殊講義BⅠ～BⅦ（各2単位）及び歴史資料科学野外実習BⅠ～Ⅱ（各4単位）から計4単位以上を履修し、合計24単位以上を履修する。

4-2 歴史資料科学コース（考古学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、日本史概説Ⅰ及び考古学概説Ⅰ（各2単位）計8単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から6単位以上を履修する。また、1年次に基盤科目から、博物館概論（2単位）を履修し、合計16単位以上を履修する。

<2～4年次>

考古学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に博物館資料論（2単位）2単位を履修し、考古学概説Ⅱ、歴史資料科学実習AⅠ～BⅡ（各2単位）から計8単位以上履修し、合計10単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～4年次に歴史資料科学演習BⅠ～BⅣ（各2単位）及び歴史資料科学野外実習BⅠ～Ⅱ（各4単位）の計16単位以上を履修し、歴史資料科学演習AⅠ～Ⅳ、歴史資料科学特殊講義AⅠ～Ⅵ（各2単位）及び歴史資料科学野外実習A（4単位）から計4単位以上、歴史資料科学特殊講義BⅠ～Ⅶ（各2単位）から計4単位以上を履修し、合計24単位以上を履修する。

5-1 超域歴史学コース（アジア史学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、アジア史概説Ⅰ、西洋史概説Ⅰ及び文化史概説Ⅰ（各2単位）計10単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から4単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

アジア史学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次にアジア史概説Ⅱ、超域歴史学基礎演習C及び超域歴史学講義C（各2単位）計6単位を履修する。また、この他に基盤科目（各2単位）から4単位以上履修し、合計10単位以上履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に超域歴史学演習C-I～IV（各2単位）から4単位以上、超域歴史学特殊講義C-I～Ⅲ（各2単位）から4単位以上、この他に展開科目（各2単位）から8単位以上履修し、合計16単位以上を履修する。

5-2 超域歴史学コース（西洋史学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、アジア史概説Ⅰ、西洋史概説Ⅰ及び文化史概説Ⅰ（各2単位）計10単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から4単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

西洋史学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に西洋史概説Ⅱ（2単位）を履修し、超域歴史学基礎演習D-I～Ⅱ（各2単位）から2単位以上、超域歴史学講義D-I～Ⅱ（各2単位）から2単位以上履修する。この他に基盤科目（各2単位）から4単位以上履修し、合計10単位以上履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に超域歴史学演習D-I～Ⅶ（各2単位）から計4単位以上、超域歴史学特殊講義D-I～Ⅳ（各2単位）から2単位以上履修する。この他に展開科目（各2単位）から計10単位以上を履修し、合計16単位以上履修する。

5-3 超域歴史学コース（文化史学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、アジア史概説Ⅰ、西洋史概説Ⅰ及び文化史概説Ⅰ（各2単位）計10単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から4単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

文化史学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に文化史概説Ⅱ（2単位）を履修し、超域歴史学基礎演習E-I～Ⅱ（各2単位）から2単位以上、超域歴史学講義E-I～Ⅱ（各2単位）から2単位以上履修する。この他に基盤科目（各2単位）から4単位以上履修し、合計10単位以上履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に超域歴史学演習E-I～Ⅳ（各2単位）から4単位以上、超域歴史学特殊講義E-I～Ⅳ（各2単位）から4単位以上履修する。この他に展開科目（各2単位）から8単位以上履修し、合計16単位以上履修する。

6-1 東アジア言語文化コース（日本語日本文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、1年次に文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目（各2単位）から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

日本語日本文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に中国文学史Ⅰ（2単位）を履修する。日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本文学概論Ⅰ・Ⅱ（各2単位）から計8単位を履修し、合計10単位を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）計2単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅱ、課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計12単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に日本語学基礎演習Ⅰ～Ⅱ、日本語学演習Ⅰ～Ⅱ、日本語学特殊講義Ⅰ～Ⅲ、日本文学基礎演習Ⅰ～Ⅱ、日本文学演習Ⅰ～Ⅲ、日本文学特殊講義Ⅰ～Ⅲ（各2単位）から計20単位以上を履修

6-2 東アジア言語文化コース（中国語中国文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目（各2単位）から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

中国語中国文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に中国文学史Ⅰ（2単位）を履修する。中国文学史Ⅱ、中国語学概論、中国語会話、中国語作文（各2単位）から計8単位を履修し、合計10単位を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）計2単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅱ、課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計12単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に中国語中国文学演習A1～C4、中国語中国文学特殊講義Ⅰ～Ⅲ（各2単位）から計20単位以上を履修

7-1 欧米言語文化学コース（英語英米文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

英語英米文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に英語学概論、英文学史Ⅰ及び英会話並びに3年次開講の英文学史Ⅱ及び英作文（各2単位）から計8単位以上、独文学史及び仏文学史（各2単位）から2単位以上の合計10単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）計2単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅱ、課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計12単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に英語学演習A～B、英文学演習A～B、米文学演習A～B、英文学特殊講義、米文学特殊講義A～B（各2単位）から計16単位以上を履修

7-2 欧米言語文化学コース（独語独文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

独語独文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に独語学概論、独文学史、独語独文学基礎演習A1～A2（各2単位）の計8単位、英文学史Ⅰ、仏文学史及び3年次開講の英文学史Ⅱ（各2単位）から2単位以上の合計10単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）計2単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅱ、課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計12単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に独語独文学演習A1～A2、独語独文学演習B1～B2、独語独文学特殊講義A～C、ドイツ語圏文化論演習（各2単位）の計16単位を履修

7-3 欧米言語文化学コース（仏語仏文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

仏語仏文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に仏文学史、仏語仏文学基礎演習A1～A2（各2単位）の計6単位を履修し、英文学史Ⅰ、英文学史Ⅱ、独文学史（各2単位）から2単位以上、英会話、独語学概論、独語独文学基礎演習A1～A2及び3年次開講の英作文（各2単位）から2単位以上履修し、合計10単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）2単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅱ（2単位）、課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計12単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に仏語仏文学演習A1～A2、仏語仏文学演習B1～B4、仏語仏文学演習C1～C2、仏語仏文学特殊講義A～B、フランス語圏文化論演習（各2単位）から計16単位以上を履修

8-1 多言語文化学コース（比較文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

比較文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に比較文学概論Ⅰ、国際文化学概論（各2単位）の計4単位を履修し、比較文学概論Ⅱ、比較文学基礎演習Ⅰ～Ⅲ（各2単位）から6単位以上の合計10単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に世界文学論、比較文学演習Ⅰ～Ⅱ、比較文学特殊講義Ⅰ～Ⅱ、国際文化学演習Ⅰ～Ⅱ、国際文化学特殊講義Ⅰ、日本文学特殊講義Ⅰ～Ⅲ、英文学特殊講義、米文学特殊講義A～B、独語独文学演習B1～B2、独語独文学特殊講義A～C、仏語仏文学演習B1～B4、仏語仏文学特殊講義A～B（各2単位）から計16単位以上を履修

8-2 多言語文化学コース（国際文化学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

国際文化学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に比較文学概論Ⅰ、国際文化学概論（各2単位）の計4単位を履修し、比較文学概論Ⅱ、比較文学基礎演習Ⅰ、国際文化学基礎演習Ⅰ～Ⅱ（各2単位）から6単位以上の合計10単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に世界文学論、比較文学演習Ⅰ、比較文学特殊講義Ⅰ、国際文化学演習Ⅰ～Ⅲ、外国語演習A1～C2、国際文化学特殊講義Ⅰ～Ⅲ、中国語中国文学演習C2、英語学演習A、独語独文学演習B1、独語独文学特殊講義C、仏語仏文学演習B1～B4（各2単位）から計16単位以上を履修

9-1 現代文化資源学コース（現代文化資源学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び現代文化資源学入門（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から10単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

現代文化資源学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に現代文化資源学基礎演習Ⅰ～Ⅱ、現代文化資源学概論Ⅰ～Ⅱ（各2単位）の計8単位を履修し、メディア論、現代文化資源学実習A～B（各2単位）から4単位以上の合計12単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に現代文化資源学コース開講の展開科目（課題研究Ⅰ～Ⅲ及び卒業論文を除く。）（各2単位）から計16単位以上を履修

教育課程等の概要															
(【既設】文学部総合人間学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	英語A-1	1前・後		1				○						13	
	英語A-2	1前・後		1				○						15	
	英語B-1	1前・後		1				○						15	
	英語B-2	1前・後		1				○						16	
	英語e	1前・後		1				○						9	
	英語C-1	2前		1				○						17	
	英語C-2	2後		1				○						10	
	ドイツ語A-1	1前			1			○						3	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1			○						2	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1			○						3	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1			○						3	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1			○						3	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1			○						3	選択必修
	フランス語A-1	1前			1			○						1	選択必修
	フランス語A-2	1後			1			○						1	選択必修
	フランス語B-1	1前			1			○						1	選択必修
	フランス語B-2	1後			1			○						1	選択必修
	フランス語C-1	2前			1			○						2	選択必修
	フランス語C-2	2後			1			○						2	選択必修
	中国語A-1	1前			1			○						5	選択必修
	中国語A-2	1後			1			○						5	選択必修
	中国語B-1	1前			1			○						4	選択必修
	中国語B-2	1後			1			○						4	選択必修
	中国語C-1	2前			1			○						2	選択必修
	中国語C-2	2後			1			○						2	選択必修
	コリア語A-1	1前			1			○						2	選択必修
	コリア語A-2	1後			1			○						2	選択必修
	コリア語B-1	1前			1			○						1	選択必修
	コリア語B-2	1後			1			○						1	選択必修
	コリア語C-1	2前			1			○						1	選択必修
	コリア語C-2	2後			1			○						1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1			○						1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○						1	
	日本語B-1	1・2前			1			○						1	
	日本語B-2	1・2後			1			○						1	
	日本語D-1	1・2前			1			○						2	
	日本語D-2	1・2後			1			○						2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○						1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○						1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○						1	
	ドイツ語 II-2	2後			1			○						1	
	フランス語 I-1	1前			1			○						1	
	フランス語 I-2	1後			1			○						1	
	フランス語 III-1	2前			1			○						1	
	フランス語 III-2	2後			1			○						1	
	中国語 I-1	1前			1			○						1	
	中国語 I-2	1後			1			○						1	
	コリア語 I-1	1前			1			○						1	
	コリア語 I-2	1後			1			○						1	
	コリア語 II-1	2前			1			○						1	
	コリア語 II-2	2後			1			○						1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○						1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○						1	
	ラテン語 I-1	1前			1			○						1	
	ラテン語 I-2	1後			1			○						1	
	スペイン語 I-1	1前			1			○						1	
	スペイン語 I-2	1後			1			○						1	
	スペイン語 II-1	2前			1			○						1	
	スペイン語 II-2	2後			1			○						1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○						1	
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○						1	
	イタリア語 I-1	1前			1			○						1	
	イタリア語 I-2	1後			1			○						1	

教養科目	地域づくりと科学技術	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○			1						4	
	ものづくりの科学と技術	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									6	
	暮らしと情報・通信技術	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									3	
	健康の科学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	病気の医科学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	臨床医学の最前線	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	現代社会と医学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1	
	心身の健康と看護	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									3	
	医療における理工学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1	
	現代の医学検査	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1	
	現代医療と生命科学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	薬科学入門	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	現代社会と薬学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	現代教育について考える	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									5	
	心理学の探求	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○		1								
	芸術への招待	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	現代と言語	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	現代と文学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1	
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1	
	現代社会と経済	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									5	
	現代の政治	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									2	
	学際科目	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									3	
	M u l t i S d i u s c i p l i n a r y	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									3
		Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1
		Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									5
		World History	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1
		Area Studies	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									4
Comprehensive English Communication		1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1	
Global Career Development		1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									1	
ボ ー テ ィ コ 目 ス キ ョ ウ 学	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・④		1	○									5	
キャリア科目	キャリア科目	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									6	
開放科目	開放科目	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○									6	
小計 (62科目)		-	-	0	62~123	0	-	8	5	0	0	0	0	143	
教 職	ボ ー テ ィ コ 目 ス キ ョ ウ 学	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・④		1	○								6	

1 科目	日本国憲法 科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後			2		○								2	
	小計 (2科目)		-	-	0	3	0	-		0	0	0	0	0	0	8	
専門 基礎 科目	文章作成演習		1後	○	2			○		8	6					9	
	英語コミュニケーション		2前			2		○								1	
	哲学概論 I		1前	○		2		○				1					
	心理学概論		1前	○		2		○		1							
	倫理学概論		1前	○		2		○		1							
	社会学概論		1後	○		2		○		1							
	文化人類学概論		1後	○		2		○								1	
	地域社会学概論 I		1後	○		2		○		1	1						
	民俗学概論 I		1後	○		2		○		1							
	地理学概論		1前	○		2		○		1							
	実践英語		2後			2		○								1	
	ギリシア語A		2前			2		○								1	
	ギリシア語B		2後			2		○								1	
	コリア語a		2前			2		○								1	
コリア語b		2後			2		○								1		
キャリア支援		2前			2		○								1		
人間科学 コース	基礎 科目	人間科学基礎演習		2前	○	2		○			1						
		論理学		2前	○		2		○			1					
		哲学概論IIA		2後	○		2		○			1					
		哲学概論IIB		2後	○		2		○			1					
		哲学演習 I A		2前	○		2		○			1					
		哲学演習 I B		2後	○		2		○			1					
		知覚・認知心理学		2後	○		2		○		1						
		心理学研究法		2後	○		2		○		1						
		心理学統計法		2前	○		2		○			1					
		心理学演習 I		2後	○		2		○		1						
		哲学特殊講義A		3後			2		○			1					
		哲学特殊講義B		3後			2		○			1					
	哲学特殊講義C		3前・後			2		○			1						
	哲学特殊講義D		2前			2		○								1	
	哲学特殊講義E		2前			2		○								1	
	哲学特殊講義F		2前・後			2		○								1	
	哲学特殊講義G		2前・後			2		○			1						
	哲学演習IIA		3前			2		○			1						
	哲学演習IIB		3後			2		○			1						
	哲学演習IIC		3後			2		○			1						
	哲学演習IID		3前			2		○			1						
	神経・生理心理学		2前			2		○			1						
	心理学特殊講義A		2前・後			2		○								1	
	心理学特殊講義B		2前・後			2		○								1	
	心理学特殊講義C		2前・後			2		○			1						
	心理学演習IIA-1		3前			2		○		1							
	心理学演習IIA-2		3後			2		○		1							
	心理学演習IIA-3		3前			2		○		1							
	心理学演習IIA-4		3後			2		○		1							
	心理学演習IIB-1		3前			2		○			1						
	心理学演習IIB-2		3後			2		○			1						
	心理学演習IIB-3		3前			2		○			1						
	心理学演習IIB-4		3後			2		○			1						
	心理学演習IIC-1		3後			2		○		1							
	心理学実験 I		3前			2		○		1							
	心理学実験 II		3後			2		○		1							
	人間科学上級演習A		4前			2		○			1						
	人間科学上級演習B		4前			2		○			1						
	社会人間学特殊講義A-I		2前			2		○		1							
	社会人間学特殊講義A-II		2前			2		○								1	
	社会人間学特殊講義A-III		2前・後			2		○		1							
	社会人間学特殊講義A-IV		2前			2		○								1	
社会人間学特殊講義A-V		2前			2		○								1		
社会人間学特殊講義A-VI		2前			2		○								1		
社会人間学特殊講義A-VII		2前			2		○		1								
社会人間学特殊講義A-VIII		2前			2		○								1		
社会人間学特殊講義A-IX		2前			2		○								1		
社会人間学特殊講義B-I		2通			2		○		1								
社会人間学特殊講義B-II		2前			2		○								1		
社会人間学特殊講義B-III		2後			2		○		1								
社会人間学特殊講義B-IV		2前			2		○								1		
社会人間学特殊講義B-V		2後			2		○								1		
社会人間学特殊講義B-VI		2前・後			2		○			1							
課題研究 I		3前	○	2			○		7	5							
課題研究 II		3後	○	2			○		7	4							

			課題研究Ⅲ	4前	○	2			○		7	5							
			卒業論文	4通	○	8			○		4	5							
専門教育	社会人間学コース	基盤科目	社会調査法概説	2前	○	2			○			1							
			社会人間学特殊講義A-I	2前	○	2			○		1								
			社会人間学特殊講義A-II	2前	○	2			○										1
			社会人間学特殊講義A-III	2前・後	○	2			○		1								
			社会人間学特殊講義A-IV	2前	○	2			○										1
			社会人間学特殊講義A-V	2前	○	2			○										1
			社会人間学特殊講義A-VI	2前	○	2			○										1
			社会人間学特殊講義A-VII	2前	○	2			○		1								
			社会人間学特殊講義A-VIII	2前	○	2			○										1
			社会人間学特殊講義A-IX	2前	○	2			○										1
			社会人間学特殊講義B-I	2通	○	2			○		1								
			社会人間学特殊講義B-II	2前	○	2			○										1
			社会人間学特殊講義B-III	2後	○	2			○		1								
			社会人間学特殊講義B-IV	2前	○	2			○										1
		社会人間学特殊講義B-V	2後	○	2			○										1	
		社会人間学特殊講義B-VI	2前・後	○	2			○					1						
		社会人間学演習	2前	○	2			○		1									
		社会調査実習Ⅰ	3前							○		2							
		社会調査実習Ⅱ	3後							○		2							
		倫理学演習A-I	3前							○		1							
		倫理学演習A-II	3前							○		1							
		倫理学演習B-I	3前・後							○					1				
		倫理学演習B-II	3前							○					1				
		倫理学応用演習A-I	3後							○		1							
		倫理学応用演習A-II	3後							○		1							
		倫理学応用演習B-I	3後							○					1				
		倫理学応用演習B-II	3後							○					1				
	社会学演習A-I	3前							○		1								
	社会学演習A-II	3後							○		1								
	社会学演習A-III	4前							○		1								
	社会学演習A-IV	4後							○		1								
	社会学演習B-I	3前							○		1								
	社会学演習B-II	3後							○		1								
	社会学演習B-III	4前							○		1								
	社会学演習B-IV	4後							○		1								
	社会学演習C-I	3前							○		1								
	社会学演習C-II	3後							○		1								
	社会学演習C-III	4前							○		1								
	社会学演習C-IV	4後							○		1								
	現代社会分析演習	3前							○		1								
	文化人類学演習Ⅰ	3前							○		1								
	文化人類学演習Ⅱ	3後							○		1								
	文化人類学演習Ⅲ	3前							○		1								
	文化人類学演習Ⅳ	3後							○		1								
	文化人類学応用演習Ⅰ	3前							○		1								
文化人類学応用演習Ⅱ	3後							○		1									
文化人類学応用演習Ⅲ	3前							○		1									
文化人類学応用演習Ⅳ	3後							○		1									
社会人間学応用演習A-I	4後							○		1									
社会人間学応用演習A-II	4後							○		1									
社会人間学応用演習B	4前							○		1									
課題研究Ⅰ	3前	○	2					○		7	5								
課題研究Ⅱ	3後	○	2					○		7	4								
課題研究Ⅲ	4前	○	2					○		7	5								
卒業論文	4通	○	8					○		4	5								
専門教育	基盤科目	社会調査法概説	2前	○		2			○			1							
		地理調査法概説	2後	○		2			○		1								
		人文地理学	2後	○		2			○		1								
		地域社会学概論Ⅱ	2前	○		2			○				1						
		民俗学概論Ⅱ	2前	○		2			○				1						
		基層文化論演習	2後	○		2			○				1						
		地域社会分析演習	2後	○		2			○				1						
		自然地理学Ⅰ	2前	○		2			○				1						
		地域文化論演習	2後	○		2			○		1								
		地誌学	2後	○		2			○									1	
		社会調査実習A1	3前	○		2			○				1					選択必修	
		社会調査実習A2	3後	○		2			○				1					選択必修	
	社会調査実習B1	3前	○		2			○		1							選択必修		
	社会調査実習B2	3後	○		2			○				1					選択必修		
	地理調査実習1	3前	○		2			○		1							選択必修		
	地理調査実習2	3後	○		2			○		1							選択必修		
	社会学演習A-I	3前			2			○		1									
	社会学演習A-II	3後			2			○		1									
社会学演習A-III	4前			2			○		1										

		社会学演習A-IV	4後		2		○	1								
		社会学演習B-I	3前		2		○	1								
		社会学演習B-II	3後		2		○	1								
		社会学演習B-III	4前		2		○	1								
		社会学演習B-IV	4後		2		○	1								
		社会学演習C-I	3前		2		○	1								
		社会学演習C-II	3後		2		○	1								
		社会学演習C-III	4前		2		○	1								
		社会学演習C-IV	4後		2		○	1								
		自然地理学II	3後		2		○		1							
		地域科学特殊講義A1	2後		2		○								1	
		地域科学特殊講義A2	2前・後		2		○		1							
		地域科学特殊講義B1	3後		2		○	1								
		地域科学特殊講義B2	2前・後		2		○								1	
		地域科学特殊講義B3	2前・後		2		○								1	
		地域科学特殊講義B4	2前		2		○								1	
		地域科学特殊講義C1	2前・後		2		○								1	
		地域科学特殊講義C2	2前・後		2		○		1							
		社会人間学特殊講義A-I	2前		2		○	1								
		社会人間学特殊講義A-II	2前		2		○								1	
		社会人間学特殊講義A-III	2前・後		2		○		1							
		社会人間学特殊講義A-IV	2前		2		○								1	
		社会人間学特殊講義A-V	2前		2		○								1	
		社会人間学特殊講義A-VI	2前		2		○								1	
		社会人間学特殊講義A-VII	2前		2		○	1								
		社会人間学特殊講義A-VIII	2前		2		○								1	
		社会人間学特殊講義A-IX	2前		2		○								1	
		社会人間学特殊講義B-I	2通		2		○	1								
		社会人間学特殊講義B-II	2前		2		○								1	
		社会人間学特殊講義B-III	2後		2		○	1								
		社会人間学特殊講義B-IV	2前		2		○								1	
		社会人間学特殊講義B-V	2後		2		○								1	
		社会人間学特殊講義B-VI	2前・後		2		○		1							
		地域科学演習A1	3通		4		○		1							
		地域科学演習A2	4通		4		○		1							
		地域科学演習B1	3通		4		○		1							
		地域科学演習B2	4通		4		○		1							
		地域科学演習C1	3通		4		○	1								
		地域科学演習C2	3通		4		○	1								
		地域科学演習C3	4通		4		○	1								
		地域科学演習C4	4通		4		○	1								
		地域科学応用演習	4前		2		○	1								
		地域分析論演習	3前		2		○	1								
		課題研究I	3前	○	2		○	7	5							
		課題研究II	3後	○	2		○	7	4							
		課題研究III	4前	○	2		○	7	5							
		卒業論文	4通	○	8		○	4	5							
		小計 (194科目)	-	-	50	372	0	-	9	7	0	0	0	0	33	
		合計 (329科目)	-	-	61	499~560	0	-	9	7	0	0	0	0	231	
		学位又は称号	学士 (文学)			学位又は学科の分野			文学関係							
		卒業要件及び履修方法	授業期間等													
		4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目33単位以上、専門教育科目91単位以上、合計124単位を修得した者を卒業と認定する。	1学年の学期区分											2期		
		①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から16単位、合計33単位を修得すること。	1学期の授業期間											15週		
		②専門教育科目の専門基礎科目から必修科目2単位、選択科目から12単位、合計14単位を修得すること。	1時限の授業時間											90分		
		③3つのコースで開講されている科目の中から、 【人間科学コース】 人間科学コース専門科目の基盤科目から10単位 (必修2単位を含む)、展開科目から30単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。 【社会人間学コース】 社会人間学コース専門科目の基盤科目から14単位 (必修4単位を含む)、展開科目から28単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。 【地域科学コース】 地域科学コース専門科目の基盤科目から12単位、展開科目から28単位 (必修14単位及び選択必修から4単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。														

教 育 課 程 等 の 概 要

（【既設】文学部歴史学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員
	英語A-1	1前・後		1				○							13	
	英語A-2	1前・後		1				○							15	
	英語B-1	1前・後		1				○							15	
	英語B-2	1前・後		1				○							16	
	英語e	1前・後		1				○							9	
	英語C-1	2前		1				○							17	
	英語C-2	2後		1				○							10	
	ドイツ語A-1	1前			1			○							3	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1			○							3	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1			○							3	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1			○							3	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1			○							3	選択必修
	フランス語A-1	1前			1			○							1	選択必修
	フランス語A-2	1後			1			○							1	選択必修
	フランス語B-1	1前			1			○							1	選択必修
	フランス語B-2	1後			1			○							1	選択必修
	フランス語C-1	2前			1			○							2	選択必修
	フランス語C-2	2後			1			○							2	選択必修
	中国語A-1	1前			1			○							5	選択必修
	中国語A-2	1後			1			○							5	選択必修
	中国語B-1	1前			1			○							4	選択必修
	中国語B-2	1後			1			○							4	選択必修
	中国語C-1	2前			1			○							2	選択必修
	中国語C-2	2後			1			○							2	選択必修
	コリア語A-1	1前			1			○							2	選択必修
	コリア語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	コリア語B-1	1前			1			○							1	選択必修
	コリア語B-2	1後			1			○							1	選択必修
	コリア語C-1	2前			1			○							1	選択必修
	コリア語C-2	2後			1			○							1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1			○							1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○							1	
	日本語B-1	1・2前			1			○							1	
	日本語B-2	1・2後			1			○							1	
	日本語D-1	1・2前			1			○							2	
	日本語D-2	1・2後			1			○							2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○							1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○							1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○							1	
	ドイツ語 II-2	2後			1			○							1	
	フランス語 I-1	1前			1			○							1	
	フランス語 I-2	1後			1			○							1	
	フランス語 III-1	2前			1			○							1	
	フランス語 III-2	2後			1			○							1	
	中国語 I-1	1前			1			○							1	
	中国語 I-2	1後			1			○							1	
	コリア語 I-1	1前			1			○							1	
	コリア語 I-2	1後			1			○							1	
	コリア語 II-1	2前			1			○							1	
	コリア語 II-2	2後			1			○							1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○							1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○							1	
	ラテン語 I-1	1前			1			○							1	
	ラテン語 I-2	1後			1			○							1	
	スペイン語 I-1	1前			1			○							1	
	スペイン語 I-2	1後			1			○							1	
	スペイン語 II-1	2前			1			○							1	
	スペイン語 II-2	2後			1			○							1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○							1	
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○							1	
	イタリア語 I-1	1前			1			○							1	
	イタリア語 I-2	1後			1			○							1	

基礎科目

外国語科目

3 科 目	日本国憲法 科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2	○									2		
	小計 (2科目)		-	-	0	3	0	-	0	0	0	0	0	0	8		
専 門 基 礎 科 目	専 門 基 礎 科 目	文章作成演習	1後	○	2		○		2	4					17		
		史学概論	1前	○	2		○		1								
		日本史概説 I	1後	○	2		○		1								
		考古学概説 I	1後	○	2		○				1						
		アジア史概説 I	1前	○	2		○				1						
		西洋史概説	1後	○	2		○				1						
		文化史概説 I	1後	○	2		○				1						
		英語コミュニケーション	2前		2			○								1	
		実践英語	2後		2			○								1	
		ギリシア語A	2前		2			○								1	
		ギリシア語B	2後		2			○								1	
		ロシア語a	2前		2				○							1	
		ロシア語b	2後		2				○							1	
		キャリア支援	2前		2				○							1	
	専 門 教 育	基 盤 科 目	日本史概説 II	2前	○	2		○		1	1						
			考古学概説 II	2前	○	2		○		1							
			歴史資料学実習A-I	2前	○	2							○				1
			歴史資料学実習A-II	2後	○	2					1	1					
			歴史資料学実習B-I	2前	○	2						1					
			歴史資料学実習B-II	2後	○	2						1					
			博物館概論	1前	○	2			○								1
			博物館資料論	2前	○	2			○								1
			心理学統計法	2前	○	2			○								1
			心理学演習 I	2後	○	2				○							1
			展 開 科 目	歴史資料学演習A-I	2前		2			○		1					
				歴史資料学演習A-II	2後		2			○		1	1				
		歴史資料学演習A-III		3前		2			○			1					
		歴史資料学演習A-IV		3後		2			○		1						
		歴史資料学演習B-I		3前		2			○		1						
		歴史資料学演習B-II		3後		2			○		1						
		歴史資料学演習B-III		2前		2			○		1						
		歴史資料学演習B-IV		2後		2			○				1				
		歴史資料学特殊講義A-I		2前		2			○		1	1					
		歴史資料学特殊講義A-II		3前		2			○		1						
		歴史資料学特殊講義A-III		3前		2			○			1					
		歴史資料学特殊講義A-IV		3前		2			○							1	
		歴史資料学特殊講義A-V		3前・後		2			○		1	1					
		歴史資料学特殊講義A-VI		3前・後		2			○		2	1				1	
		歴史資料学特殊講義B-I		2前		2			○							1	
		歴史資料学特殊講義B-II		2前・後		2			○							1	
歴史資料学特殊講義B-III		3前・後			2			○							1		
歴史資料学特殊講義B-IV		3前			2			○		1							
歴史資料学特殊講義B-V		3後			2			○			1						
歴史資料学特殊講義B-VI		3前			2			○		1							
歴史資料学特殊講義B-VII		3前・後			2			○			1	1					
歴史資料学野外実習A		3通			4				○		1						
歴史資料学野外実習B-I		2通			4				○		1	1					
歴史資料学野外実習B-II		3通			4				○		1	1					
課題研究 I		3前	○	2				○		4	4						
課題研究 II		3後	○	2				○		4	4						
課題研究 III	4前	○	2				○		2	5							
卒業論文	4通	○	8				○		2	4							
世 界	基 盤 科 目	アジア史概説 II	2前	○	2		○								1		
		世界システム史概説	2前	○	2		○				1						
		文化史概説 II	2前	○	2			○		1					1		
		世界システム史基礎演習C	2前・後	○	2			○		1							
		世界システム史基礎演習D-I	2前	○	2			○			1						
		世界システム史基礎演習D-II	2前・後	○	2			○			1						
		世界システム史基礎演習E-I	2前	○	2			○			1						
		世界システム史基礎演習E-II	2後	○	2			○		1					1		
		世界システム史講読C	2前・後	○	2			○			1						
		世界システム史講読D-I	2後	○	2			○			1						
		世界システム史講読D-II	2後	○	2			○			1						
		世界システム史講読E-I	2前	○	2			○			1						
		世界システム史講読E-II	2後	○	2			○		1					1		
		世界システム史演習C-I	3後		2				○			1					
世界システム史演習C-II	3前		2				○		1								
世界システム史演習C-III	3後		2				○			1							
世界システム史演習C-IV	3前		2				○		1								
世界システム史演習D-I	3前		2				○			1							
世界システム史演習D-II	3後		2				○			1							

オムニバス

システム史学コース	専門科目	世界システム史演習D-III	3前・後			2			○		1						
		世界システム史演習D-IV	3前			2			○		1						
		世界システム史演習D-V	3後			2			○		1						
		世界システム史演習D-VI	3前・後			2			○		1						
		世界システム史演習D-VII	3前・後			2			○		1						
		世界システム史演習E-I	3後			2			○		1						
		世界システム史演習E-II	3後			2			○		1						
		世界システム史演習E-III	3前			2			○							1	
		世界システム史演習E-IV	3前			2			○							1	
		世界システム史特殊講義C-I	3前			2			○		1						
	世界システム史特殊講義C-II	3後			2			○	1								
	世界システム史特殊講義C-III	2前			2			○							1		
	世界システム史特殊講義D-I	2前			2			○		1							
	世界システム史特殊講義D-II	3後			2			○		1							
	世界システム史特殊講義D-III	3前			2			○		1							
	世界システム史特殊講義D-IV	2前・後			2			○							1		
	世界システム史特殊講義E-I	3前			2			○		1							
	世界システム史特殊講義E-II	2前			2			○							1		
	世界システム史特殊講義E-III	3後			2			○							1		
	世界システム史特殊講義E-IV	2前			2			○							1		
課題研究Ⅰ	3前	○	2				○		4	4							
課題研究Ⅱ	3後	○	2				○		4	5							
課題研究Ⅲ	4前	○	2				○		2	5							
卒業論文	4通	○	8				○		2	4							
小計 (95科目)		-	-	30	178	0	-	-	5	6	0	0	0	0	32		
合計 (230科目)		-	-	41	305~366	0	-	-	5	6	0	0	0	0	227		
学位又は称号		学士 (文学)			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
<p>4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目33単位以上、専門教育科目91単位以上、合計124単位を修得した者を卒業と認定する。</p> <p>①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から16単位、合計33単位を修得すること。</p> <p>②専門教育科目の専門基礎科目から必修科目2単位、選択科目から12単位、合計14単位を修得すること。</p> <p>③2つのコースで開講されている科目の中から、 【歴史資料学コース】 歴史資料学コース専門科目の基盤科目から12単位、展開科目から38単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。 【世界システム史学コース】 世界システム史学コース専門科目の基盤科目から10単位 (必修4単位を含む)、展開科目から30単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。</p>										1 学年の学期区分		2 期					
										1 学期の授業期間		1 5 週					
										1 時限の授業時間		9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要

（【既設】文学部文学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員
	英語A-1	1前・後		1				○		1					12	
	英語A-2	1前・後		1				○			1				14	
	英語B-1	1前・後		1				○							15	
	英語B-2	1前・後		1				○		1	1				14	
	英語e	1前・後		1				○		1	1				7	
	英語C-1	2前		1				○		2	1				14	
	英語C-2	2後		1				○		1	1				8	
	ドイツ語A-1	1前			1			○		1					2	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1			○		1					2	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1			○		1					2	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1			○		2					2	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1			○		2					1	選択必修
	フランス語A-1	1前			1			○			1					選択必修
	フランス語A-2	1後			1			○			1					選択必修
	フランス語B-1	1前			1			○		1						選択必修
	フランス語B-2	1後			1			○								選択必修
	フランス語C-1	2前			1			○			1			1		選択必修
	フランス語C-2	2後			1			○			1			1		選択必修
	中国語A-1	1前			1			○		1	2				2	選択必修
	中国語A-2	1後			1			○		1	2				2	選択必修
	中国語B-1	1前			1			○		1	2				2	選択必修
	中国語B-2	1後			1			○		1	2				1	選択必修
	中国語C-1	2前			1			○			1				1	選択必修
	中国語C-2	2後			1			○			1				1	選択必修
	コリア語A-1	1前			1			○							2	選択必修
	コリア語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	コリア語B-1	1前			1			○							1	選択必修
	コリア語B-2	1後			1			○							1	選択必修
	コリア語C-1	2前			1			○			1				1	選択必修
	コリア語C-2	2後			1			○			1				1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1			○							1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○							1	
	日本語B-1	1・2前			1			○							1	
	日本語B-2	1・2後			1			○							1	
	日本語D-1	1・2前			1			○							2	
	日本語D-2	1・2後			1			○							2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○							1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○							1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○		1						
	ドイツ語 II-2	2後			1			○		1						
	フランス語 I-1	1前			1			○		1						
	フランス語 I-2	1後			1			○		1						
	フランス語 III-1	2前			1			○			1					
	フランス語 III-2	2後			1			○		1						
	中国語 I-1	1前			1			○							1	
	中国語 I-2	1後			1			○							1	
	コリア語 I-1	1前			1			○							1	
	コリア語 I-2	1後			1			○							1	
	コリア語 II-1	2前			1			○							1	
	コリア語 II-2	2後			1			○							1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○							1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○							1	
	ラテン語 I-1	1前			1			○							1	
	ラテン語 I-2	1後			1			○							1	
	スペイン語 I-1	1前			1			○							1	
	スペイン語 I-2	1後			1			○							1	
	スペイン語 II-1	2前			1			○							1	
	スペイン語 II-2	2後			1			○							1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○							1	
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○							1	
	イタリア語 I-1	1前			1			○							1	
	イタリア語 I-2	1後			1			○							1	

基礎科目

外国語科目

科目	日本国憲法 科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2	○									2
	小計 (2科目)		-	-	0	3	0	-	0	0	0	0	0	0	8
科目	専門 基礎 科目	文章作成演習	1後	○	2		○		3						20
		日本語日本文学入門	1前	○		2	○		1						
中国語圏文化論		1前	○		2	○				1					
英語圏文化論		1前	○		2	○			1						
ドイツ語圏・フランス語圏文化論		1後	○		2	○					1				
比較文学・国際文化学入門		1後	○		2	○			3		1				
英語コミュニケーション		2前			2		○								1
実践英語		2後			2		○								1
ギリシア語A		2前			2		○								1
ギリシア語B		2後			2		○								1
ロシア語a		2前			2		○								1
ロシア語b	2後			2		○								1	
キャリア支援	2前			2		○								1	
科目	基 盤 科 目	日本語学概論Ⅰ	2前	○		2	○		1						1
		日本語学概論Ⅱ	2前	○		2	○								
日本文学概論Ⅰ		2前	○		2	○			1						
日本文学概論Ⅱ		2前	○		2	○				1					
中国文学史Ⅰ		2前	○		2	○				1					
中国文学史Ⅱ		2後	○		2	○				1					
中国語学概論		2後	○		2	○				1					
中国語会話		2前	○		2	○				1					
中国語作文		2後	○		2	○				1					
科目	東 ア ジ ア 言 語 文 学 コ ー ス	専 門 科 目	日本語学基礎演習Ⅰ	2後			2		○		1				
			日本語学基礎演習Ⅱ	2後			2		○		1				
日本語学演習Ⅰ			3前			2		○		1					
日本語学演習Ⅱ			3後			2		○		1					
日本語学特殊講義Ⅰ			2後			2		○		1					
日本語学特殊講義Ⅱ			2前・後			2		○		1					
日本語学特殊講義Ⅲ			3前			2		○		1					
日本文学基礎演習Ⅰ			2後			2		○		1					
日本文学基礎演習Ⅱ			2後			2		○			1				
日本文学演習Ⅰ			3前			2		○		1					
日本文学演習Ⅱ			3前			2		○			1				
日本文学演習Ⅲ			3後			2		○			1				
日本文学特殊講義Ⅰ			2後			2		○		1					
日本文学特殊講義Ⅱ			2前			2		○			1				
日本文学特殊講義Ⅲ			3後			2		○		1					
展 開 科 目		中国語中国文学演習A1	2前			2		○			1				
		中国語中国文学演習A2	2後			2		○			1				
		中国語中国文学演習A3	3前			2		○			1				
		中国語中国文学演習A4	3後			2		○			1				
		中国語中国文学演習B1	2前			2		○			1				
		中国語中国文学演習B2	2後			2		○			1				
		中国語中国文学演習B3	3前			2		○			1				
		中国語中国文学演習B4	3後			2		○			1				
		中国語中国文学演習C1	2前			2		○			1				
		中国語中国文学演習C2	2後			2		○			1				
		中国語中国文学演習C3	3前			2		○			1				
		中国語中国文学演習C4	3後			2		○			1				
		中国語中国文学特殊講義Ⅰ	2後			2		○			1				
		中国語中国文学特殊講義Ⅱ	3後			2		○			1				
		中国語中国文学特殊講義Ⅲ	2前			2		○			1				
		課題研究Ⅰ	3前	○	2			○		6	6				
		課題研究Ⅱ	3後	○	2			○		6	6				
		課題研究Ⅲ	4前	○	2			○		7	6				
卒業論文	4通	○	8			○		8	4						
科目	基 盤 科 目	英語学概論	2後	○		2	○								1
		英文学史Ⅰ	2後	○		2	○				1				
英文学史Ⅱ		3後	○		2	○				1					
英会話		2前	○		2	○			1						
英作文		3前	○		2	○			1						
独語学概論		2前	○		2	○			1						
独文学史		2後	○		2	○								1	
独語独文学基礎演習A1		2前	○		2		○		1						
独語独文学基礎演習A2		2後	○		2		○							1	
仏文学史		2前	○		2		○			1					
仏語仏文学基礎演習A1		2前	○		2		○		1						
仏語仏文学基礎演習A2		2後	○		2		○		1						
専 門		英語学演習A	2後			2		○							1
	英語学演習B	3後			2		○							1	
	英文学演習A	2前			2		○			1					

4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目33単位以上、専門教育科目91単位以上、合計124単位を修得した者を卒業と認定する。

①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から16単位、合計33単位を修得すること。

②専門教育科目の専門基礎科目から必修科目2単位、選択科目から12単位、合計14単位を修得すること。

③3つのコースで開講されている科目の中から、

【東アジア言語文学コース】 東アジア言語文学コース専門科目の基盤科目から10単位、展開科目から34単位（必修14単位を含む）を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。

【欧米言語文学コース】 欧米言語文学コース専門科目の基盤科目から10単位、展開科目から30単位（必修14単位を含む）を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。

【多言語文化学コース】 多言語文化学コース専門科目の基盤科目から10単位、展開科目から30単位（必修14単位及び選択必修から4単位を含む）を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。

1 学年の学期区分	2 期
1 学期の授業期間	1 5 週
1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要																
(【既設】文学部コミュニケーション情報学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員
	英語A-1	1前・後		1				○		1	1				12	
	英語A-2	1前・後		1				○		2	2				13	
	英語B-1	1前・後		1				○		1	2				14	
	英語B-2	1前・後		1				○		2	4				10	
	英語e	1前・後		1				○		2	2				5	
	英語C-1	2前		1				○		2	3				13	
	英語C-2	2後		1				○		1	2				7	
	ドイツ語A-1	1前			1			○							4	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1			○							3	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1			○							3	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1			○							3	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1			○							3	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1			○							3	選択必修
	フランス語A-1	1前			1			○							2	選択必修
	フランス語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	フランス語B-1	1前			1			○							1	選択必修
	フランス語B-2	1後			1			○							1	選択必修
	フランス語C-1	2前			1			○		1					1	選択必修
	フランス語C-2	2後			1			○		1					1	選択必修
	中国語A-1	1前			1			○							6	選択必修
	中国語A-2	1後			1			○							6	選択必修
	中国語B-1	1前			1			○							4	選択必修
	中国語B-2	1後			1			○							4	選択必修
	中国語C-1	2前			1			○							2	選択必修
	中国語C-2	2後			1			○							2	選択必修
	コリア語A-1	1前			1			○							2	選択必修
	コリア語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	コリア語B-1	1前			1			○							1	選択必修
	コリア語B-2	1後			1			○							1	選択必修
	コリア語C-1	2前			1			○							1	選択必修
	コリア語C-2	2後			1			○							1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1			○							1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○							1	
	日本語B-1	1・2前			1			○							1	
	日本語B-2	1・2後			1			○							1	
	日本語D-1	1・2前			1			○							2	
	日本語D-2	1・2後			1			○							2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○							1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○							1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○							1	
	ドイツ語 II-2	2後			1			○							1	
	フランス語 I-1	1前			1			○							1	
	フランス語 I-2	1後			1			○							1	
	フランス語 III-1	2前			1			○							1	
	フランス語 III-2	2後			1			○							1	
	中国語 I-1	1前			1			○							1	
	中国語 I-2	1後			1			○							1	
	コリア語 I-1	1前			1			○							1	
	コリア語 I-2	1後			1			○							1	
	コリア語 II-1	2前			1			○							1	
	コリア語 II-2	2後			1			○							1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○							1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○							1	
	ラテン語 I-1	1前			1			○							1	
	ラテン語 I-2	1後			1			○							1	
	スペイン語 I-1	1前			1			○							1	
	スペイン語 I-2	1後			1			○							1	
	スペイン語 II-1	2前			1			○							1	
	スペイン語 II-2	2後			1			○							1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○		1						
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○		1						
	イタリア語 I-1	1前			1			○							1	
	イタリア語 I-2	1後			1			○							1	

科目	日本国憲法 科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2	○										2
	小計 (2科目)		-	-	0	3	0	-	0	0	0	0	0	0	0	8
科目	専門基礎科目	文章作成演習	1後	○	2		○									3
		コミュニケーション情報学入門	1前	○		2	○		1							
		コミュニケーション論	1後	○		2	○		1							
		現代文化資源学入門	1前	○		2	○			1						
		英語コミュニケーション	2前	○		2		○	1							
		実践英語	2後	○		2		○	1							
		ギリシア語A	2前			2		○								1
		ギリシア語B	2後			2		○								1
		コリア語a	2前			2										1
		コリア語b	2後			2										1
		キャリア支援	2前			2		○								1
科目	基礎科目	論文作成演習	2前	○	2		○			1						
		メディア論	2後	○		2		○		1						
		情報社会論	2前	○		2		○								1
		情報技術応用演習A	2前	○		2		○								1
		情報技術応用演習B	2前	○		2		○								1
		英会話 I	2前	○		2			○	1						
		英作文 I	2前	○		2		○		1						
科目	専門科目	展開科目	異文化コミュニケーション論実習	2通		4			○	1						
			キャリアデザイン実習A	3前		2						1				
			キャリアデザイン実習B	3後		2			○							1
			コミュニケーション情報学演習A	2後		2			○	1						
			コミュニケーション情報学演習B	2後		2			○							1
			比較文化コミュニケーション論	2前		2			○							
			コミュニケーション情報学特殊講義A	2前		2			○							1
			コミュニケーション情報学特殊講義B	3後		2			○							1
			コミュニケーション情報学特殊講義C	3後		2			○							1
			マーケティング・コミュニケーション	3前		2				○						1
			スピーチ・コミュニケーション	3後		2				○				1		
			英会話 II	3前		2				○				1		
			英作文 II	3前		2			○					1		
			英語コミュニケーション論	3前		2			○					1		
			メディア英語研究	3後		2			○					1		
			課題研究 I	3前	○	2					5	11				
			課題研究 II	3後	○	2					5	11				
			課題研究 III	4前	○	2					5	11				
			課題研究 IV	4後	○	2					5	11				
			卒業論文	4通	○	8					5	11				
科目	基礎科目	論文作成演習	2前	○	2		○			1						
		メディア論	2後	○		2		○		1						
		英会話 I	2前	○		2			○	1						
		英作文 I	2前	○		2			○	1						
		現代文化資源学概論 I	2前	○		2			○					1		
		現代文化資源学概論 II	2前	○		2			○					1		
		言語学概論	2前	○		2								1		
		現代文化資源学実習A	3前	○		2								1		
		現代文化資源学実習B	3後	○		2								1		
		言語調査法実習A	2後	○		2								1		
		言語調査法実習B	2後	○		2								1		
科目	専門科目	展開科目	比較文化コミュニケーション論	2前		2			○					1		
			現代言語文化資源論A	3後		2			○						1	
			現代言語文化資源論B	3前		2			○					1		
			現代言語文化資源論C	3後		2			○					1		
			現代芸術文化論A	3後		2			○					2		
			現代芸術文化論B	3前		2			○					1		
			現代芸術文化論C	3後		2			○					1		
			現代芸術文化論D	3後		2			○					1		
			無形文化資源論	3前		2			○					1		
			記憶遺産論	2後		2			○					1		
			異文化コミュニケーション論実習	2通		4								1		
			キャリアデザイン実習A	3前		2								1		
			キャリアデザイン実習B	3後		2								1		
			スピーチ・コミュニケーション	3後		2								1		
			英会話 II	3前		2			○					1		
			英作文 II	3前		2			○					1		
			英語コミュニケーション論	3前		2			○					1		
			メディア英語研究	3後		2			○					1		
			課題研究 I	3前	○	2					5	11				
			課題研究 II	3後	○	2					5	11				
			課題研究 III	4前	○	2					5	11				
			課題研究 IV	4後	○	2					5	11				

			卒業論文	4通	○	8				○		5	11					
小計 (72科目)			-	-	38	122	0			-		5	11	0	0	0	7	
合計 (207科目)			-	-	49	251~312	0			-		5	11	0	0	0	227	
学位又は称号			学士 (文学)			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法											授業期間等							
4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目33単位以上、専門教育科目91単位以上、合計124単位を修得した者を卒業と認定する。											1 学年の学期区分		2 期					
①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から16単位、合計33単位を修得すること。											1 学期の授業期間		1 5 週					
②専門教育科目の専門基礎科目から必修科目2単位、選択科目から12単位、合計14単位を修得すること。											1 時限の授業時間		9 0 分					
③2つのコースで開講されている科目の中から、 【コミュニケーション情報学コース】 コミュニケーション情報学コース専門科目の基盤科目から12単位 (必修2単位を含む)、展開科目から32単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。 【現代文化資源学コース】 現代文化資源学コース専門科目の基盤科目から14単位 (必修2単位を含む)、展開科目から28単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。																		

授 業 科 目 の 概 要					
(文学部人文科学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(既修)	英語A-1	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。社会的、学問的なトピックや日常生活のトピックについて英語で話す積極性を養い、ダイアログでの適切な応答、プレゼンテーション、情報交換、ディスカッションなど、スピーキングの基本的なスキルとストラテジーを養う。
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(既修)	英語A-2	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取りようとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(既修)	英語B-1	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。あわせて、書くことの基礎を培う。
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(既修)	英語B-2	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取りようとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。さらに、身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力の基礎を培う。
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(既修)	英語e	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。大学での学修と国際コミュニケーションに必要な英語基礎力を身につけ、検定試験により各自の英語習熟度を測定し、その結果に応じて授業担当教員のメンタリングを受けながら、継続的に学修に取り組む。学期内に受験するTOEIC IPテストにおいて一定の水準のスコアを獲得することを目指す。
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(既修)	英語C-1	広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取りようとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けができることとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(既修)	英語C-2	広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取りようとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けができることとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。

教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	ドイツ語A-1		本授業では、基本的なドイツ語の文章を理解し運用するための初級文法、会話練習や聞き取り練習を通じて、ドイツ語の実践的な運用能力、およびそれに必要な語彙を獲得し、ドイツ語の発音、基礎的な文法規則、日常の会話表現を学び、それに応じた語彙力を身につける。文字の読み方、単語の発音規則を学習したあと、動詞の基本的な用法、名詞の格変化からはじめて、間接話法や非現実話法（仮定法）に至る初級文法を体系的に習得する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	ドイツ語A-2		本授業では、基本的なドイツ語の文章を理解し運用するための初級文法、会話練習や聞き取り練習を通じて、ドイツ語の実践的な運用能力、およびそれに必要な語彙を獲得し、ドイツ語の発音、基礎的な文法規則、日常の会話表現を学び、それに応じた語彙力を身につける。文字の読み方、単語の発音規則を学習したあと、動詞の基本的な用法、名詞の格変化からはじめて、間接話法や非現実話法（仮定法）に至る初級文法を体系的に習得する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	ドイツ語B-1		本授業は受講者のドイツ語基礎能力を養い、特に会話能力の向上を目的とする。総合的なドイツ語能力の向上を目指し、授業の主眼としては、主にリスニングの練習ならびに文法事項を様々なシチュエーションで実際に使ってみることに伴って、「聴く」能力と「話す」能力を身につける。授業は教科書に沿って、原則として2回の授業で1課ずつ進めていく。パートナー練習などにより、よく使われる表現の練習も行う。さらに、「書き言葉」と「話し言葉」の相違にも注意しながら、ドイツ語と日本語の様々なコミュニケーションスタイルの文化的背景を理解する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	ドイツ語B-2		本授業は受講者のドイツ語基礎能力を養い、特に会話能力の向上を目的とする。総合的なドイツ語能力の向上を目指し、授業の主眼としては、主にリスニングの練習ならびに文法事項を様々なシチュエーションで実際に使ってみることに伴って、「聴く」能力と「話す」能力を身につける。授業は教科書に沿って、原則として2回の授業で1課ずつ進めていく。パートナー練習などにより、よく使われる表現の練習も行う。さらに、「書き言葉」と「話し言葉」の相違にも注意しながら、ドイツ語と日本語の様々なコミュニケーションスタイルの文化的背景を理解する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	ドイツ語C-1		初級ドイツ語文法の知識を定着させ、それらを自由自在に使うことでコミュニケーションがとれるようになることを目的とする。また、ドイツの日常生活、教育制度、食文化などについての語彙を増やし、初級ドイツ語の授業から中級ドイツ語への橋渡しを行う。ひとつの章を二回の授業で行い、会話・聞き取り・読解・作文をまんべんなく習得し、ドイツ語の初級文法を十分に理解し、その知識を読解や作文に応用できるようになる。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	ドイツ語C-2		初級ドイツ語文法の知識を定着させ、それらを自由自在に使うことでコミュニケーションがとれるようになることを目的とする。また、ドイツの日常生活、教育制度、食文化などについての語彙を増やし、初級ドイツ語の授業から中級ドイツ語への橋渡しを行う。ひとつの章を二回の授業で行い、会話・聞き取り・読解・作文をまんべんなく習得し、ドイツ語の初級文法を十分に理解し、その知識を読解や作文に応用できるようになる。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	フランス語A-1		現代フランス語の初級文法を一通り習得する。音と綴り字の規則から直説法複合過去までを学ぶ。現代フランス語の初級文法の要点を発音から直説法複合過去まで学修し、品詞（冠詞・名詞・動詞・前置詞など）の区別が付き、基本動詞活用20（être, avoir, habiter, aimer, finir, partir, sortirなど）を習得する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	フランス語A-2		フランス語A-1に引き続き、現代フランス語の初級文法を一通り習得する。音と綴り字の規則から接続法現在までを学ぶ。現代フランス語の初級文法の要点を発音から接続法まで学修し、綴り字の正確な読み方に習熟する。また、初級文法を一通り習得し、辞書を用いずに、平易な現代フランス語を読解できるようになる。	選択必修

教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	フランス語B-1		平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションが出来るようになること、簡単な会話が出来ようになること、辞書を利用すれば、平易な文章が理解できること、ごく簡単な文章が書けることを目的とする。教科書に沿って授業を行い、毎授業、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	フランス語B-2		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習。二人一組かクラス全員で一緒に勉強する。平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションが出来るようになること、簡単な会話が出来ようになること、辞書を利用すれば、平易な文章が理解できること、ごく簡単な文章が書けることを目的とする。教科書に沿って授業を行い、毎授業、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	フランス語C-1		1年次で学んだ初級文法と基礎的な表現を定着させると共に、フランス語を聞き、話し、読み、書く、総合的な能力の向上を図る。1年次で学んだ初級文法の復習と発展とを織り込みつつ、発音練習やペアでの会話、書き取り、読解、和文仏訳等を行い、フランスの文化や社会についても学ぶ。基本的な日常会話、平易なフランス語文章の読解、基礎的な作文ができるようになる。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	フランス語C-2		フランス語C-1に引き続き、初級文法と基礎的な表現の定着と、フランス語の全般的な能力の一層の向上を図る。フランス語C-1に引き続き初級文法の復習と発展とを織り込みつつ、発音練習やペアでの会話、書き取り、読解、和文仏訳等を行い、フランスの文化や社会についても学ぶ。基本的な日常会話、平易なフランス語文章の読解、基礎的な作文ができるようになる。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	中国語A-1		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得する。授業では、まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。また、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などができるようにする。事前事後学習として、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復を行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	中国語A-2		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得する。授業では、まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。また、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などができるようにする。事前事後学習として、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復を行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	中国語B-1		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得する。授業では、まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。また、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などができるようにする。事前事後学習として、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復を行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	中国語B-2		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得する。授業では、まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。また、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などができるようにする。事前事後学習として、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復を行う。	選択必修

教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	中国語C-1		1年次に習得した基礎学力を踏まえ、各側面から中国語に慣れつつ、総合的に活用することに挑戦する。1年間の中国語学習を終えた中級者向けの教科書を使用し、身近なことに関連した特に興味深い7つのトピックを集中的に学ぶ。各トピックは2回の授業で取り扱う。まず、内容理解のために基礎文法を解説し、その後、実践力を強化するための練習問題を行い、次に、トピックに関する解説を行い、中国語圏の文化と日本文化の違いをテーマとした会話練習を実施する。このようにして、中国語圏の文化理解を深めつつ、異文化コミュニケーションに不可欠な中国語の運用能力を身に付けることを目指す。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	中国語C-2		中国語C-1で学んだ内容を踏まえ、各側面から中国語に慣れつつ、総合的に更に高度な中国語を活用することを目標とする。中国語C-1の学修内容を復習しながら、新たにより高度な中国語の表現に取り組む。新聞記事、簡単な論説文、小説、散文などさまざまな中国語の文章を、辞書などを参照しながら独力で読めるようになる。またさらに、中国の文化や社会、日本と中国の関係などについても、よりいっそう関心が持てるようになる。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	コリア語A-1		韓国語の文字と発音、簡単な文法と表現、コミュニケーション能力を身に付ける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。まず、韓国語の仕組み、文字、発音のルールを学び、韓国語の正確な発音を身につける。そして、場面ごとの基本表現（学校生活、旅行、道案内など）を会話形式で練習し、韓国語を駆使したコミュニケーション力を身につける。以上のことを楽しく学習するため、韓国社会と文化に関連する資料（映像、歌など）を多く活用する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	コリア語A-2		韓国語の初・中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身に付ける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の初・中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの基本的な会話、読解、作文ができるように学習する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連付け、韓国社会と文化についても学習する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	コリア語B-1		韓国語の文字と発音、簡単な文法と表現、コミュニケーション能力を身に付ける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。まず、韓国語の仕組み、文字、発音のルールを学び、韓国語の正確な発音を身につける。そして、場面ごとの基本表現（学校生活、旅行、道案内など）を会話形式で練習し、韓国語を駆使したコミュニケーション力を身につける。以上のことを楽しく学習するため、韓国社会と文化に関連する資料（映像、歌など）を多く活用する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	コリア語B-2		韓国語の初・中級レベルの文法と表現、コミュニケーション能力を身に付ける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の初・中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの基本的な会話、読解、作文ができるように学習する。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深める。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	コリア語C-1		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身に付ける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、韓国語での基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようになる。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	コリア語C-2		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身に付ける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、韓国語での基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようになる。	選択必修

教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語A-1			この授業では、次の4タイプの練習を行い、論理的で説得力のあるスピーチや論拠を提示しながら、構成を考えた口頭発表ができるようになる。(1)自分の意見を論理的に話すスピーチ練習。(2)資料の比較を元に、その結果を発表する練習。(3)インタビュー調査を元に、その結果を発表する練習。(4)グループでプランを作成して発表する練習。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語A-2			この授業では、次の4タイプの練習を行い、論理的で説得力のあるスピーチや論拠を提示しながら、構成を考えた口頭発表ができるようになる。(1)自分の意見を論理的に話すスピーチ練習。(2)資料の比較を元に、その結果を発表する練習。(3)インタビュー調査を元に、その結果を発表する練習。(4)グループでプランを作成して発表する練習。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語B-1			幅広い分野のニュースや講義等を自然なスピードで聞き、話の流れや要旨を把握し、詳細を理解できるようになることを目指す。授業では、最近の話題・時事問題や日本の文化などを扱ったニュース・特集番組・講義等を聞き取り、その中で使われている表現・語彙を学んだりタスクに取り組んだりしながら詳細内容を理解する。また、聞き取った内容について、詳しく説明したり意見を交換したり、また関連する自国の状況を紹介したりする。授業外でも、指定されたニュース・特集番組を聴いて書き取るディクテーション課題にも取り組む。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語B-2			幅広い分野のニュースや講義等を自然なスピードで聞き、話の流れや要旨を把握し、詳細を理解できるようになることを目指す。授業では、最近の話題・時事問題や日本の文化などを扱ったニュース・特集番組・講義等を聞き取り、その中で使われている表現・語彙を学んだりタスクに取り組んだりしながら詳細内容を理解する。また、聞き取った内容について、詳しく説明したり意見を交換したり、また関連する自国の状況を紹介したりする。授業外でも、指定されたニュース・特集番組を聴いて書き取るディクテーション課題にも取り組む。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語D-1			時事問題を題材に様々なテーマの文章を読みながら、アカデミックな文体や表現に慣れ、論説文を正確に読み取る力を養う。社会問題や時事問題などをテーマとした文章の論理的な構成を正確につかみ、まだ読んだことがない人に内容を伝えるための資料を作成する。また、アカデミックな文体に触れつつ、さまざまな語彙を学ぶ。本授業を通じて、2000字程度の論説文を読み、内容を理解でき、さらに、自分が理解した内容を説明することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語D-2			時事問題を題材に様々なテーマの文章を読みながら、アカデミックな文体や表現に慣れ、論説文を正確に読み取る力を養う。社会問題や時事問題などをテーマとした文章の論理的な構成を正確につかみ、まだ読んだことがない人に内容を伝えるための資料を作成する。また、アカデミックな文体に触れつつ、さまざまな語彙を学ぶ。本授業を通じて、2000字程度の論説文を読み、内容を理解でき、さらに、自分が理解した内容を説明することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 I-1			ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ(あるいはドイツ語圏)の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 I-2			ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ(あるいはドイツ語圏)の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 II-1			ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ(あるいはドイツ語圏)の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語Ⅱ-2		ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅰ-1		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組がクラス全員と一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅰ-2		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組がクラス全員と一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅲ-1		動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込めつつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅲ-2		動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込めつつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	中国語Ⅰ-1		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	中国語Ⅰ-2		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅰ-1		ハングルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やパッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「합니까」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようになる。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅰ-2		ハングルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やパッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「합니까」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようになる。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	コリア語Ⅱ-1		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語Ⅱ-2		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常生活、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語Ⅲ-1		韓国語の中級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験（TOPIKⅠ・Ⅱ）に合格することを目的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、様々な問題を解きながら、試験対策（聞き取り、書き取り、読解）ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国社会と文化について学修する。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語Ⅲ-2		韓国語の中・上級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験（TOPIKⅠ・Ⅱ）に合格することを目的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中・上級レベルの文法と表現を身につけ、様々な問題を解きながら、試験対策（聞き取り、書き取り、読解）ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国社会と文化について学修する。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語Ⅰ-1		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえでのロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリル文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように、定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語Ⅰ-2		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえでのロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリル文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように、定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ラテン語Ⅰ-1		ラテン語の単語の多くは様々な活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第1～3変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ラテン語Ⅰ-2		ラテン語の単語の多くは様々な活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第1～3変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語Ⅰ-1		スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語Ⅰ-2		スペイン語Ⅰ-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語Ⅱ-1		スペイン語Ⅰ-2に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語Ⅱ-2		スペイン語Ⅱ-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ヘブライ語Ⅰ-1		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ヘブライ語Ⅰ-2		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	イタリア語Ⅰ-1		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」・「聴く」などの基礎の語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	イタリア語Ⅰ-2		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」・「聴く」などの基礎の語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅰ-2		授業は対面で、ペア・グループによる聞き取り・口頭練習、導入文法を使った読み・書き練習を行う。この授業では、日本語の話す・聞く・読む・書くの4技能を身につけながら、N4レベルの文法を学ぶことを目指す。N4レベルの文法を正しく理解し、習った文法を使って正しい文を発話し、書くことができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅱ-2		初級が終わった人を対象に、日常よく接する場面での会話の聞き取り力を高めること、さらに、聞く力を伸ばすことによって、話す力が身につくことを目的としています。登場人物の人間関係や場面が異なるスキットを聞き、タスクを通して内容の理解を深めます。さらに、それぞれの課の重要表現でポイントを確認し、会話の中で使う練習を行う。1. 自然に近いスピードで話される日常会話の具体的な内容が聞き取れるようになること。2. 人間関係や場面、トピックに応じた表現の違いがあることを理解し、自分でも正しく使えるようになること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅲ-1		中級レベル以降の文法、語彙、表現を身につけて、より高い日本語レベルになることを目指す。中級レベルの大切な学習項目のアウトラインを示して、練習問題を中心に進める。1) 中級レベル(日本語能力試験N3-N2レベル)の日本語力を付け、日本語能力試験N2に合格することができること。2) 中級レベルの文法や語彙を使って、文章を読んだり書いたりすることができること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅲ-2		授業では、様々な資料を読んだり、その内容について議論したりしながら、いろいろな分野で使われる語彙を増やし、総合的な日本語力の向上を目指します。読みのストラテジーやスキルを使い、おおまかな意味が早く・的確に理解できるようになること。様々な話題について聞き手のことを配慮した表現や話し方ができるようになること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅳ-1		日本語能力試験N1レベルの文法項目について、その意味・接続・用法・使用制限などを解説する。その後、練習問題を解いて、定着を図る。また、語と語を結びつけて意味の通る文が作れるよう、実際に文を組み立てる練習問題や、まとまった長さの文章の中で文法項目がどのように使われているかを考える練習問題にも取り組む。日本語の読解力や表現力を支える表現文法を学び、既習文法や類似文法との用法・意味の微妙な違いを比較・考察し、練習問題を通して確実に使い分けができるようになることを目標とする。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅳ-2		中上級レベルの日本語学習者（日本語レベル4-5、JLPT2級レベル）が、日本の大学生活で必要とされる「公の場でまとまった内容のことを話したり議論したりする」練習をする。主な活動として、「スピーチ」「ディスカッション」を行い、それぞれのテーマの最後には、発表を行う。留学生が大学生活の中で必要とされる「スピーチ」や「ディスカッション」について、大学生に求められるレベルのまとまった内容で、できるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	情報科目		ICTリテラシー		大学生活に必要なITスキルを身につけるとともに、ネットワーク社会で生きて行くための情報の収集・作成の基礎を修得する。具体的には、パスワードの取り扱いを始めとする情報セキュリティの基礎や電子メール等のオンラインコミュニケーションにおけるネチケット、検索エンジン等を用いた情報収集、著作権・知的財産権を理解した上での引用を学び、構造化された文書を作成する能力を身につける。また、不特定多数が利用するWebサービスを含め、情報セキュリティ・法律・情報倫理についても学ぶ。	
教養教育	基礎科目	情報科目		DSリテラシー		データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習することで、社会における事象を適切に捉え、分析・説明できるようにすることを到達目標とする。また、インターネット上での情報発信に必要となるWebサイト作成能力、Webアプリケーション活用能力も併せて身につける。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスに用いられる手法と得られる結果の解釈について把握するために、統計学の基礎的内容を概観するとともに、データサイエンスの手法について説明する。また、インターネット上で情報発信を行うための基礎としてHTMLの基本構造やスタイルシートについて併せて学ぶ。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		文系のための数学入門		文系の学生が数学とはどのような学問なのかということを理解し、数学の考え方や使い方を身につけることを目的とする。データサイエンスに関する基礎的事項を理解し、実際にR言語を使用してデータの整理や関係の分析、推定や検定ができるようになることを目指し、データの整理から統計的な分析手法までについて取り扱い、実際にR言語によりそれらの処理ができるように、演習を踏まえて講義する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		数学の世界		初等整数論に登場する基本的な用語、概念、定理を学び、それらが暗号にどの様に使われているかを理解する。過去の統計活動および確率論に基づく統計学の形成過程について学び、現代社会における確率・統計の役割を知る。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスにおいてどのような方法で結論が導かれるか、どのような利点や問題点があるかを把握する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		物理学入門		高校の化学で習ったような物質の成り立ちや性質を電子レベルのエネルギーや運動量という観点から眺めることにより、化学の知識を物理学的な観点から直観的かつ本質的に理解するという学びを通じて、物理学的思考方法を身につける。力学を通して、物理法則である数式で自然現象が説明できることを理解する。現代天文学の基礎事項を学び、我々が住む宇宙についての認識を深め、また天文学の背後にある現代科学の素養を身につける。高圧下での物質の挙動の理解を深めるために、圧力に関する歴史を学び、基礎的な物理法則を習得し、生活の中さらには自然界に存在する圧力とその仕組みを理解すること、さらに高圧下で実際に物質が見せる挙動、現象についての知識を深める。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		教養の化学		持続可能性について科学的に理解を深めるために、元素の周期表に基づいて物質の世界を化学的視点で捉え、考察できるようになる。人々の暮らしで活躍しているガラスについて、その基礎と応用について化学的視点で説明できるようになる。また、持続可能性の課題を克服するために、ガラスが貢献できることについて提案できるようになる。化学がどのように生まれ進化してきたかを学ぶことで、現代の日常生活を支える化学への理解を深めつつ、物事を多面的な角度から見ることの重要性を学ぶ。様々な化学的事例を取り上げその化学的特性について考えることで、特徴や性質について覚えるのではなく、考えて理解する化学の基礎を習得する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		生物の世界		過去のノーベル賞受賞研究を紹介する共に、現代における生命科学とどう繋がっているのかを理解する。生き物にみられる環境適応の多様さ・巧妙さを知るとともに、それを創出してきた自然選択(自然淘汰)および進化の原理について正しく理解できるようになる。基本的な生物学的事象を講義し、実験・観察で実際に確認して生物の本来の姿を理解し、生物学的な思考を身につける。生命の設計図である遺伝子DNAを理解し、生命がどのようなシステムで成立しているのかを説明できるようになる。地球上に生命が誕生してからどのように進化したのかを説明できるようになる。水の中にいる生物の驚くべき特徴や生態について学ぶとともに、実際に自分でも特定の生き物や水に関わる事象について調べ、それを分かりやすく発表する。私たちの体がどのように発生し、次世代に命をつなげているのかについて理解する。植物が環境に応じて成長するしくみを学び、その生物学的な特徴と、私たちが関わっていることについて理解する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		地球環境の現状と人類		この宇宙の中で、我々の住む地球とはどのような星なのだろうか。太陽系の各惑星、さらには、太陽系の外に存在する惑星に関する最新の探査、観測によって、宇宙には実に様々な惑星が存在することが明らかとなりつつある。空間的にも、時間的にも広大な宇宙の中に存在するそれら惑星の姿との比較を通して、地球という惑星の存在を理解する。以下の項目について、最新のデータを紹介しつつ講義する。 ・身近な天体一月、太陽と地球の関係と暦 ・太陽系の大きさ宇宙の時間、空間スケール ・地球一月系の特徴と、地球形成以来の地球環境の変遷 ・太陽系形成過程 ・太陽系外惑星系	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		持続可能な都市と地域づくり		熊本県で危惧される自然災害、および派生する社会的災害に対する基本的な知識を有するとともに、それに基づいて平常時からまちづくり等の地域活動に関心を持ち、災害時には適切で主導的な対応ができる知識と姿勢が身につけている人材【減災型地域社会のリーダー】の育成を目指す。次の3項目を修得する。自然災害の基本的発生メカニズムを自然科学と社会科学の両面から学ぶ。災害に関する基礎的情報とそれらの取り扱い方、基礎的減災対策の事項を具体的に学ぶ。その上で減災リテラシー入門が目指す「減災型地域社会」の提示と、それに関わる様々なステークホルダーの役割と相互理解の必要性、減災リーダーに求められる資質を理解する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目		豊かさを持続させるものづくり		地球温暖化を紹介し、環境問題を抑制するPPTを用いた再生可能エネルギーの基礎研究について説明し、バイオマス・エネルギーに関する基礎知識を理解する。毎回、先端の科学技術にかかわるいくつかのトピックを取り上げて講義し、科学技術発展の現状を理解するとともに、現在ある課題を理解することに加えて、科学技術の未来について学ぶ。本授業を通じて、エネルギーと社会・暮らしとの関わりについて考えを展開していくためのきっかけや手がかりを見出し、広く深く思考展開ができることを目指す。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	日々の生活に垣間見る情報と通信		テレビ、ラジオ、携帯電話など、電波を利用した電子機器がいかなる機能をもつ部品と回路の組合せでできているかを、電波の原理を学ぶ講義と中波ラジオの製作実習を通して理解する。ハードウェア、ソフトウェアの基礎を解説、誰にでもできる簡単な指導を行い、スイッチやセンサの値を読み取ることができたり、LEDやモータを制御することができたりするようになる。基本的な電波通信の仕組みを理解し、教員やTAのアドバイスのもとで、電気回路の配線と機器のデザインができることを目指す。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	倫理学入門		現代社会の倫理的問題に関して、その内容や問題の射程を理解し、それらについて、倫理的な考え方を踏まえて自分の考えを持つことができるようになる。小・中学校の道徳の授業で用いられる教材をいくつか取り上げ、そこに含まれる価値や規範（規則遵守や生命尊重、公平・公正や思いやりなど）について哲学・倫理学の観点から考察を深める。また、善・悪や正・不正について子どもたちが抱く素朴な疑問について、大人はどう向かい合えばよいのかを考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	心と世界		人間の生命活動を論じる上で、中心的なテーマとなる心と行為について、心とは何か、人間とは何か、なぜ行為が問題か、なぜ哲学の中心問題は心と行為か、行為の正・不正、正義、幸福、行為の選択をめぐる問題等について論じ、心、行為、人間、意志、自由といった基本的な日常語について理解を深めた上で、これまでの自分の考え方を、少しでも自分で見直すことができるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	思考と論理		現代論理学（自然演繹法による）の基礎を学び、論証（推論）の正しさを見分ける技術と感覚を身につける。この授業では、現代論理学の基礎にある概念や記号法、証明技術を学んで、論理的に考える手助けとし、さらに論理とは何かについて理解を深めることを目指す。本授業を通じて、日本語文の論理構造を把握し、十分に形式言語で表記ができ、また論理学の証明方法を使って推論の妥当性を容易に証明できるようにする。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代心理行動学		特別支援教育に含まれている心理学的なトピックスを取り上げ、講義を受講後、グループで協議し、授業後にMoodle上のまとめテストに解答することを通じて人の「こころ」についての理解を深める。また、グループ協議を通じて、多様な人との社会性を身につける。心理学の観点から発達をとらえ、また様々な発達の障害について理解することで、人間の生涯発達の諸現象について深く考察する。「社会」の中における対人関係スタイルの成り立ちを理解し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	こころの科学		こころについて科学的に見たり考えたりする方法を学修する。こころについて、心理学の幾つかの領域（心理学全般、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学、周辺領域）から学修し、様々な領域にわたって心理学に関する基礎的な知識を身につけ、生活場面で活用できるようにする。また、不登校について取り上げ、不登校の対象理解と対処や不登校が果たす社会的機能について学ぶ。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	芸術文化論		“現代音楽文化”の基本となる西洋音楽の歴史と理論を学ぶことにより、豊かな教養と感性を身につけ、さらには世界における“自分の文化”を考えることができるようになる。スペクトル楽派、ミニマル・ミュージック、ポスト・ミニマリズム、新ロマン主義、パフォーマンス作品、楽器によるミュージック・コンクレート、引用の音楽、ノイズ、ミュージック・シアター、国際的に活躍するアジアの作曲家の動向、担当教員の自作品について、多くの視聴覚資料を用いながら解説し、興味・関心を持った21世紀の作曲家、作品について自ら主体的に調べ学習を行い、知識を高め、より深く理解し、自らの言葉で詳細に説明することができるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	文学の諸相		文豪たちが生み出した近・現代の日本文学について、その時代に良いと思われていたこと・悪いと思われていたこと、作者が良いと思っていたこと・悪いと思っていたことの相関関係において、時代との関連においてどのような文学的表現が出現するか歴史的な知見を得る。他言語で書かれたテキストをもとに、「食」に焦点をあて他文化や他言語について学ぶ。食や言語をめぐって様々なテキストに触れ、他文化について深い知識を身につける。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	モノが語る歴史		日本を中心に東アジアにおける食文化の実態と変遷について、考古学の最新成果を通して理解する。また、文献学、民族学、さらには理化学分析などの成果と考古学を融合しながら、いかにして食文化の歴史的側面に迫ることができるのかを考える。様々な角度から主食を中心とする食文化を眺め、相対化することで日常的な食事の歴史的成り立ちを学びます。特に、考古学は過去の人々の日常的な食文化を復元するのに最適な学問です。それに文献学や民族学を加え、さらには近年その成果が蓄積されつつある化学分析を合わせることで、より具体的な食文化の歴史的実態にアプローチします。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	地域の世界史		現代中国にも大きな影響を残しつつある近代以前の中国の社会と国家の仕組みと特質を知り、人類社会の多様性を理解する。近代イギリスの歴史と文化についての知識と理解を深め、現代イギリス社会やイギリス文化の歴史的起源を長期かつグローバルな観点から説明できるようにする。現代イギリス社会の問題やイギリス文化を歴史的な観点から説明できるようにする。韓国の社会と文化についての知識と理解を深め、韓国の異なる文化や価値観を共有し認識することで、現代の日韓関係の在り方を考える。西洋の大史か、近世史、近代史に関する基礎的な知識を摂取しながら、その流れを大まかに理解し、世界史における西洋世界の位置づけの変化を理解できるようにする。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	日本社会の歴史		江戸・明治時代の歴史から、日本人の意識や心性の形成過程を考える。歴史学を実証的に分析するには、物事を客観的かつ理論的にとらえる能力が求められます。そして理論を実践的に転換する手段として、博物館をテーマに取り上げ、まず博物館の歴史的変遷を正しく理解する。その結果、今後あるべき日本の博物館、さらには地域の文化行政のありかたについて考える。260年以上も続いた江戸時代を終わらせ、現代日本につながる社会をもたらした明治維新という変革について知り、その意義を理解できるようにする。戦国時代と現代との繋がりを理解し、また、戦国動乱が収束して内戦が長く凍結された要因を探ることで、未来に向けての平和主義の発展のための歴史的基盤を探求する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	法学の基礎		民事事件の重要な問題について、基本的知識を得た上で、受講生が具体的に筋道を立てて思考し問題解決を図ることができるようになる。法律学の基本的な考え方を知り、身近な問題に対して法的知見に基づく理解力・洞察力を身につける。基本的な消費者取引関連法の概要が理解できる。消費者取引のトラブルについて、解決方法を導く力を身につける。消費者に縁の深い決済方法について理解できる。法哲学という学問分野の中でも「法とは何か」という問題に取り組む法概念論を研究し、「法」の概念がいかなる内容と問題性を有しているのかを検討するとともに、「法」の概念を用いることで私たちは結局何をし（ようとして）しているのかを探求する。探究を通して、主に法を素材にした哲学的思考法を習得する。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代政治の諸相		実際の新聞報道など毎回実践に即したテーマを取り上げ、新聞報道の役割、ジャーナリズムについての理解を深め、新聞、テレビを中心としたメディアの特性を学びながら、それを取り巻く現状や課題を認識し、ジャーナリズムに関する知識を習得する。水俣病やハンセン病、免田事件、赤ちゃんポストといった熊本における普遍的なテーマを取り上げ、地域課題と地方紙の役割について多角的に考察し、ネットメディアが台頭する中で、ローカルジャーナリズムの意義について考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	最前線の社会文化研究		対象に応じた調査手法の選び方と調査設計の手法についての基礎知識および技術を身につける。主に民俗学で研究対象とされる「生業」を元に授業を行い、具体的な遊び方についても紹介し、様々な自然と触れあうための意欲と知識を養う。偽史や都市伝説、陰謀論などといった社会の中に流通する「物語（ナラティブ）」に関する研究の最前線を紹介し、最新の研究動向を概説し、現代社会における物語（ナラティブ）の位置づけについて考える。世界遺産の概要とそれをめぐる現状を概観し、世界遺産と現代社会の関係を理解する。熊本の伝説や祭礼に関する知見を増やし、身近な素材から学問的課題を発見することを通じて、より広範な現代社会の諸課題への理解を深める。自然について多様な角度から見る力を養い、人との関わりからみえてくる自然とはどのようなものかを理解する。ユーラシアからアフリカまで広がる世界の牧畜の歴史と現状を概観することで、人間と動物と土地とのつながりを理解する。メディアと社会の関係について考えるための基礎的な知識や考え方を身につける。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代社会の解説		<水俣病>事件の歴史性と現代性の解説を試み、<水俣病>事件の現代的な意義について多角的な視点で考えられるようになる。地域社会学の基礎的知識や社会学の考え方（理論、方法、概念など）について講義し、それらの知識や概念を習得し、社会的な観点から現代社会における課題について考察する力を養う。社会調査について、基本的な用語と考え方を学ぶ。わたしたちがいまどのような社会に生きているのかを、近現代における国民国家の形成やグローバル化を手がかりに理解し、考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	自然と人間の地理学		地域の諸問題について、特に熊本県や九州の事例を交え、地理学的観点から現状と課題を考察する。地理学的ものの見方と考え方およびアプローチ方法を理解する。現代社会が抱える環境問題や社会問題が起こる背景や要因を地理学的に理解する。人間生活と自然環境との関係を多角的に見る力を養う。熊本が7年前に地震被災地となったことをうけて、地震等の自然災害の被災地が、どのように復旧・復興したのかしなかったのかを知ることにより、地震被災地としての熊本の将来を考えることができるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養	数学と文化		高等学校を用いて理解できる応用数学の様々なトピック（折り紙、2進数、アルゴリズム、素数、ゲーム、グラフ、統計）を扱い、高等学校までに学習した数学を基礎として、応用数学に関する様々な話題を取り上げ、現代数学を理解する。高等学校までに学習した数学を基礎として、主に代数学に関する話題を取り上げ、現代数学を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	物理学の世界		広い視野をもって社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応できるように、特に材料工学の視点から幅広く深い教養を身につける。また国際的な活躍ができる人材の育成を目的として、材料工学分野を拠点とする世界が直面する課題とその解決方法を考える。地球以外に生命が存在するかどうかを科学的に考察する力を身につけ、必要な自然科学の広い知識を身につける。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	暮らしと化学		生体および環境のさまざまな事象について化学的に考えることができる基礎的な知識を身に付ける。身の回りに存在する化学的な現象や事項について、あらかじめ目を向け、その原理や概要を理解する。化学的な理解を深めることで、不意の事故の防止や、有用な現象の利用を拡大することが可能となる。高校の教科書にも載っているような基本的な有機化合物について、その「かたち」を決める原理を考察できるようになる。さらに、便利で豊かな生活が様々な有機化合物によって支えられていることを実感できるようにする。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	化学と環境		大気の歴史や大気に関連する環境問題を主に化学の視点より講義し、大気や空気について理解を深める。大気の構成や成分を把握し、大気に関連する環境問題の現象や影響を化学的な視点で理解する。複雑な化学反応で維持されている人体への化学物質によるポジティブな影響やネガティブな影響についてメカニズムを理解する。また、化学の目で健康をいかにとらえているかを理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	最先端の生命科学		植物の形づくりと環境応答、細胞の構造と振舞いについて学習し、最先端の植物科学研究を理解するための素地をつくる。バイオリソースの重要性を理解し、実験動物及び動物実験に関する正しい知識を身に付ける。ヒト免疫不全ウイルスHIV-1等の感染症について、ウイルス、造血および免疫の観点から学ぶ。遺伝の基本的な仕組みの学習を通じて、栽培化・家畜化・育種等の生物と人間の多面的な関わり方の背景となるメカニズムを理解する。進化の基本を学び、節足動物の一群（ヤスデ類）で見られる擬態現象の理解を通して、生物多様性創出の基本概念を理解することを目的とする。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	地球環境科学の最前線		海洋学の真髄である「海という視点」から分野横断的に海洋現象や海洋問題を解説し、これまでほとんど教わっていない“海洋学的知識”を食わず嫌いの領域から脱却してもらい、「海の理解者」としての素養を身に付ける。地球のシステムや古環境の変遷、生物の進化に関連する現象について理解する。熊本県下に特徴的な地質や地形に関連する現象について理解する。私たちの身のまわりで日常起こる現象に大気と水がどのように関わっているかを解説し、地球が「大気圏」「水圏」「岩石圏」「生物圏」から構成される1つの「システム」であることを認識し、それらの構成圏の間でどのような相互作用が働いているかを、主に気象現象を通じて理解する。大気の組成や循環の変化を原因とするグローバルな環境問題がどのようなメカニズムによって引き起こされているか理解する。火山の研究、観測、教育、アウトリーチ、防災などに関わる専門家の講義を通して、火山に関するさまざまなテーマを学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	地域づくりと科学技術		人々の「くらし」を切り口として国内外の住宅を様々な視点から分析し、「よい住宅・インテリアとは何か」を理解する。地域や都市の基盤となる社会インフラの概要とその防災減災技術、まちづくりの理論と実践方法等について、自分の言葉で説明できるようになる。世界史や日本史に登場する都市を取り上げ、その都市の成り立ちから現在の姿を読み解くことで、その都市がどのような都市計画（自然発生的な成立を含む）によって形成されたのかを理解し、現在の都市計画の考え方や手法を説明できるようになる。歴史的な建築物や、それらが集まって出来上がった街並みや都市、石工や建築家に関するテーマを取り上げて、建築や都市と、社会や技術との関係を論じ、大学で学ぶことは何かを理解する。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	ものづくりの科学と技術	エネルギーの種類と特徴や社会・生活における利用形態について自主的に学習し、自分なりの考え方を育てるようになる。またクラス内での意見交換を通して、主張の方法と他人の意見を聞く柔軟性を身につける。科学技術と暮らしにかかわるいくつかのテーマについて考え、科学技術が暮らしとどのようにかかわっているのかを考え認識を深める。資源循環型社会を実現するためにどのようなようにすればよいかについて、考える機会を持つ。資源やエネルギーの諸問題を解決するためにどのような科学的アプローチや取り組みが行われているかを学び、主に今後の製品化や環境負荷低減に貢献するナノ材料を化学的な観点から理解する。食品、医薬品、プラスチックなどを題材にくらしの中にある化学物質とそれらを構成する元素について講義し、化学の見地からものごとを考える力をつける。社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応し得るよう、広い視野に立ち、幅広く深い教養を身につけられるようになること、および国際的な活躍ができる人材になれるよう、今日の世界が直面する課題を理解できるようになる。
教養教育	教養科目	現代教養科目	暮らしと情報・通信技術	デジタル処理の原理を学び情報のコミュニケーションや人間環境のモニタリングやセンシングの原理と応用について講義し、現代社会の基盤を構成している情報・通信技術にかかわる知識や技術を学び、科学的な見方・考え方の素養を身につける。現代社会の基盤を構成している情報・通信技術に関わる知識や技術の一端を学び、これら技術の重要性を知る。現代社会の基盤を構成している電気エネルギーの発生や電気エネルギーの効率的利用や応用に関する知識や技術について知識と理解を深めます。
教養教育	教養科目	現代教養科目	健康の科学	人間の健康に影響を与える要因にはどのようなものがあるか多角的な視点から理解し、それらへの対処能力を養うために必要な知識やスキルを身につけることができるよう教授し、大学生生活のみならず将来の生活も含めて具体的にイメージしてもらい、こころとからだの健康とヘルスケアについて理解し、自身の日常生活に生かすことができるようになる。
教養教育	教養科目	現代教養科目	病気の医科学	解剖学、病理学、生理学、脳科学、免疫学をそれぞれ専門とする教員が、医学を専門としない幅広い分野の学生を対象として、各回の授業テーマにあげた内容について基礎から解説し、誰にとっても大きな関心事である健康と病気について、氾濫する情報の中で根拠のない誤ったものに惑わされず、正しい判断ができるための科学的な知識と考え方を身につける。
教養教育	教養科目	現代教養科目	臨床医学の最前線	熊本大学病院における医療の最前線で活躍している各分野の専門家が、がん、生活習慣病、救急疾患、小児疾患などそれぞれの分野について最新の知識を提供し、がん、最新の医学の進歩について広く学ぶ。がん、生活習慣病、救急疾患、精神疾患など多岐にわたる病態を対象とし、研究や診断・治療法の進歩を紹介し、本科目を受講することで、最先端の医学研究や医療の概要を理解する。
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と医学	第一線の医療を担う医師・歯科医師及び熊本県庁の行政担当者を招いて、こうした地域医療の諸活動と問題点を講義し、それにより我が国の医療・保健・福祉について、医療従事者の視点や行政担当者の視点から概観し多面的に理解するとともに、将来医療や行政に携わる学生にとつてのキャリア教育にもなりうる。一方、医療や福祉のことを広く身近な問題として捉えてもらえる内容としている。これを踏まえ、この授業の目的は、日本における医療制度（特に地域医療制度）を取り上げ、その諸活動と問題点を学ぶ。
教養教育	教養科目	現代教養科目	心身の健康と看護	現代社会における心身の健康について理解し、自らを振り返り、心身の健康を推進させる方策について考察する。我が国の疾病構造の変化ならびに生活と健康について理解し、自分や家族、地域の人々が健康的な生活を送るための知識や実践力を身につける。認知症や生活習慣病について学ぶことにより、超高齢化社会がもたらしている影響・課題について理解し、そのような社会状況のなかで、健康寿命を延長する具体的な取り組みや誰もが安心して暮らせるまちづくりのために現在の自分たちに何ができるかを考察、実践することができる。
教養教育	教養科目	現代教養科目	医療における理工学	放射線の医学・医療利用に関して社会へ対する理工学的貢献を理解することを目的として、放射線に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、放射線利用のひとつである医学・医療利用の原理および科学技術について学ぶ。本授業を通じて、放射線の基礎知識の修得、放射線の医学・医療利用についての理解、放射線利用とリスクに対する考え方の理解を深める。
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代の医学検査	私たちが社会活動を営むうえで、「健康」は基礎となっている。しかし、私たちが暮らす「環境」や「感染症」などに代表される、健康を脅かす様々なリスクが存在することは事実である。本講義では、人類が直面してきた感染症について学ぶとともに、ワクチン、抗菌薬などについて学ぶことで、感染症リスクに対する対処法を学ぶ。また、世界的視点で感染症の流行状況を学ぶことで、健康格差について学ぶ。
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代医療と生命科学	古くから新しい糖の生物学的役割や糖（鎖）を利用した工業製品や医薬品の開発を理解する。また、プレゼンテーションを通じて、自己表現力を高める。医学以外の分野を専門とする学部学生が、現代医学で不可欠といえる免疫の基本的考え方について説明できるようになる。免疫学の基礎を学び、体内で起こる免疫の仕組みを理解する。免疫疾患の発症機序や臨床所見を理解する。
教養教育	教養科目	現代教養科目	薬科学入門	生体機能物質の化学について、様々な視点から講義し、生体機能物質とは何か、また、なぜそれが生体に機能するかを理解し、それを他人に説明できるようにする。薬の科学について、様々な視点から分かりやすく講義し、薬にはいろいろな種類があり、どのように探索・設計・最適化され、いかに効力を発揮するのかについて、それぞれの立場から深く理解し、その概要を説明できるようにする。
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と薬学	現代社会における人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因（遺伝要因、生活要因、環境要因）を把握し、その予防・治療に関する基本的知識を深めるために、健康と疾病の概念、疾病の予防（疾病の予防の定義、感染症とその予防、生活習慣病とその予防）、疾病の治療、伝統・伝承医療とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進などの内容を専門外の受講者にもわかるような平易な表現で解説する。現代社会を生き抜くためのリテラシーとして、薬と正しく付き合いその効果を生活に適切に活かしていくために、薬に対する正しい理解を深め、薬の使用に必要な薬学の概念・基礎知識を習得する。

教養教育	教養科目	現代教養科目	現代教育について考える		障害のある人を包括する、インクルージョンをめざす生活や教育のあり方について考える。家庭科の歴史、学校教育の選抜機能、家族の変遷等を考察しながら、各自のライフスタイルの確立に役立てる。日常生活を安心して送る拠点として自分に合ったより良い住環境を選択できる実践的な力を養う。自然と人間の共生について興味・関心を高め、自然環境と教育に関する現代的課題を見据えて未来の展望をもつことができる。論理・集合、代数、幾何、解析、応用数学等の中から、いくつかの数学的な話題に触れ、数学的に考えることを学ぶ。持続可能なライフスタイルの構築において、私たちが毎日の生活の中で抱えている問題を明らかにし、問題の解決方法を考え、解決に向けて実践する力を身につける。これまで自明視されてきた家族や子育て・教育のあり方について問い直すとともに、現代の親や子どもと教育の問題について理解する。日本本土とは異なる社会制度、公的社会教育が脆弱ななかで、沖縄の住民はどのように自治的に自らの生活と文化を育み継承してきたのか、社会教育の枠組みから考察する。教育における対話的コミュニケーションの重要性を中心に、社会的構成主義の学習観に基づいた学びの在り方について理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	心理学の探求		このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説し、心理学領域の代表的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることで、人間の行動を支える心の働きを科学的にとらえられるようになる。心理学的な考え方や、心や行動の諸現象について学ぶことで、人の心や行動を客観的に理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	芸術への招待		4分野実技（絵画 工芸 声楽）の授業として、1分野ごとの芸術実技の基礎的技術を学び、作り出す芸術実技を体験する。内容は初歩的なことであるが、芸術（音・美）が繰り広げる「魅力を生み出す力」を体験し、芸術を深く理解する。音楽、美術を通じて現代文化について学ぶ。また演習等で実践的活動を行えるようにする。本授業を通じて、芸術実技について魅力を知り、芸術への理解を高度に深めること、各芸術分野（絵画 工芸 声楽）について基礎的技術を学び、芸術に存する「生み出す力」を体感し、芸術実技を高度に身に付け、高度な表現力を培い教養とすることを旨とする。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代と言語		日本語学という学問の視点から「いろいろな日本語」の姿を観察し、大いに楽しむ方法を紹介するとともに、私たちは自分（たち）のこころとどどのように向き合っていけばいいのかを考える。日本各地でどのようなことばが使用されているかがまとめられている「言語地図」を解釈することを通して、日本語のバリエーションや歴史について理解し、身の回りのことばをバリエーションとことばの歴史という観点から考察できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代と文学		文学テクストの読みと国語教科書・国語の授業という枠組みとの関係性について考える。日本古典文学が近現代の文学や海外に与えた影響について、時代や国境を越えて広い視野で考え、理解する。日本漢詩を読み、漢詩の類型や押韻、基本的な知識を身につけた上で、漢詩を鑑賞する力を養う。異なる言語、文化の視点から見ることで、日本の文学、文化への理解を深めるとともに、外国の文学、文化について学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代世界の形成と課題		薬害肝炎被害者、水俣病患者支援者、在日コリアンの方のお話を参考に、日本社会の人権状況を正確に理解し、認識を深める。全体を通じて、人権や性的問題に真摯に向き合う基本的姿勢を身につける。国内最大のハンセン病療養所である菊池恵楓園を退所された方、また、ハンセン病問題に関わってきた様々な専門家（医師・研究者・新聞記者・弁護士）に、それぞれの立場から講義をしていただき、ハンセン病問題の歴史を踏まえて、正しい認識を構築する。核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語る事が出来るようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	最先端の法学		平成17年に制定された会社法は、現在の我が国にもっとも大きな影響を及ぼす経済主体である会社に関する法規範であり、また会社以外の企業主体に関する法規範にも大きく影響を与えている。本講義では、会社法をはじめとする企業組織に関する法規範やコーポレートガバナンス・コードなどを紹介するとともに、企業組織に関する最新の法的問題を紹介し、各自にその問題について自ら考える機会を持ってもらう。企業活動についての理解を深めてもらうとともに、企業組織に関する最新の法規制についても理解を深めてもらう。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と経済		経済学の基本的な理論とその応用を学習し、経済学の基本的な考え方ができるようになる。日常の生活に焦点を合わせ、その視点から、個人の意思決定から社会問題に至るさまざまな問題について考え、価格、コスト、嗜好（選好）、収益、損失、リスク、インセンティブ、情報の対称性、ゲーム的状況などのキーワードをもとに現代社会を読み解く。経営学のうち、マネジメント、マーケティング、経営戦略論の基礎を学び、どのような学説があり、それはどのように活かされるのかを学生自身の言葉で説明できるようにする。韓国の経済発展をめぐる問題と現在直面している経済的社会的課題を取り上げ、それぞれの問題の概要や背景にある要因を多面的に理解し、自分の言葉で説得的に説明できるようにする。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代の政治		我々にとって最も身近な政府である自治体、とりわけ自治体政治に焦点を当て、その現状と課題について考察する。現代世界の特徴について理解するとともに、様々な政治現象を自分の力で読み解くことができるようになる。近代日本の戦争を通じて、争点をめぐる外交交渉が武力行使に転換する理由、作戦計画における目的設定と実施過程における問題点、戦争を終結させる際にどのような困難があったのかを説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	学際科目		九州内の国立大学が協力し合い、九州各県・各地域の特徴を活かして、それぞれの魅力について多角的に学修する。新聞記者の指導で文章作成を体験する過程で、メディアに関する理解を深め、情報を読み解く力（メディアリテラシー）、文章力などを高めていく。授業で多様なニュースに触れることで、社会の動きや課題についての認識も広げる。日本の財政、金融及び地域経済の現状等を知ってもらうとともに、税制や税関の役割や仕組み、さらには金融取引等の基礎知識等について理解を深める。将来の日本経済を担っていく学生に生きた経済や、より実践的な金融の知識を身につける。実際のビジネスの世界において発生している事案を専門士業（弁護士、公認会計士及び不動産鑑定士）の観点から整理することで、事案の本質を分析する目を養うことのみならず、ディベートを通じて網羅性等を担保した分析能力を習得する。	

教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology I	<p>(英文)</p> <p>To understand the basic information on renewable energy pertinent to biomass. To understand the basic information on renewable energy or clean energy. To learn prominent scientists in multidisciplinary fields of science and technology, and how their works are shaping our future. To learn the fundamentals and terminologies in entrepreneurship, with reviews and analyses of some successful science-related businesses. The students learn coastal sustainability issues in various disciplines such as history, political, social/cultural, ethical and science and technology taking into consideration possible contribution to UN Sustainable Development Goals (SDGs) and a carbon neutral society. This course will explore information and communications technologies (ICTs) and their multidisciplinary applications to the social and natural sciences. Students will understand basic biological mechanisms, so that they will better understand environmental risks posed by pollutants including endocrine disrupting chemicals (EDCs).</p> <p>(和訳)</p> <p>バイオマスに関連する再生可能エネルギーの基礎知識を理解する。再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの基礎知識を理解する。起業家精神の基礎と用語を学び、成功した科学関連ビジネスのレビューと分析を行う。国連の持続可能な開発目標 (SDG) とカーボンニュートラルな社会への貢献の可能性を考慮して、歴史、政治、社会/文化、倫理、科学技術などのさまざまな分野で沿岸の持続可能性の問題を学ぶ。情報とコミュニケーションを探究する。学生は基本的な生物学的メカニズムを理解し、内分泌攪乱化学物質 (EDC) を含む汚染物質によってもたらされる環境リスクをよりよく理解できるようにする。</p>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Introduction to Science and Technology II	<p>(英文)</p> <p>To learn the fundamentals of separation processes common in the industries and environment. The students will also learn to apply basic knowledge of chemistry, physics and mathematics to understanding common separation processes while actively discussing with classmates. To learn the fundamentals of chemical reaction processes common in the industries and environment. The students will learn from this multidisciplinary course the fundamentals of biomass utilization to gain broader global perspectives of this exciting field.</p> <p>(和訳)</p> <p>業界や環境で一般的な分離プロセスの基礎を学ぶ。また、クラスメートと積極的に議論しながら、一般的な分離プロセスを理解するために化学、物理学、数学の基礎知識を適用することも学ぶ。産業や環境に共通する化学反応過程の基礎を学ぶ。この学際的なコースからバイオマス利用の基礎を学び、より広いグローバルな視点を得る。</p>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Socio-Cultural Studies	<p>(英文)</p> <p>This class will cover history, social/cultural issues, ethics and science of humanitarian efforts. Students learn terminologies and concepts related to humanitarian issues, which can be adapted to subsequent courses in life and natural science as well as in the practice of the profession after graduation. Individual and large-scale projects to promote human welfare in areas afflicted by war, famine, natural disasters or diseases have a long and rich history and form the basis of many contemporary political discussions. We will look at humanitarian issues from different points of view including historical, scientific and anthropological approaches.</p> <p>(和訳)</p> <p>この授業では、人道的活動の歴史、社会的/文化的問題、倫理、科学について学ぶ。学生は人道問題に関連する用語や概念を学ぶが、これはその後の生命科学や自然科学の科目や、卒業後の専門職の実践に適用することができる。戦争、飢饉、自然災害、疾病に苦しむ地域において、人類の福祉を促進するための個人的または大規模なプロジェクトには、長く豊かな歴史があり、現代の多くの政治的議論の基礎となっている。歴史的、科学的、人類的アプローチを含む様々な視点から人道的問題を考察する。</p>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	World History	<p>(英文)</p> <p>The course is designed to make students know more about European history and culture focusing on language and its role in the development of national identity. The goal of this course is to deepen cross-cultural understanding and to build bridges between past and present. The goal of this course is to provide profound knowledge about European geography and cultural history.</p> <p>(和訳)</p> <p>学生が言語と国民的アイデンティティの発達におけるその役割に焦点を当てたヨーロッパの歴史と文化について知る。異文化理解を深め、過去と現在の架け橋を築く。ヨーロッパの地理と文化史に関する深い知識を提供する。</p>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Area Studies	<p>(英文)</p> <p>We will study the impact of modernization on Japanese society and the challenges of leadership during the first half of the Meiji period. We will have a comprehensive look at the education of the future elite at the Fifth High School also addressing the symbolism of the school's organization and architecture. Taking the Fifth High School as an example, we pick up several aspects of Meiji Period elite training and discuss the social and historical background.</p> <p>(和訳)</p> <p>近代化が日本社会に与えた影響と、明治時代前半におけるリーダーシップの課題について学びます。第五高等学校における将来のエリート教育について、その組織や建築の象徴性にも触れながら包括的に考察する。第五高等学校を例に、明治期のエリート教育のいくつかの側面を取り上げ、その社会的・歴史的背景について議論する。</p>	

教養教育	教養科目	Multisdisciplinary	Comprehensive English Communication	<p>(英文)</p> <p>Each session, we will look closely at the various components necessary for successful presentations made in English. Students will work in pairs to prepare and deliver a 7 minute presentation to the class.</p> <p>Through completion of this course, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> Understand the components and structure necessary for successful presentations Become adept at accessible, intuitive, and efficient slide design Become proficient in gathering research data Improve English communication and presentation skills <p>(和訳)</p> <p>毎回、英語でのプレゼンテーションを成功させるために必要な様々な構成要素について詳しく見ていく。生徒は2人1組で7分間のプレゼンテーションを準備し、クラスで発表する。</p> <p>本科目を修了することで、以下のことが習得できる:</p> <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションを成功させるために必要な構成要素と構造を理解する 分かりやすく、直感的で、効率的なスライドデザインに習熟する リサーチデータの収集に習熟する 英語でのコミュニケーションとプレゼンテーションのスキルを向上させる
教養教育	教養科目	Multisdisciplinary	Global Career Development	<p>(英文)</p> <p>Gaining insights and perspectives through exchanging with Kumamoto University faculty members with global career experience. The goal of this course is to offer valuable and rare opportunities to interact with local based experts whose experiences and skills will broaden the scope for students' career options. The goal is to improve analytic and communication skills, in addition to the basic understanding of business operations.</p> <p>(和訳)</p> <p>グローバルなキャリアを積んだ熊本大学の教職員との交流を通じて洞察と視点を得る。経験とスキルが学生のキャリアの選択肢の範囲を広げる地元の専門家と交流する貴重でまれな機会を提供する。事業運営の基本的な理解に加えて、分析とコミュニケーションのスキルを向上させる。</p>
教養教育	教養科目	キャリア科目	キャリア科目	<p>現代的課題の1つとされる男女共同参画社会を実現するために、女性のライフプロセスの特性を理解し、女性のキャリア形成のあり方について考えるところに、仕事と生活の両面から、自分の将来の生活設計を立案できるようにする。国内外で実施されているボランティア活動を事例に支援者(ボランティア)の役割とマネジメントについて理解し、支援活動における基礎知識を身につける。ベンチャー企業の経営者、事業再生を経験した経営者、地域で活躍する中小企業や地方創生に取り組む企業の経営者等の生の声を聴くことで、ベンチャーマインド、経営マインドとは何かを学ぶ。大学での学び、生活と仕事・職業の関係について理解し、主体的な大学生活を過ごすための基礎知識を習得する。ダイバーシティ・インクルージョンの基本的知識を習得し、社会の担い手としての問題意識を持つ。</p>
教養教育	教養科目	開放科目	開放科目	<p>本来学部の専門科目として開講されている科目のうち、内容が教養教育にふさわしく、開講学部以外の学生が履修できる科目として特に指定しているもの。(例:聴覚障害児教育、医療倫理、プログラミング演習、国際関係論、地域防災等)</p>
教養教育	教養科目	体育・スポーツ科目	体育・スポーツ科学a	<p>スポーツの実践とスポーツ文化の理解を深めるとともに、スポーツの持つ魅力を理解し生涯スポーツへの基礎作りを行う。運動・スポーツを行うにあたって最低限必要な基礎知識や身体の手入れの方法などを習得し、身体トレーニングを行うことを通して、将来にわたって体力・健康づくりができるようになる。健康の保持増進のために、運動習慣の大切さを理解するとともに日常生活において実践する態度を身につける。</p>
教養教育	教職科目	体育・スポーツ科目	体育・スポーツ科学b	<p>実技の技能を高めると同時に、グループでの学習効果を生む展開を学ぶ。また、講義では生活習慣病と日常生活活動を関連させ、今後の生活に生かせる知識と実践能力を修得する。医学的検査の意義も学び、ヒトの生体機能を動物的および静的側面から考えられるようになる。1) スポーツに関する理解を深める。2) 技術学習の計画を立案し、実践できるようにする。3) 健康の維持増進に関する理解を深める。4) 予防医学としての運動療法や処方箋を習得する。5) 班内で協力し合い、技術や能力の向上、および課題探求能力を養う。ことを目標とする。</p>
教養教育	教職科目	日本国憲法科目	暮らしの中の憲法	<p>SNSなどで気軽に情報発信できるようになった現代社会では、多くの有益な情報と共に不正確な情報も氾濫するようになってきている。憲法問題についても例外ではなく、日本国憲法の基本的な原理を理解し、現代社会の諸問題について憲法の基本的な知識を踏まえながら論理的に考えることができるようになることを目的とする。生活の中での具体的問題を念頭に置きながら、判例、学説の検討を中心に、日本国憲法の意義、諸原理を学ぶ。</p>
専門教育	専門基礎科目		文章作成演習	<p>初年次教育の一環として、大学生に必要な「書く」能力を身に付けるための授業である。学生はテキストの担当箇所の内容についてまとめたレジュメを提示しながら報告を行う。その後、授業参加者との質疑応答を通じて、報告やレジュメ作成に必要なことを理解・確認する。学期後半では、前半で学んだことを生かしながら、レポート作成を実践する。教員とのやりとりのなかで、文章作成の基本的な作法と読み手に内容が伝わる文章の書き方を学ぶ。</p>
専門教育	専門基礎科目		ギリシア語A	<p>古典ギリシア語の学修を通じて、古代ギリシアの歴史、文学、哲学に関心をもてるようになることを目的とする。初回授業時に参考資料や辞書などを紹介する。授業ではテキストに沿って授業をすすめる。練習問題は事前に解いて、次の授業に臨む。学期末にははまめとして試験を行う。古典ギリシア語の文法と辞書の使い方を学び、基礎的な文法と語彙が理解できるようになる。</p>
専門教育	専門基礎科目		ギリシア語B	<p>古典ギリシア語の学修を通じて、古代ギリシアの歴史、文学、哲学に関心をもてるようになることを目的とする。前期の「ギリシア語A」受講を前提として、テキストの後半に沿って授業をすすめる。練習問題は事前に解いて、次の授業に臨む。学期末にははまめとして試験を行う。古典ギリシア語の文法と辞書の使い方を学び、基礎的な文法と語彙が理解できるようになる。</p>
専門教育	専門基礎科目		キャリア支援	<p>学生が多様なキャリア形成の在り方を学ぶ中で、これから自分自身が生きていく社会や求められる能力などを知り、自分自身のキャリアについて考えを深め、自身のキャリアについて自分自身で設計できるようにすることを目指している。具体的には、多様な現場で働いている社会人ゲストをお招きし、話をお聞きする中でキャリア形成の在り方や、これから自分自身が生きていく社会や求められる能力などを考える。また、自身のキャリアについて自分自身で設計してみる機会を持つ。</p>

専門教育	専門基礎科目	哲学概論 I	○	心という不思議なものについて、いくつかの側面から哲学によるアプローチを試みる。またそれを通じて、哲学という思考スタイルそのものへの入門とする。心をめぐる哲学の問いを考え、同時にそれを通じて、哲学という未知の思考スタイルについて考える。心について哲学によって思考する方法を身に付けて、それによってさらに、哲学という思考スタイルに親しみ、自分もそのスタイルによって考えることができるようになる。	
専門教育	専門基礎科目	心理学概論	○	心理学領域の代表的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることで、人間の行動を支える心の働きを科学的にとらえられるようになることを目指す。人間は、さまざまな状況の中でどのようにものを理解し、判断し、振る舞っているのでしょうか。本講義では、このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説する。	
専門教育	専門基礎科目	倫理学概論	○	倫理とは何でしょうか。また、正しいことや善いことはどのようにして判断できるでしょうか。規範倫理学はそうした問いに答えようとする倫理学の一分野です。本講義では、規範倫理学でよく知られた諸理論（義務論、功利主義、徳倫理学、ケアの倫理）をとりあげる。そして、個々の理論がどのようなものかを学び、それらの全体的な相互関係を理解して、主体的に道徳的諸問題について考察するための基礎を築くことを目的とする。規範倫理学上の諸理論（義務論、功利主義、徳倫理学、ケアの倫理）について順に詳しく検討し、それらの特徴を検討する。その際、それぞれの理論同士の種類点や相違点、それらに含まれる問題点、相互の関係性などに特に注意を払う。その際、理論の検討だけに終わらないように、できるだけ具体的な問題を例に挙げながら検討する。	
専門教育	専門基礎科目	社会学概論	○	わたしたちがいまどのような社会に生きているのかを、抽象的かつ具体的に考え、理解する。本授業では、社会学という学問に初めて接する人をメインの受講者として想定しつつ、参加者が、「社会の科学」である社会学という学問について理解を深められるように、社会学の主要な基本理論と基礎概念、およびその発展を学ぶ。またそれら理論と概念の応用例として、現代の社会諸問題を手がかりにして、わたしたちが生きる近現代社会(modern society)がどのような社会かを分析する。必要に応じて新聞・雑誌記事なども使って具体例も織り交ぜながら授業をすすめる。	
専門教育	専門基礎科目	文化人類学概論	○	学問としての文化人類学の成り立ちとその研究方法の特徴を概観したうえで、世界中にみられる多様な人間のありかたに言及しつつ、その人間をめぐって生じているさまざまな現象を、文化的な側面から分析する。フィールドワークや文化など文化人類学の方法論と基本概念について説明すること、個人という観念、親族や国民などの集団範疇の特徴を指摘すること、日常的な出来事をめぐる人々の受け止め方と彼らの世界観との関係を論じることができるようになる。	
専門教育	専門基礎科目	地域社会学概論 I	○	現代社会の構造と変容について社会学的観点から把握する能力を習得すること、すなわち単に現代社会に関する知識を得るのではなく、自分の生きている社会について知る方法を習得することを目的とする。本授業は、コミュニティに焦点をあてて、関連する社会学的知見を解説しながら、現代社会にアプローチする。これにより、現代のコミュニティについて社会学的観点から考え、論じること、特にコミュニティでの自分の経験やおかれている状況を日本社会またはグローバルな文脈に位置付けて説明できるようになる。	
専門教育	専門基礎科目	民俗学概論 I	○	農政学に由来する民俗学について紹介する。民俗学は実に幅広い学問であり、現在の民俗学のほとんどは行政的に言えば文化財行政に関わっており、農林水産業行政とは無関係である。本授業では、一般に流布する民俗学のイメージである怪異研究や、民間信仰研究にも目配せしながら、実学としての民俗学の姿を、現在の農林水産業行政との関わりの中から論じる。これにより、民俗学という学問の特徴と、意味を理解して、それを他者に対し説明できるようになる。	
専門教育	専門基礎科目	地理学概論	○	地理学は地域科学 (Regional Sciences) の主要な基礎をなす学問分野の一つです。この授業では、特に人文地理学の諸分野を概観しながら、地理学の基礎となる視点と方法を概説する。このことを通して、現実の地域的・空間的な現象や地域問題を説明する力を獲得し、地域を良くしていくための方策を考える手がかりを得ることを目標とする。地理学の対象は幅広く、高校の地理では扱われていない現象も近年では活発に研究され、社会に応用されており、地理学の可能性はさらに広がっている。そのため、人文地理学の諸分野について、なるべく新しいテーマや事例を取り上げて概説することによって、地理学的な見方を身に付けるとともに、地理学の意義や魅力を説明する。	
専門教育	専門基礎科目	史学概論	○	歴史学という学問の特質について知るとともに、熊本大学文学部の歴史系コース（歴史資料学コース・超越歴史学コース）で行われている教育・研究の概要を説明できるようになり、その中から自分の専攻を選び取る知識を獲得することを目的とする。歴史学の展開や、新しい研究視角・方法を学ぶことによって、歴史学の学問的特質、歴史学における問題克服の方法、歴史学の現代的意味などを考察する。	
専門教育	専門基礎科目	日本史概説 I	○	日本史上で「中世」と呼ばれる時代の社会状況の世界史的な特殊性について基本的な事項を理解し、もって、日本社会の歴史の特質を説明できるようになることが目的とする。古代～戦国期の主要事項をとりあげ、その史的意義を講義する。取り上げる事項は「東アジア世界における「日本」の形成」から「豊政権期における近世国家の成立」までとし、とくに中世の部分では、最新の研究成果を摂取しながら、近年における研究状況の転換を紹介することに努める。	
専門教育	専門基礎科目	考古学概説 I	○	考古学の成り立ちや基礎的な調査・研究方法、現代における考古学の位置付けを学び、考古学とはどのような学問なのかを理解する。考古学を理解する研究をはじめするために、その基礎となる枠組みや方法を学ぶ。さらに、近年目覚ましい発展を遂げた自然環境や自然遺物を対象とした研究、理化学的方法を用いた研究を紹介しながら、考古学の最先端についても理解を深める。考古学と他の歴史学分野の研究手法や研究対象、理論についての違いを具体的な事例を用いて説明することができるようになる。	
専門教育	専門基礎科目	アジア史概説 I	○	本講義では近代化以前の中国の政治や社会のあり方についていかなる特徴があったのかを、宋～清代の約1000年間を中心にして理解することを目的とする。皇帝を頂点とした専制支配を2000年間に渡って貫徹させた中国は、日本や西洋とは全く異なる政治・社会のあり方を実現していた。私たちがそうした近代化以前のいわゆる伝統中国の姿を知ることは、現代中国の仕組みを理解することのほか、逆照射的に日本や西洋の特徴をつかむことにもつながる。本講義は宋代以降の中国の政治制度や法制度、社会体制や慣習の変遷から、そうした伝統中国のあり方を解説する。	
専門教育	専門基礎科目	西洋史概説 I	○	近代西洋世界の展開を歴史学の観点から学ぶことを通じて、高校までの教わる・暗記する歴史から、自ら問題を発見し、思考・発信する歴史学への転換を目的としている。本講義では、近世ヨーロッパ史を素材に、西洋史研究上の重要なまたは最新のトピックスをいくつか取り上げ、その問題についての研究動向や最先端の理解（評価や解釈）、高校世界史への反映状況を講義する。学生の理解を助けるために視聴覚教材も適宜利用する。各単元の最後に課題を提出する。	

専門教育	専門基礎科目	文化史概説Ⅰ	○	日本の歴史上「文化」ということばの周辺で発生した様々な現象を概観しながら、歴史を深く認識するための眼を養う。いわゆる「日本文化」の歴史を概観する。「日本文化」とは有史以来の原始の姿がそのまま持続しているものではなく、その歴史は意外なほど浅く、すべては近代以後の作為でしかないという学説もあるほどである。明治時代以後の日本におけるそうした作為の諸相を概観しつつ、現在も行われている「日本文化」に対する理解を深める。	
専門教育	専門基礎科目	日本語日本文学入門	○	高校には「国語」という科目があるが、大学では「日本語学」「日本文学」を学ぶことができる。では、高校までの学修と大学の専門的な内容にどのような違いがあるのでしょうか。この授業では、日本語あるいは日本文学を研究することの意義と方法について、1年生向けに講義する。なるべく身近な題材をもとに、日本語あるいは日本文学を研究することの意義と方法について理解することを目指す。	
専門教育	専門基礎科目	中国語圏文化論	○	中国の社会を構成する政治とその背景に存在する思想について深く知ること、日本と関係の深い中国の社会について理解を深めると同時に、高校と大学の学問のあり方の違いを理解することを目指す。本講義は前近代の社会を扱うパートと、近代以降を扱うパートの大きく二部によって構成されており、通時的に学ぶことで中国社会の全体像を理解できるようにする。(前近代) いわゆる「儒家思想」を中心に取り上げ、その基本的な考え方や時代背景や隣接する他の思想との関係を論じる。(近代以降) 清末から現代に至るまでの中国、台湾、香港の歴史を概観し、現代中国および東アジアの諸問題を考える視点を身に付けることを目標とする。また、新聞記事を利用することで、時事問題もテーマとして取り上げる。	
専門教育	専門基礎科目	英語圏文化論	○	アメリカ文化を歴史のおよび地理的文脈からとらえ、その文化的多様性を理解することを目的とする。「ロード」をキーワードにして、アメリカの文化的特殊性(地理と移動、地域性、エコロジーと物質文明、宗教、スピリチュアリズム、食文化など)について考察する。「ロード」をキーワードにしてアメリカの文化事象について理解し自らの視点で考察できること、アメリカの大衆文化の背景を理解し、その国際的な影響について文献資料をもとに調査できるようにする。	
専門教育	専門基礎科目	ドイツ語圏・フランス語圏文化論	○	前半は、フランス語圏の言語・文化・歴史・社会・芸術・思想・映画等を紹介し、フランスに関する専門的な学修のための基礎を学ぶ。毎回異なるテーマをピックアップして、幅広く、そして時には深く、フランス文化論やその背景にあるフランスの思想や歴史について解説する。後半は、ドイツ語圏の言語・文化・歴史・社会・芸術・思想等を紹介し、ドイツに関する専門的な学修のための基礎を学ぶ。現代ドイツのアクチュアルな問題やテーマを中心に、ドイツ文化論やその背景にあるドイツの思想や歴史について解説する。各テーマについては、教員による導入後、(日本語・英語による)資料の読解とディスカッションを行う。	
専門教育	専門基礎科目	比較文学・国際文化学入門	○	比較文学・比較文化、そして国際文化学という学問領域の概要と特性を具体的な事例にもとづき理解し、専門的な文学・文化研究に必要な基本的な知識と姿勢を修得することを学修目標とする。比較文化・文学については、ドイツ、ポーランドなどの中東欧の文学・文化や日本、中国を中心とする東アジアの文学・文化を通して、国際文化学については、家族、教育、宗教などの知見を深め、文学や文化に言語や国境を超えた普遍性があることを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (5 井上 暁子/4回) ドイツ、ポーランドなどの中東欧の文学・文化について担当する。 (15 西横 偉/4回) 日本、中国を中心とする東アジアの文学・文化について担当する。 (17 濱田 明/4回) 家族、教育、宗教について担当する。 (34 富村 憲貴/3回) 言語や音楽について担当する。	オムニバス
専門教育	専門基礎科目	現代文化資源学入門	○	地域の言語・文化やポップカルチャーなど、現代の文化資源に関して多面的に理解を深める。さまざまな現代文化資源について、授業担当者がそれぞれの専門分野の視点から、どのように発見し、どのように記録・保存・分析して価値づけ、どのように価値を発信するか、具体例とともに紹介する。現代文化を資源としてとらえ、地域を超えてグローバルに、また将来の世代へアーカイブ化して伝える方法を、対外的に具体的に説明できるようにする。	
専門教育	専門科目	人間科学基礎演習	○	人間科学コースの各履修モデルで演習授業を履修するための、基礎となる方法や知識を身に付ける。この授業では演習という授業形態への入門として、文献講読、調査実験を行い、調べ考えたことを発表し議論する、これにより演習で学ぶ意味を理解するとともに、演習の手法の基本を身に付ける。基礎文献を読む力や発表・報告を行う力を身に付け、人間科学コースでの演習という授業形態を理解できるようにする。	
専門教育	専門科目	論理学	○	現代論理学の基礎概念と方法を学ぶことで、論理感覚を身に付けるとともに、論理とは何かについての理解を深める。論理学の基本概念から、真理関数論理学、量論論理学をテーマに授業を行い、現代論理学の基礎にある概念と証明技法とを学び、推論の正しさを見分ける技術とセンスを身に付ける。それを通じて、言語の重要な特性である論理についての理解を深める。	
専門教育	専門科目	哲学概論ⅡA	○	人間をめぐる科学と哲学の話題をいくつか取り上げ、それを通じて人間、つまり私たち自身についての理解を深める。人間には、ほかの生きものとは異なるように見える特異な性質があり、その一つが自由な行為主体というあり方であり、このことは私たちの社会の根本にあってそれを成り立たせている。この授業ではまず、進化によって生まれた生きものという観点から人間を考え、つぎに、人間の行為と自由という問題を考える。人間について科学と哲学の観点から適切な理解を得る。	
専門教育	専門科目	哲学概論ⅡB	○	フレーゲとラッセルという二人の哲学者の思考を通じて、私たち人間の世界を支える言語について哲学で考える。現代の言語哲学の基礎は、19世紀末から20世紀初めにかけ、独のフレーゲ(Gottlob Frege, 1848-1925)や英のラッセル(Bertrand Russell, 1872-1970)によって作られ、この二人の哲学者はしかし、コトバの意味について非常に異なった見方をしている。言語やその意味を考えるときの二つの方向がそこに示されているとも言える。この二人の考え方を学ぶことで、言語哲学への入門とする。	
専門教育	専門科目	哲学演習ⅠA1	○	日本語で書かれた哲学書を読み、哲学問題を理解するとともに、哲学の文章を読む力を身に付ける。進化生物学について、それゆえ進化について、テキストを読みつつ、哲学の観点から考えることで、人間、さらには自然や生命を考える手がかりとする。哲学文献を読むことで、進化をめぐる哲学問題を十分に理解し考える。それをつうじ、哲学問題を考える仕方そのものを理解する。	

専門教育	専門科目	基盤科目	哲学演習 I A 2	○	日本語で書かれた哲学書を読み、哲学問題を理解するとともに、哲学の文章を読む力を身に付けます。私たちは人間です。しかし人間とは何でしょうか？ 人間が動物の一種であること、動物としての特性を色濃く残していること、このことを否定するのは愚かでしょう。人間を生み出したのは38億年にわたる進化の過程であり、私たちにはその歴史がまぎれもなく刻印されているのです。それゆえ今日、進化を理解することなしに人間を理解することは不可能です。その進化を探究する営みこそ進化生物学にほかなりません。けれども、そこにはさまざまな哲学問題が、じつは潜んでいるのです。進化生物学について、それゆえ進化について、テキストを読みつつ、哲学の観点から考えることで、人間、さらには自然や生命を考える手がかりとします。哲学演習 I A 1 よりも理解と議論の力が要求されます。
専門教育	専門科目	基盤科目	哲学演習 I A 3	○	日本語で書かれた哲学書を読み、哲学問題を理解するとともに、哲学の文章を読む力を身に付けます。私たちは人間です。しかし人間とは何でしょうか？ 人間が動物の一種であること、動物としての特性を色濃く残していること、このことを否定するのは愚かでしょう。人間を生み出したのは38億年にわたる進化の過程であり、私たちにはその歴史がまぎれもなく刻印されているのです。それゆえ今日、進化を理解することなしに人間を理解することは不可能です。その進化を探究する営みこそ進化生物学にほかなりません。けれども、そこにはさまざまな哲学問題が、じつは潜んでいるのです。進化生物学について、それゆえ進化について、テキストを読みつつ、哲学の観点から考えることで、人間、さらには自然や生命を考える手がかりとします。哲学演習 I A 2 よりも理解と議論の力が要求されます。
専門教育	専門科目	基盤科目	哲学演習 I B 1	○	日本語で書かれた哲学文献を読み、哲学問題を理解するとともに、哲学の文章を読む力を身に付ける。西洋哲学は古代ギリシアに発し、二千年以上をわたりヨーロッパの知的伝統として受け継がれて現代に至る。一方で、アジアには仏教の長い伝統があり、そこでは西洋哲学とは大きく異なる哲学ならびに実践が受け継がれてきた。仏教における哲学と実践を、近年とみに注目されているマインドフルネス(念)を軸にして学ぶ。
専門教育	専門科目	基盤科目	哲学演習 I B 2	○	日本語で書かれた哲学文献を読み、哲学問題を理解するとともに、哲学の文章を読む力を身に付けます。ヨーロッパで成立した哲学とはおおきく異なる仏教の哲学ならびに実践を、マインドフルネス(念)という観点を軸にして学んでゆきます。哲学演習 I B 1 よりも理解と議論の力が要求されます。
専門教育	専門科目	基盤科目	哲学演習 I B 3	○	日本語で書かれた哲学文献を読み、哲学問題を理解するとともに、哲学の文章を読む力を身に付けます。ヨーロッパで成立した哲学とはおおきく異なる仏教の哲学ならびに実践を、マインドフルネス(念)という観点を軸にして学んでゆきます。哲学演習 I B 2 よりも理解と議論の力が要求されます。
専門教育	専門科目	基盤科目	知覚・認知心理学	○	知覚、認知、学修に関連する心理学の代表的な理論や考え方を正しく理解することで、人間の行動を支える心の働きを説明できるようになることを目指す。身の回りの環境は非常に複雑であるにもかかわらず、我々人間はその中で適応的に振る舞うことができている。こうした人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、知覚、認知、学修に関する代表的な理論と最近の研究結果に基づいて解説する。
専門教育	専門科目	基盤科目	心理学研究法	○	心理学領域の代表的な実験法の考え方に関する基礎知識を得て、実践すること、人間の行動を支える心の働きを実験的に検証し、記述できるようにすることを目指す。人間は、さまざまな状況の中でどのようにものごとを理解し、判断し、振る舞っているのか。本講義では、このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みを測る方法について、心理学領域の代表的な基礎理論に基づいて解説し、実践する。
専門教育	専門科目	基盤科目	心理学統計法	○	統計法の基礎を学ぶとともに、心理学の実験計画にそった統計法の考え方を理解し、その使用法を習得することを目指す。本講義では、統計法の考え方を学び、最終的には統計ソフトの使用も経験する。回によってはノートパソコンの持参を求める。平均値と標準偏差、相関係数、t値、F値、カイニ乗の意味が分かり、それらの計算ができるようになる。
専門教育	専門科目	基盤科目	心理学演習 I	○	ヒトの知覚と認知に関する英語論文の講義を通して、心理学の実験方法や研究内容に対する理解を深められるようになることを目指す。ヒトの知覚と認知に関する最近の研究論文を取り上げ、知覚認知に関わる心の仕組みについて演習形式で探求する。英語の学術論文を読み、発表者の報告に基づいてディスカッションを行う。心理学の問題設定を理解できる、心理学の英語論文を読める、英語論文の内容をプレゼンテーションできる、さらに、論文を深く理解し、新しいリサーチアクションを作り出すことができるようになる。
専門教育	専門科目	基盤科目	社会調査法概説	○	社会調査がなぜ、そしてどのように重要なかを理解し、社会調査の種類について基礎的な知識を得ることを目標に、社会学・人類学・民俗学・倫理学などの学問分野の講義を行う。また、社会調査士資格の取得を目指す学生にとって必修の科目でもある。社会学や倫理学、人類学、民俗学などの学問分野において、社会調査がなぜ、そしてどのように重要なかを理解し、社会調査の種類について基礎的な知識を得る。
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学演習	○	社会人間学コースの演習形式の授業において必要なスキル(研究テーマを設定し、文献を検索の上選択し、それを読解、要約、報告し、報告後、質疑応答とディスカッションを行うスキル)を身に付けることが目標である。社会人間学コースを構成する学問領域(倫理学・社会学・文化人類学)に関する文献などの講義を通じて、研究テーマの設定、文献の検索と選択、読解、要約、報告、質疑応答、ディスカッションのトレーニングを行う。1クール7回のトレーニングを2クール行う。
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-I	○	社会学の概念を把握し、観察された事象から現代社会の仕組みを推論するための知識・技術を習得することが目標である。「現代社会の構造と変容」を解説するというより「現代社会の構造と変容」を推論するための道具立てとなる概念装置について解説することに重きをおいた授業である。こうした推論を巧みに行うためには、具体的なものと抽象的なものを自在に行き来できなければなりません。時間的な制約から授業の内容はどうしても抽象的なものになりますが、具体的なものと抽象的なものを往復しつつ解説する。
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-II	○	本授業の目的は、異文化接触が常態化した世界でひとびとが他者と共生するための思考の方法を身に付けることである。そのために文化人類学的な理論(文化人類学は文化の多様性と普遍性について考察する学問)とあわせて具体的な事例についても検討する。この授業の担当教員はジャマイカと日本をフィールドとして調査を実施してきたフィールドワーカーであり、フィールドワークの実践をその研究の中心に置いている。授業では調査方法の多様性とそのメリット・デメリットを理解する講義からはじまり、人種やエスニシティ、文化にまつわる表象などのテーマごとに事例や関連資料を紹介しながら、その基本的な考えを学べるように設計されている。

専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-III	○	文化社会学的な観点から物事を理解できるようになることが目的である。記憶・物語・文化遺産と社会との関連について学問的に把握するうえで必要な概念や知識を習得し、それらをふまえてテーマに関する事象を理解できるようにすることをめざす。第1～4回では授業テーマに関する社会学的研究の主な概念や知識を順に学ぶ。第5～9回では記憶の社会学の主要トピックであるノスタルジー・戦争・災害を取り上げ、どのような研究や議論がなされているかを見ていく。第10～14回は、文化遺産を活用した地域再生を中心的テーマとして、国内外の事例を見ながら、テーマについて学ぶ。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-IV	○	文化の離れたところに存在している他者を理解していくための糸口をつかむことができるようになることが目標である。具体的な文化現象に関する文化人類学的な資料の読解や視聴を通じて人類文化の多様性と普遍性について理解を深める。文化人類学およびフィールドワークの基本的な考え方について説明でき、それらに基づいて現場での発見を具体的な研究計画へと落とし込むことができるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-V	○	文化人類学の基本的な考え方やカバーする領域について、東アジアの具体的な事例を通じて理解し、自らの身近な事例に応用できることを目的とする。文化人類学は、主に異文化を理解するための学問である。この授業では、様々なトピックについて日本を含む東アジアの事例に基づいて解説するとともに、自文化や異文化に対する理解の仕方、特に文化相対主義的アプローチについて考え方を深める。また現地の人々と交流しながら調査・研究するフィールドワークについて、講師の具体例を挙げつつ解説する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-VI	○	社会学の枠組みをおさまらない広範な問題について学ぶことを通じて、逆に、社会学の考察の必要性を理解することが目的である。現代社会の中で生きるという視点から自閉症者の世界を捉えようとする。現代社会の中で生きる自閉症者の姿から何かを読み取れるかを考える。自閉症についての理解することだけでなく、現代社会に関する示唆を得ることが、その狙いである。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-VII	○	参加者が、家族・教育・労働という身近なテーマを通じて現代社会の構造を学び、それをもって社会学という学問についても理解を深めることが目的である。したがって本授業では、社会学に関心のある2年生や、社会学を本格的に学び始めたばかりの3年生などをメインの受講者として想定しつつ、受講者が、社会の科学である社会学という学問について基礎的な理解を深められるように、おもに家族・教育・労働という身近なテーマとそれらをとりまく現代的諸問題を手がかりにして、わたしたちがいまどのような社会に生きているのかを分析する。必要に応じて新聞・雑誌記事なども使って具体例も織り交ぜながら授業をすすめる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-VIII	○	フィールドワークという文化人類学的調査の手法と実践について理解を深めることを目的とする。この授業ではモンゴル国を議論の範囲として、その現状および背景となる歴史について多面的に紹介する。また現地の人々と交流しながら調査・研究するフィールドワークについて、講師の具体例を挙げつつ解説する。このことを通じて、モンゴルの人々の日常生活を通じて見えてくる「異文化理解」や、文化人類学に特徴的な異文化理解の態度である「文化相対主義」についても考えていきます。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 A-IX	○	社会学とその周辺のコミュニケーション論を理解し、日常のコミュニケーションを考えるきっかけとすることが目的である。落語を補助線とする。落語の映像をみたり、速記本を読んだりして、落語を理解し、そこから、コミュニケーション論に結び付けていく。コミュニケーション論として生かされたり、さらに社会学全般の見方の基礎の一つにして、落語にふれる機会とする。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 B-I	○	深層心理学という一自己理解を深めることはもちろんとして一こころの病を持った人の治療の一方法とだけ思っている人もいかもしれませんが、社会問題や倫理学的問題を解説するのに大きな役割を果たしている。この講義ではそういった諸問題を代表的な心理学者やそれに近い精神医学者の思想によって説明することを目的とする。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 B-II	○	私たちは日々、様々な常識を元にして自分や他人、世界を理解し、評価しながら暮らしている。しかし、「あたりまえ」のことが絶対的に正しいとは限りませんし、むしろ偏ったものであることもしばしばである。この授業は私たちの日常、常識についての倫理を扱うところからスタートして、生命倫理学や動物倫理学、環境倫理学などの応用倫理学の展開を学びながら、私たちが無意識に従ってきた常識を意識し、それと向き合うことで、現実の諸問題について考えることを目指す。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 B-III	○	従来の「正義の倫理」に対して、1980年代頃からそれとは異なる「ケアの倫理」が提唱されるようになった。本講義では「ケアの倫理」について、メイヤロフ、コールバーグ、ギリガン、ノディングス、スロートなどの議論を、文脈を踏まえながら詳細に検討することを通して、1.ケアの倫理とは何かについて知ること、2.ケアの倫理と正義の倫理の関係について知ること、3.倫理とは何かについて考えること、について十分な知識を持ち、説明できるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 B-IV	○	第二次世界大戦後のフランス思想が何を問い、何を明らかにしたかを理解し、その現代的な有効性を考える。本授業では、フランス現代思想だけでなく、広く現代世界において何が問題かも、あらためて考え、思想家が問い直し、解明した事柄について、その理由と帰結を理解し、思想家に加えられた批判に対して、その妥当性を判断することができるようになる。また、フランス現代思想が、現代社会のなかで、どのような意義をもっているかを自分の視点から考えることができるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 B-V	○	責任について基本的な理解をし、現代人に求められる責任について考察できるようになる。倫理学における責任論を学び、責任概念について深く考察できるようにすることを目指す。特に現代に特有な問題について、応用倫理学も参照しつつ、自分のこととしてとらえる視点を獲得できるようなることを目的とする。責任概念について学び、説明できるようになり、自分の問題として考察して、文章にできるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	社会人間学特殊講義 B-VI	○	〈周縁的〉な観点から倫理(学)を見直すことで、主流の(常識的な)倫理思想を相対化し、自身の倫理観も反省的に考えることができるようになることを目指す。まず、周縁的人間の視点がどのような醸成されるのかを学ぶために、不登校・ひきこもり経験者の半生、その生活・思考の変遷をたどり、次に、不登校・ひきこもり関連の文献をもとに、これらの現象を、倫理学的に考察する。最後に、視野を広げ、周縁的視点から、従来の倫理学を相対化するメタ倫理学的考察を行う。	
専門教育	専門科目	基盤科目	地域社会学概論 II	○	本講義では、地域社会学の基礎的知識を習得し、現代日本の地域社会における課題について考察する力を養うことを目的とする。産業化、都市化とともに大きく変化してきた地域について幅広く理解する必要がある。本講義では、農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について考察する力を養う。	

専門教育	専門科目	基盤科目	地域社会分析演習	○	現代日本の地域社会の構造と変動を、人口・世帯や産業などに関するセンサスや既存の各種の地域社会調査報告データを利用しながら、統計的分析によって解明する能力を身に付けることが、本授業の目的である。現代日本の地域社会の構造と変動を、人口・世帯や産業などに関するセンサスや既存の各種の地域社会調査報告データを利用しながら、統計的分析によって解明する能力を修得する。
専門教育	専門科目	基盤科目	基層文化論演習	○	この演習の目的はフィールドでの民俗調査に先立ち、現実の文化・社会を調査する方法や、資料の考えかたについての基礎を習得することである。この授業ではフィールドワークと民俗誌叙述に触れる機会として、まず実際に自分の身の回りの事柄に関して書き、またそれに基づいて議論することを行い、自らの見たものや聞いた話を資料化する方法を身に付ける。最終的にこの演習の履修後には、履修者は自分自身の関心や問題意識に基づき、それを研究として具体化していくための一定の見通しがつけられるようになる。各回の演習ではこの民俗誌に即してディスカッションを進め、ディスカッションの論点は民俗誌に関する批評とし、「この民俗誌にはどのような特徴や優れた点があるか」「どのような叙述が不足しているか」「ここからどのような議論への展開が考えられるか」といった視点から、全員で個々の民俗誌について検討する。
専門教育	専門科目	基盤科目	地域文化論演習	○	受講する皆さんの興味関心と希望進路からみた学ぶべき課題を見極めて民俗学の文献を選び購読する。各論文毎、著作であれば各章ごとに担当を決め、読んで貰い、その内容について整理し、自分の意見主張を加えて、レジュメを切り、授業で報告し、全員で内容や報告者の意見・主張について議論する。最終的には全員で論文評か書評を作成する。民俗学の文献を読解し、理解し、その背後にある諸事情を正しく推測し、その文章が語ろうとする本来の主張を洞察しうる能力の獲得を目指す。
専門教育	専門科目	基盤科目	民俗学概論Ⅱ	○	民俗学の専門課程へのステップとして、民俗学の問題系、方法的特質、資料論、研究領域、近年の研究動向等について広く講義する。民俗学の論点や考え方、方法に広く触れ、専門課程においてそれらを使いこなす準備を整えることが受講者の達成目標になる。各回にテーマを設定し、そのテーマに即して研究の展開を解説する。テーマは現代民俗学の論点となっているものを中心に設定し、解説の中では必要に応じて、伝統的な民俗学の問題系についても触れていく。
専門教育	専門科目	基盤科目	地理調査法概説	○	地域調査を行う際に必要となる地理学的な技法の基礎を、実際の課題を遂行することを通じて習得する。地理学的な研究を行うために必要となる基本的な技法を実習を通して学修する。具体的な内容は以下の通りである。1. 地図から地域の情報を読み取る手法(地図の利用)。2. 地図を作成する手法(主題図の作成)。3. フィールドワークの基礎。地域の特徴を適切な方法論に基づいて詳細に把握し、様々な調査方法の利点を理解した上で、適切な調査方法を選択して遂行できるようになる。
専門教育	専門科目	基盤科目	人文地理学	○	現代社会では人口や産業活動は都市に集中している。言葉を換えれば、都市空間は人間活動の主要な舞台なのであって、その特質を知ることが、まさに現代社会の理解の基礎となる。この授業では、人文地理学のうち、都市経済地理学や都市社会地理学の成果をふまえ、現代の都市空間を理解するための基本的視角を概説する。都市を舞台として展開する人間活動に関して、都市経済地理学や都市社会地理学の主要概念と実際の事例を説明する。その際、国内外、とくに熊本や九州を中心になるべく多くの事例を紹介しつつ、都市空間の実態に迫る視点や方法を論じる。
専門教育	専門科目	基盤科目	自然地理学Ⅰ	○	・自然地理学の基本概念を理解し、地理学的なものの見方や考え方を習得する。 ・自然環境の現象や環境問題が生じる要因とその背景について理解を深める。 ・様々な空間、時間スケールから多角的に事象を見る力を養う。以上のことを目的とする。本授業では、自然地理学の主要な分野である地形学、水文学、気候学ならびに、これら3つの諸現象と密接にかかわる環境地理学について、国内外のよく知られた事象と九州や熊本の身近な自然現象を取り上げながら解説する。また、これらの分野と相互に関連する自然災害、感染症、獣害などを応用問題として取り上げ、地理学の調査方法や考え方についても触れ、応用問題の事例を通して、人間と環境との関係のありかたについても考える。
専門教育	専門科目	基盤科目	地誌学	○	地形図の読図、目的や用途に適した地図(主題図)の作成などを通して、各種地理的技能を身に付け、事例とした地域をさまざまな系統地理学の視点によって見ることができ、すなわち地誌的に見ることができるようになる。本授業では地図や統計資料を使った各種作業を行い、新旧地形図を比較して読む。地形図から新たな図、統計値からグラフ、データから分布図をつくる。
専門教育	専門科目	基盤科目	日本史概説Ⅱ	○	基礎的なこととして日本通史を学ぶ。あわせて、各分野の学会における新しい成果を紹介していくことで新しい歴史観を理解する。本講義では近世から近代、そして現代にかけて、今日の日本はどのような変遷を遂げてきたのか、政治史、法制史、文化史などの観点から取り上げていく。日本通史を理解することでグローバル社会において自国の歴史を他者へ正しく伝えることができる。歴史を学ぶことで将来私たちがどうあるべきか考える機会を提供し現代的意義を構築することができる。身の回りに散在する地域の文化財などへも関心をもつことができるようになる。
専門教育	専門科目	基盤科目	考古学概説Ⅱ	○	考古資料を用いてどのように研究を行い人類の歴史を考察するのかについて、古墳時代研究を事例にしなが、その方法論を学ぶ。具体的には、①考古学の方法論を理解すること、②古墳時代とはどのような時代なのかを理解すること、③古墳とは何かを理解すること、④国家とは何かを深く思考すること、⑤文化財を保護し後世に伝えることの意義を深く思考することの5つを授業の目的とする。
専門教育	専門科目	基盤科目	歴史資料学実習A-I	○	江戸時代と今日の犯罪と法律の相違点や共通点、裁きの実態などを原資料を紐解きながら学び、古文書解読の修得を目的とする。法令と裁きの整合性を見出し、また、歴史上著名な事件についても、法制史的解釈を加えることによって得られる新しい知見をに創出させていく。くずし字を正確に解読すること、江戸時代の慣用表現を習得すること、古文書を解読するための基本的能力を身に付けること、当該資料がどのような歴史的意義を持つか説明できるようにする。
専門教育	専門科目	基盤科目	歴史資料学実習A-II	○	「歴史資料学実習A-I」で培った古文書読解能力を活用して、まとまった分量のくずし字を読みこなしていく応用的実践力を身に付けることを目指す。本学に寄託されている永青文庫細川家文書の中から「慶前公御在日記」を読み進め、各受講生に古文書中の一定の箇所を割り当てて、その解読文を板書させ、それを添削しながら進める。くずし字を正確に解読した上で、当該の古文書の内容を的確に要約して説明できるようにする。
専門教育	専門科目	基盤科目	歴史資料学実習B-I	○	各種器材・道具を用いて、遺物の実測、遺物や遺構の写真撮影、地形の測量などの考古学調査・研究に必要な基本的技術と習得する。遺物(石器と土器)の実測と拓本採り、写真撮影、地形・遺構の測量など、考古学調査・研究に必要な基本的技術を確認に身に付ける。また、日本史学専攻学生には碑文の採拓方法を、考古学専攻学生には発掘調査の準備方法について教授する。

専門教育	専門科目	基礎科目	歴史資料学実習 B-II	○	考古学調査は、その成果をまとめた報告書を刊行して初めて完結する。報告書の作成は考古学調査においてはもっとも基本となる技術であるため、その重要性を理解し、その作成の手順を習得する。夏季の発掘調査実習等で出土した遺物、調査現場で作成した図面、撮影した写真を資料化し、習得した技術をもとに発掘調査報告書を作成するまでの過程を網羅的に学修する。同時に日本語文章能力、論理的記述能力を身に付ける。
専門教育	専門科目	基礎科目	アジア史概説 II	○	東アジアの近現代の歴史を通観して、その特質を明らかにし、現代アジアの諸問題を自ら考える力を養う。講義では1949年以降の中華人民共和国の歴史、および台湾の歴史を中心に扱うことになる。近現代中国史に関しては多様な映像資料が残っており、また近現代史を素材とした映画・ドラマ・ドキュメンタリーも多く作られており、授業ではこれを活用する。ただし視覚情報は臨場感が強いので、我々は容易にその影響を受けるものである。また、意図的なBGMにより聴覚にも働きかけ、受け手を一定の感情へ誘導しようとするものも存在する。そのような映像資料をどのように批判し、どのように研究に使用すればよいかを検討する。
専門教育	専門科目	基礎科目	文化史概説 II	○	西洋における「モダンの観念の歴史」を概観することにより、西洋文化思想史を時間・空間感覚の変容という視座から照射する。「モダン」という観念の起源は、パースペクティブの設定の仕方によりどこまでも遡行しうる感覚がある。19世紀後半から20世紀前半に至る芸術運動としてのモダニズムにそれを見出す見方が一般的かと思われるが、ロマン主義や「新旧論争」、さらには中世のキリスト教世界やユダヤ教による直線的時間観念の導入にまで遡る見方も存在する。本講義は、西洋における「モダン」という観念の歴史を古代から近代まで概観し、その延長線上にモダニズム芸術・思想を位置づける。現代に於けるモダニズム/ポストモダニズム論争にも触れる。
専門教育	専門科目	基礎科目	西洋史概説 II	○	歴史を考察する際の1つの重要な視点である世界システム論ならびにグローバル・ヒストリーを取り上げ、従来の歴史学との相違を明らかにしながら、その方法的特徴および意義、そして課題を検討し、多角的な視点で歴史を考察することの重要性を学ぶ。とりわけ、「国」を単位とした比較史ではなく、広域的な関係性の手法で歴史を捉えることの意義を理解し、西欧中心史観を相対化する視点を理解できるようになる。
専門教育	専門科目	基礎科目	超域歴史学講読 C	○	本講義では漢文史料を辞書等の工具書を利用しながら訓読・読解できるようになるだけでなく、その史料が書かれた歴史的な背景についても理解を深めることを目指す。アジア史では漢文史料を基本史料としますが、漢文には古い中国語を指す。日本では古来、漢文を日本語に直す漢文訓読法を発展させてきた。本講義では漢文訓読の基本文法や、読解のための工具書の使い方を学ぶとともに、読解しながらそれぞれの史料が書かれた時代背景などについても解説する。テキストとしては日本で返り点などを付して出版された和刻本の文章を読解するところから始め、徐々にテキストを白文へと近づけていく。
専門教育	専門科目	基礎科目	超域歴史学講読 D-I	○	本授業は、近世イングランド社会に関する英文のテキストや史料の購読を通じて、近世イングランド社会について理解を深め、英文の学術文献や史料を読解できるようになることを目的としている。概説書や短い学術論文をテキストに英語文献や近世英語で書かれた活字史料の読み方を学ぶ。ジェンダーをメインテーマに、具体的な事例と史料から近世イングランド社会に生きる女性と男性の生き方を読み解いていく。テキストの精読を通じて近世イングランド社会における、性差や身体、ジェンダー役割、「女らしさ」、「男らしさ」、近世イングランドの文化や社会規範について理解を深め、「モノ」を手がかりに歴史を研究する手法も学ぶ。現代日本のジェンダー問題についても、近世イングランド社会のそれらと比較しつつ、考える。
専門教育	専門科目	基礎科目	超域歴史学講読 D-II	○	本授業は、超域歴史学講読 D-I の授業内容をふまえ、それをさらに発展させた内容となる。近世イングランド社会に関する英文のテキストや史料の購読を通じて、近世イングランド社会について理解を深め、英文の学術文献や史料を読解できるようになることを目的としている。社会史、宗教史、ジェンダー、マテリアル・カルチャー・ヒストリーからテーマを選び、イギリスの現状とその歴史的起源について理解し、それについて説明できることを目指す。
専門教育	専門科目	基礎科目	超域歴史学講読 E-I	○	これから超域歴史学コースで専門教育を受けつつ自身の研究を開始するに際して、まずは研究書の専門的な読み方を身に付けることが目的である。近代日本思想史研究の方法論を学ぶにあたり、その入門書として、小松裕『田中正造 未来を紡ぐ思想人』を読む。本講義を通じて、先行研究を批判的に検討することの大切さを知ると同時に、その研究が新たに切り開いた地平とその研究を行った著者の努力に対する理解を深める。
専門教育	専門科目	基礎科目	超域歴史学講読 E-II	○	社会思想史を学ぶとは、過去の思想との対話を通して現代を考察する思考法を獲得することであり、その意義について理解を深めることを目的とする。西洋を中心とする社会思想史を学ぶにあたり、近代啓蒙からポストモダンまで扱う山脇直司の『社会思想史を学ぶ』を読む。後半では同じ著者による『ヨーロッパ社会思想史』を取り上げる。社会思想史の意義と思考法を会得し、近代啓蒙からポストモダンまで、それぞれの思想の特徴を精確に把握できるようにする。また、興味のある社会思想家について理解を深める。
専門教育	専門科目	基礎科目	超域歴史学基礎演習 C	○	本演習では東アジア史関連の研究書・論文を受講者各自で読解したうえで報告・討論し、東アジアの社会の性格に関する知識を学ぶ。前半は何炳棧著『科挙と近世中国社会』をとりあげ、後半は前期の学修をふまえて受講者各自が関心のある研究論文をとりあげ、各時間担当者を決めて報告・討論する。伝統中国の国制構造・社会構造、歴史的展開過程に関する基礎的知識を身につけ、東アジア史の研究文献の読解力、またそれをまとめて報告し、討論する能力を養う。
専門教育	専門科目	基礎科目	超域歴史学基礎演習 D-I	○	本授業は、西洋近代社会史に関するテキストや史料の購読を通じて、西洋近代社、とくに近世イングランド社会について理解を深め、日本語と英語の学術文献や史料を読解し、その内容を報告できるようになることを目的としている。本授業では概説書や短い学術論文をテキストに日本語文献や英語文献の読み方、テキストの内容に関する調査の方法を学ぶ。ジェンダーをメインテーマに、具体的な事例から西洋近代社会についての理解を深め、そこに生きる女性と男性の生き方を読み解いていく。テキストの精読を通じて、西洋近代、近世イングランド社会における、性差や身体、ジェンダー役割、「女らしさ」、「男らしさ」、近世イングランドの文化や社会規範について理解を深める。
専門教育	専門科目	基礎科目	超域歴史学基礎演習 D-II	○	西洋史研究のための基礎（文献の読み方、レジュメの書き方、プレゼンする方法など）を学ぶ。受講者は、西洋史の3年生とチームを組んで、各テーマについての研究報告を行う。この授業では、高校の世界史で学んだことを歴史研究として発展させるための方法を学ぶとともに、情報を社会に発信するためのプレゼンテーションと教材研究のノウハウを学ぶ。最新の研究動向を説明できるようになり、史料・情報の収集と分析を高度にできるようになる。

専門教育	専門科目	基盤科目	超域歴史学基礎演習 E-I	○	文化史の中でも近代思想史の学問分野における研究の基礎技術の習得を目的とする。ゼミを通じた研究の手続きとは、個々人が漠然とした問題関心から、文献の探し方、検索の仕方に並行して主題の設定と絞り込みを行い、調べたり読んだりして考え、さらに討議し、書いて深めていくという、きわめて意識的なプロセスである。思考力とは、このような訓練を通して感覚を錬磨することで発達するもので、こうした研究に必要な基本的な技術を習得した上で、具体的にレポートテーマを決め、ゼミの実践を行う。	
専門教育	専門科目	基盤科目	超域歴史学基礎演習 E-II	○	超域歴史学基礎演習 E-I に引き続き、文化史すなわち近代思想史の学問分野におけるレポート・論文作成の基礎技術習得を目的とする。文化史研究室のメンバーのみが集うゼミ形式の授業であるため、対面形式を採用する。引き続き、各人がコンピュータを用い、考えるための技術を習得する。具体的にテーマを決め、レポート・論文を作成するのが、本演習の最終的な目標である。	
専門教育	専門科目	基盤科目	博物館概論	○	博物館及び博物館学に関する基礎的知識の習得を図り、専門性の基礎となる能力を養う。博物館の定義、種類、目的、機能を学ぶと共に、博物館の歴史と現状を把握した上で、現代社会が博物館に求める社会的意義と役割を理解する。併せて博物館の理念、目的、機能の哲学的な基礎を認識することから、博物館のあるべき姿を考える。1. 博物館学とは2. 博物館とは3. 博物館の歴史と動向に着目し、博物館とは何か、なぜ博物館が必要とされるのか等を理解することが目的である。	
専門教育	専門科目	基盤科目	博物館資料論	○	博物館資料の収集、分類、整理、保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動や資料公開の理念と方法等の理解を通じて、人文科学系・自然科学系双方の博物館資料に関する基礎的能力を養うことを目的とする。博物館資料を学び、学術研究あるいは学際研究の意義を理解する。また、資料化のプロセスを学ぶことで、学術資料の在り方を理解する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	日本語学概論 I	○	大学で初めて出会う「日本語学」の講義として、現代日本語の全体像を理解できるように、日本語学の基本的な事項について学ぶ。日本語学は、日本語はどのような姿をしているのか、そこにはどのような「しくみ」が隠されているのかを明らかにする学問である。この授業では、日常生活の中のさまざまな言語現象を取り上げながら、現代日本語のしくみを探り、日本語学の基本的知識と、考え方の基礎を身に付け、適切に活用することができるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	日本語学概論 II	○	古代から現代にいたるまで日本語はさまざまに変化してきた。そのような日本語の変化を文字や音韻、仮名遣い、文法、待遇表現、文体の分野から説明する。また、日本語の歴史を調べるための代表的な資料および資料を読解するために必要な俗字や略字についても説明する。日本語におきた変化について理解し説明できるようになること、日本語の歴史を調べるために必要となる資料や漢字（俗字や略字）に関する基礎的な知識を身に付けることを目的としている。	
専門教育	専門科目	基盤科目	日本文学概論 I	○	日本近代文学の具体的検討を通して、現在の日本文学研究において広く使用される研究方法と概念を習得すると同時に、近代の文学と文化の持った多様性や広がり理解することを目的とする。現在の日本近現代文学研究における各種の研究手法と概念をテーマ別・トピック別に解説し、それらの研究方法と概念に基づいて、近現代の文学と文化における多様な表現者とその表現について理解を深める。	
専門教育	専門科目	基盤科目	日本文学概論 II	○	古代から近世までの日本古典文学の系譜について通史的に理解するとともに、古典文献の読解力を養うことを目的とする。日本古典文学の具体的な作品を取り上げ、成立の背景や時代性、作者の問題等について考えるとともに、他作品との影響関係や後世の受容と展開について理解を深める。作品の成立背景や時代性なども踏まえながら正確に読み解くこと、他作品との影響関係や後世の受容と展開について説明することができるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	中国語学概論	○	中国古典文学は一般的に「漢文」と呼ばれ、中学・高校の授業や大学入試などで触れる機会が多い。東アジア世界の共通表記言語であった漢文法の基礎を身に付けることで、中国や日本の古典にアクセスする力を養うことを目指す。本講義では漢文が「読める」ようになることを目的に、訓読の基本的な技術の修得する。加えて、漢文を読みこなすための基礎知識や文獻調査の方法、資料の引用の仕方など、中国古典文学を学ぶための方法を身に付ける。	
専門教育	専門科目	基盤科目	中国文学史 I	○	本授業では、中国古典文学の大きな流れを理解した上で、日本を中心とした東アジアにおける漢文学の占める位置を知り、中国文学の発生から近現代文学までの流れを理解することを目的に、各ジャンルごとに具体的な作品を取り上げながら、複合的に古代文学の全体像を俯瞰していく。東アジア世界で漢文学の果たした役割を知り、それを各自の今後の学修・研究に生かすことができるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	中国文学史 II	○	中国の文化を理解する上で必要不可欠な、中国古代の思想家達の考え方に触れた上で、日本など他国の思想家達との違いについて考えることを目的とする。本講義では中国の伝統思想について理解することを目的に、さまざまな諸子百家の文章を具体的に取り上げながら、複合的に中国伝統思想の全体像を俯瞰していく。儒教について扱う「中国語圏文化論」前半部分の補完的側面がある。諸子百家の思想がいかなるものかを知り、それを各自の今後の学修・研究に生かすことができるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	中国語会話	○	本授業は、中国語の会話力と聴解力を体系的に向上させ、日常生活や社会的場面での実践的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。この授業では、学習・仕事・人間関係などの多様なテーマを扱い、スピーキングとリスニングを統合した学習を進める。各課では、中級レベルの語彙や文法を確実に習得した上で、まずリスニングを行い、聞いた内容に基づいて質問に答えたり、全体を要約したりする練習を行う。その後、学んだ語彙や表現を実際の場面で活用し、自由な表現へと進めていく。スピーキングとリスニングの双方向的な練習を通じて、中国語での円滑なコミュニケーション能力を養うことを目指す。	
専門教育	専門科目	基盤科目	中国語作文	○	本授業は、中国語の基礎を習得した学生を対象に、より高度な文章作成能力の習得を目指す。中国語の機能別文型の構造や表現スタイルに焦点を当て、段階的なライティング演習を通じて、実践的な表現力と論理的な文章構成力を身につけることを目的とする。本授業では、模範文の読解と段階的なライティングタスクを通じて、中国語の文章作成力を養う。まず、機能別文型を使った作文成りから始め、次に接続詞などを用いた句群展開を行い、最後に模範文の構造やスタイルを模倣した文章作成へと進む。さらに、課題へのフィードバックとピアレビューを通じて、実践的な文章表現力と論理的な構成力を高めていく。	

専門教育	専門科目	基盤科目	英語学概論	○	将来英語科教員になったときの英語に対する幅広い見方を身に付け、生徒の間違いに対する処し方などを学ぶことが目的である。現代英語を「歴史的に」見る姿勢を養っていくために、複雑多様な英語の、基本的な歴史的事実をまず押さえて、さらにその様々な言語変化を言語学的な原理に基づいて考えていく。本事業を通じて、英語の歴史上に起こった様々な言語変化を言語学的な原理に基づいて考えること、現代英語を「歴史的に」見る姿勢を養うことができるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	英会話	○	(英文) Class sessions will include discussions, debates, and presentations. Course content and activities may vary depending on student needs and interests. The goal of this class is to help students improve their ability to speak with ease and accuracy on a range of social issues including education, gender, technology, and lifestyle. Class sessions will include in-depth discussion on a current issue, as well as more casual conversation on daily conversation topics. This is a small class, so students will have opportunities to speak in class every week, and gain confidence in their ability to express themselves. Course content may vary depending on student needs and interests. (和訳) 授業では、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを行う。授業内容や活動は、学生のニーズや関心に応じて変更されることがある。この授業の目標は、教育、ジェンダー、テクノロジー、ライフスタイルなど、さまざまな社会問題について、学生が自信を持って正確に話せるようになることとなる。授業では、時事問題についての深い議論に加え、日常的な話題についてのカジュアルな会話も行う。 少人数制のクラスで、学生は毎週発言の機会があり、自分の考えを表現する自信をつける。授業内容は学生のニーズや関心に応じて変更される場合がある。	
専門教育	専門科目	基盤科目	英作文	○	この授業は、英文エッセイ・ライティングの方法論を学び、卒業論文や資格試験等のために必要となる高度なライティング・スキルの習得を目的とする。受講者は、毎回指定されたトピックのエッセイを執筆して授業に臨み、ペア・ワークやグループワークでピア・レビューを行いながらエッセイを書き直していく。授業後は、授業担当者による添削指導を経て、エッセイを完成させ、自分の意見を英語で的確に表現するだけでなく、文献の引用やデータの分析を行い、複数のパターンの論証方法を実践することで、実証的かつ説得力のある英文を書くことを目指す。	
専門教育	専門科目	基盤科目	英文学史 I	○	英文学史の全体像をつかみ、作家の個性を理解するとともに、社会・文化的背景と作家・作品との影響関係を説明できるようになることを目的とする。古英語の時代から現代英文学に至るまで、英語という言語を用いて表現された文学作品、演劇作品、映像作品を対象とし、作品の背景となる知識を学ぶ。英文学史に関する幅広い知識を有し、社会・文化的背景から作家・作品の特徴を説明できるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	英文学史 II	○	英文学史Iの内容を踏まえ、英文学史の歴史的展開を把握した上で、多様な作家・作品について、社会・文化的背景との影響関係を詳細に説明できるようになることを目的とする。古英語の時代から現代英文学に至るまで、英語という言語を用いて表現された文学作品、演劇作品、映像作品を対象とし、作品の背景となる知識を体系的に学ぶ。英文学史に関する幅広い知識を有し、社会・文化的背景から作家・作品の特徴を説明できるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	独語学概論	○	現代ドイツのアクチュアルな言語現象についての理解を深め、それに関するドイツ語による資料を読んで理解できるようになることを目標としている。さらに、ドイツ語学の基本的な概念の理解も深め、それを応用して現代ドイツ語の様々な言語現象を分析できるように指導する。各テーマについての受講者による口頭発表や資料の講読、解説とディスカッション等によって、現代ドイツのアクチュアルな言語現象や背景にある社会事情についても学ぶ。	
専門教育	専門科目	基盤科目	独文学史	○	「小説」という文学ジャンルがどのようにして誕生し、時代とともにいかに変化してきたのか。あるいはそもそも「小説」とは何なのか。こうした問題関心を軸に、ドイツ語圏文学（ドイツだけでなくオーストリア、スイスを含む）を概観し、文学作品を歴史・社会・思想・文化背景とともに理解する方法を養成する。またその他のヨーロッパ文学や日本文学と比較しながら講義をすることで、近代文学の流れを立体的に理解することを目指す。「小説」という文学ジャンルと、「近代」という時代の密接なつながりを踏まえた上で、爆発的に多様化した小説形態と時代変遷の関係を考察しながら、ドイツ文学の大きな流れを理解する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	独語独文学基礎演習 A 1	○	ドイツ語初級から初中級へのレベルアップを目指す授業である。ドイツ語の仕組みに関する理解力を総合的に深めながら、とりわけ、日本語訳に頼らずに（辞書や文法書を活用しながら）ドイツ文学作品を原文で自信を持って読めるようになることを目的とする。教科書（前半部分）に沿って、ドイツ文学の代表的な作品の抜粋したテキスト（初中級レベル）を精読する。テキストの文学的な評価や解釈についても学ぶが、本授業では特にそれぞれのテキストにある文法現象に注目し、関連文法事項について実践的な練習を行う。授業の一部はドイツ語で行い、パートナー練習やグループ練習も取り入れて、受講者が話す機会を設ける。	
専門教育	専門科目	基盤科目	独語独文学基礎演習 A 2	○	ドイツ語初中級から中級へのレベルアップを目指す授業である。ドイツ語の仕組みに関する理解力を総合的に深めながら、とりわけ、日本語訳に頼らずに（辞書や文法書を活用しながら）ドイツ文学作品を原文で自信を持って読めるようになること、またドイツ語の語彙力を高めることを目的とする。教科書（後半部分）に沿って、ドイツ文学の代表的な作品の抜粋したテキスト（中級レベル）を精読する。テキストの文学的な評価や解釈についても学ぶが、本授業では特にそれぞれのテキストにある文法現象に注目し、関連文法事項について実践的な練習を行う。またドイツ語の単語テストやドイツ語会話の聞き取り、書き取りなどを織り交ぜ、ドイツ語の総合的な力を高めていく。テキスト読解を中心とする課題を毎回の授業で指定するので、受講者はそれを解いて授業に参加する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	仏文学史	○	フランス文学の代表的な作品を通して、フランス文学全体の流れを概観し、併せてフランス文学に関する知識を修得する。作品などについて教員、受講者間で対面形式で積極的に意見交換を行う。中世から20世紀まで、おおよそその世紀ごとに区分し、それぞれの時代の代表的な作品をとおして、おおよそ上の基礎的概念を学ぶ。また、受講者は指定された作品を調べ、発表を行う。	

専門教育	専門科目	基盤科目	仏語仏文学基礎演習 A 1	○	この授業の主要目的はフランス語とフランス文化を見出ししていくことである。フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育によって、毎授業、フランス語のリスニング、表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行う。日常生活において簡単なフランス語でコミュニケーションできるようにすること、リスニング力を強化しフランス語表現を充実させることを目指す。また、フランス人の日常生活（習慣と伝統、現在のフランス社会）について理解を深める。	
専門教育	専門科目	基盤科目	仏語仏文学基礎演習 A 2	○	この授業では、小説の抜粋や新聞記事など、さまざまなジャンルのテキストを使用して中級レベルのフランス語を学修する。テキストを読んで説明した後、テキストのテーマについて簡単な会話をする。この授業では、CEFRのA1～A2レベルのフランス語の発音、文法、語彙などを学修する。フランス語の知識と、フランス語を表現し理解する能力を高め、日々のコミュニケーションの中でよりよく理解し話すことができるようになる。	
専門教育	専門科目	基盤科目	比較文学概論 I	○	1. アジアからアフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、ラテンアメリカにまたがる幅広い地域と、二世紀にわたる時代の文学を通して、文学の豊かさや広がり学ぶ。2. 文学は、人間の生が内的・外的にどう規定されるのかを、様々な方法で提示しようということ、また逆に、社会や人間に対する新しい見方が、文学によって創造されることもある、ということ学ぶ。「自己と他者」「家族」「身体と精神」「性愛とジェンダー」「都市と表象」「異邦と越境」「社会と政治」「歴史をどう語るか」をキーワードとする各章から、教員が13節を選び、それぞれの内容について補足しながら講義する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	比較文学概論 II	○	本授業は、(1) 翻訳と俳句を材料に、比較文学研究の方法について理解を深めること、(2) 日本で生れた短詩形文芸、俳句の国際的な広がりについて知見を深めることを目的とする。文学は翻訳により異なる言語文化圏に受容され、翻訳に着眼し、文学がいかに受容されたかを明らかにする。また、俳句が言語や国境を越えていった様相を、中国の俳人の作品を中心にみていく。そのほか、俳句と漢詩の関わりや、俳句の外国語への翻訳、外国文学への影響などについても理解を深める。	
専門教育	専門科目	基盤科目	比較文学基礎演習 I	○	比較文学の教科書を用いて、研究の方法を身に付けながら、自分なりに材料を探して、作品なテーマについて分析できるようにする。教材は「文学とは何か」「文学はなぜ必要か」といったテーマを含め、「受容の研究」「構造の研究」「翻訳の研究」など比較文学研究の方法と実践を示したものである。履修者は1章ずつ担当し、その内容を理解したうえで、自分なりに応用を行う。期末には、履修者は自分の見つけた材料を身に付けた方法により分析を試み、レポートを作成する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	比較文学基礎演習 II	○	文学作品を多角的に考察し、各テーマの理解を深めるとともに、研究報告の経験と積み、質疑応答や討論に慣れることを目的とする。1回目にガイダンスを行ない、2回目以降は履修者の研究発表、質疑応答と教員のコメンタリーを中心に進める。以下のような多様なテーマへ視野を広げるよう示唆する。「比較文学研究の歴史・概念」/「方法—エクスプリケーション・ド・テキスト」/「影響・受容」/「対比」/「蔵書研究」/「再話研究」/「翻訳・翻案・重訳」/「比較文化」/「比較芸術」など。	
専門教育	専門科目	基盤科目	比較文学基礎演習 III	○	この授業の目的は、「東アジアにおける比較文学と比較文化」について理解を深めることである。具体的には韓国・中国・台湾の諸地域間の近代文学の関わり合い、前近代の漢文学が果たした役割、植民地文学、在日文学、東アジア芸術と西欧との関連といったテーマから関心のあるものを選んで演習をする。テキストとして『比較文学比較文化ハンドブック』（東京大学出版会、2024）所収「東アジアにおける比較文学と比較文化」の章を用いて、研究の方法を学び、実践を試みる。	共同
専門教育	専門科目	基盤科目	国際文化学概論	○	国際文化学は国際的な視野から文化を捉えることにより異文化理解を深めることを目指す。また文化接触より新たな文化が生まれる文化変容のプロセスを学ぶ。最初に文化、国際文化（インターカルチュラル）の定義を通して国際文化学について説明した後、さまざまな文化について論じる。国際的な視野から文化について知見を深めることにより、自身の文化的価値観を理解し、他者の文化的価値観を理解する。また、文化接触による文化変容のプロセスを理解することにより、現代社会の変化に対して柔軟に思考し対応できるようにする。	
専門教育	専門科目	基盤科目	国際文化学基礎演習 I	○	領域横断的な国際文化学の基礎を身に付けるために、テキストを学術的に読解し、内容をまとめ、さらなる研究の方向性、論点、関連する作品を発見するトレーニングを行う。吉見俊哉『アフター・カルチュラル・スタディーズ』とエドワード・W・サイード『知識人とは何か』を精読し、国際文化学の学術的背景、問題意識、方法論等を学ぶ。合わせて研究書の読み方、論点の抽出方法、プレゼン能力を身に付ける。毎回の授業の担当者を決め、担当者に指定する箇所をまとめ、議論する論点提示をプレゼンする。他の授業の参加者は、該当箇所を事前に読んで参加する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	国際文化学基礎演習 II	○	アカデミックプレゼンテーションの基本的構成の理解に基づき、自ら選んだテーマをリサーチし、プレゼンテーションできるようにすることを目指す。また、学生同士で互いのリサーチについて意見を交換し、内容を洗練させる経験を積む。プレゼンテーションの作成に必要な、構成や論理立て、基本的なリサーチの方法、引用のマナー、スライド作成時のポイントを学修する。また、英文講義を通して、英語で書かれた文献の読み方を身に付ける。これらの内容をもとに、実際にプレゼンテーションを行い、意見交換することでリサーチを深める。	
専門教育	専門科目	基盤科目	現代文化資源学基礎演習 I	○	論文を書くためには、まずは前提として論文が読めなければなりません。では読めるとはどんな状態なのか？ 文字を追いかけただけでは読んでいることにはなりません。ただ暗記しているだけでも、読めているとは云えないでしょう。卒論演習の前段階として講義演習（論文を要約して発表する）が位置づけられるのも、要約というのが理解・分解・再構築の一連の作業の結果として生成されるものだからです。この訓練を通じてある程度読めるようになったら、次は書くための準備作業です。論文を書くためには、その主張の根拠となるような素材＝情報（データ）が必要です。情報は座っている手集まるものではないので、足で稼ぐことが基本です。では、どこでどのように探せばいいのか？ 情報探索にも専門的なスキルが当然のことながら存在します。ここまで来てようやく書く作業に入っても、順調に書き進められるかどうかはわかりません。仮に最後まで書いても、校正や推敲しなければならない論文にはなりません。これらのプロセスを順番に体験するチュートリアルがこの授業です。	
専門教育	専門科目	基盤科目	現代文化資源学基礎演習 II	○	卒論演習の前段階として講義演習（論文を要約して発表する）が位置づけられ、要約というのが理解・分解・再構築の一連の作業の結果として生成される。次に、論文を書くためには、その主張の根拠となるような素材＝情報（データ）が必要であり、どこでどのように探せばいいのか、情報探索にも専門的なスキルが必要となる。最後に校正や推敲をして論文が書き上がる。これらのプロセスを順番に体験するチュートリアルがこの授業である。高校までの「調べ学習」の水準を超えた「研究」およびその成果発表媒体としての「論文」の要件を理解し、一定の水準を満たした論文が書ける力が身に付く。	

専門教育	専門科目	基盤科目	メディア論	○	メディアの歴史と実態について学術的・批評的に掘り下げて検討し、自らのメディアとの向き合い方を見つめ直す。本授業では、わたしたちにとって身近で曖昧な存在である「メディア」を取り上げ、理論的な研究と実践の両面から学んでいく。メディアに関する総合的な知識を習得し、メディアに対する学術的・批評的なアプローチの方法を知ったうえで、自ら応用できるようになる。加えて、メディアを独自の視点で分析し、それを的確に言語化できるようにする。	
専門教育	専門科目	基盤科目	現代文化資源学概論Ⅰ	○	文化資源学的方法的特質や研究領域についての理解を深め、文化資源を収集する実践的な方法を身に付ける。マンガ・アニメに関する研究を中心として、文化資源学の多様な研究領域に関する話題をとりあげ、収集した文化資源を研究や実践にどのように活かすかについて概説する。文化財、文化遺産、文化資源、メディア芸術といった言葉の来歴をたどりながら、モノを残すことの意義や、現代における文化政策のあり方などについて考察する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	現代文化資源学概論Ⅱ	○	「マンガ研究」とは文字通りマンガを対象とした知的探求を指すが、「歴史学」や「社会学」のように「マンガ学」と名乗ったり呼ばれたりすることはほとんどない。これが何故なのかという問いに直接的に答えることは必ずしも本講義の目的ではないものの、研究領域としての広がりや蓄積を捉えるうえで念頭に置いてほしい疑問のひとつである。ここでは『マンガ・スターダース』(人文書院、2020)において紹介されたマンガ研究の代表的な著作30冊を概観することによって、マンガ研究の研究史と方法論について学ぶ。マンガ研究の代表的な論者と論点を具体的に把握し、個別の内容把握にとどまらず研究史の流れをふまえたうえで、新たな課題や研究の切り口を提案できるようにする。	
専門教育	専門科目	基盤科目	現代文化資源学実習A	○	実際に調査活動を経験することによって、文化資源学への理解を深め、今後の専門的な研究活動のための訓練を行う。多様な現代文化資源を収集して記録し、実践的な活用方法を考える。受講生はまず資料収集の課題を設定し、それに基づく調査項目を作成し、長期休暇期間などを中心として調査を実施する。調査終了後、資料を整理・分析し、調査報告を作成し、公表する。現代文化資源の収集・調査を行う上で必要な基礎的な方法と理論を習得する。	
専門教育	専門科目	基盤科目	現代文化資源学実習B	○	実際に調査活動を経験することによって、文化資源学への理解を深め、今後の専門的な研究活動のための訓練を行う。多様な現代文化資源を収集して記録し、実践的な活用方法を考える。受講生は収集した資料を先行研究を踏まえて分析し、その結果を調査報告書として取りまとめ、成果を公表・発信する。集団調査における調査計画の立案や事前学習をはじめ、フィールドワークの実施・調査報告の取りまとめまでに至る一連のプロセスを経験し、現代文化資源学研究の手法を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学特殊講義A		哲学思考の極北とも言うべきウィットゲンシュタイン『論考』を読み解き、言語や意味、論理、世界について考える。『論理哲学論考』(Tractatus Logico-philosophicus)はウィットゲンシュタイン(Ludwig Wittgenstein, 1889-1951)青年時代の思考の総決算であるとともに、20世紀を代表する哲学書の一つであり、論理学と言語哲学から倫理学や美学さらに文学や美術に至るまで広範な影響を及ぼしました。この授業ではその『論考』を読み解いていく。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学特殊講義B		論理学の形式体系そのものの特性を研究するメタ論理学、その基本を学ぶことで、論理についてより深く理解する。論理体系そのものが有する特性について研究する論理学の分野を、論理学についての論理学という意味でメタ論理学と呼ぶ。この授業では、「論理学」(2年次前期)で学んだ論理体系(1階の述語論理)について補足した上で、体系そのものの健全性や完全性、決定可能性といった特性を考察する。さらに、計算とは何か、何が計算可能かという問題に答えるために数学者チューリング(Alan Turing, 1912-1954)が案出した理論上の機械であるチューリング機械(Turing Machine)について学ぶ。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学特殊講義C		人間が生きものの一種としてどのように進化してきたかを理解しつつ、人間がどのような存在であるのかを考える。私たち人間が38億年の進化史のほかに現れた生きものの一種であることは明らかであるが、一方でほかの生きものとはかなり異なる側面があるように見えるのも確かである。自然のなかの生きものでありながら自然を超えた存在のようにも思われる、この矛盾は現代哲学の中心問題の一つである。人間をめぐるこの矛盾を、さまざまな観点から考える。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学特殊講義D		初期分析哲学の古典的な道具立てである、ラッセルの記述理論と論理主義、ウィットゲンシュタインの像理論、ストローソンの前提理論を哲学的・思想的な文脈において理解することを目指す。初期分析哲学ということによって包括する範囲はさまざまに考えうる。初期分析哲学の形成過程に落とされた「カントの影」について考えるのが、本講義の目的である。まず講義の序論として、初期分析哲学が対決した近世哲学の心理主義・認識論中心主義を概観する。講義の本体では、主にパートランド・ラッセルの哲学について、それをカント哲学と対質させて考察していく。前半ではラッセルの記述理論と判断論、数学の哲学における論理主義を扱い、後半ではラッセルの判断論に対するウィットゲンシュタインの批判、および記述理論に対するストローソンの批判を題材とする。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学特殊講義E		「悪口」という身近な言語現象の分析を通じて、言葉の意味や真理に関わる哲学上の基本概念・考察手法を理解し身に付ける。まず準備として、真理条件の意味や前提、推意(含み)などの基本概念を学び、意味の諸相について理解を深める。次に、嘘、誤誘導、でたため、蔑称(s slur)の分析を行う。蔑称に関しては、記述説、前提説、表出説といった代表的な立場を取り上げ、最後に、総称文の分析を行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学特殊講義F		プラトン『国家』は哲学の最も重要なテキストである。その『国家』において何が問われ、どう答えられたのか、理解することを目指す。授業の概要哲学のはじまりが何であったかについて改めて考えるとともに、心と行為、理性と価値といった哲学の基本的なテーマをめぐって、そもそも何が問題であるのかを、『国家』という古典を通して学び直す。「人間とは何か」「正義とは何か」「哲学とは何か」、この三つのテーマがどういうつながりを持つのかについて、深く理解する。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学特殊講義G		現代哲学で議論されている問題について学び、よく理解し、さらには問題について自分なりに考えられるようになることを目指す。自由意志や自然主義をはじめ、現代の哲学ではさまざまな問題が議論されています。そこで何が問題とされているのか、その問題がどこから出てくるのか、その歴史的背景はどのようなものか、どのような答えがこれまで提起されているのか等、さまざまな観点で考察し、理解を深めるとともに、自分なりの考えを形成する。	

専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡA 1		英語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、英語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の米国を代表する哲学者の一人であり、我が国でもよく知られているネイゲル(Thomas Nagel, 1937-)の論文を読む。形而上学や心の哲学から倫理学や政治哲学まで、ネイゲルの著述は多岐にわたること驚くほどである。この授業では、死や人生の意味、価値をめぐる哲学問題を扱った文章を取り上げ、じっくり読み解いてゆき、それをもとに受講者といろいろ議論する。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡA 2		英語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、英語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の米国を代表する哲学者の一人であり、我が国でもよく知られているネイゲル(Thomas Nagel, 1937-)の論文を読みます。形而上学や心の哲学から倫理学や政治哲学まで、ネイゲルの著述は多岐にわたること驚くほどです。この授業では、死や人生の意味、価値をめぐる哲学問題を扱った文章を取り上げ、じっくり読み解いてゆき、それをもとに受講者といろいろ議論してゆきたいと思います。哲学演習ⅡA 1よりも理解と議論の力が要求されます。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡA 3		英語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、英語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の米国を代表する哲学者の一人であり、我が国でもよく知られているネイゲル(Thomas Nagel, 1937-)の論文を読みます。形而上学や心の哲学から倫理学や政治哲学まで、ネイゲルの著述は多岐にわたること驚くほどです。この授業では、死や人生の意味、価値をめぐる哲学問題を扱った文章を取り上げ、じっくり読み解いてゆき、それをもとに受講者といろいろ議論してゆきたいと思います。哲学演習ⅡA 2よりも理解と議論の力が要求されます。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡB 1		外国語で書かれた哲学論文を読み、読解力を高めるとともに、哲学問題について理解する。さらに、哲学問題を考える仕方を学ぶ。現代論理学の創設者にして19世紀のもっとも重要な哲学者の一人である独のフレイゲ(Gottlob Frege, 1848-1925)は、その偉大な仕事と現代への影響力のゆえに、近代美術の父になぞらえ「哲学のセザンヌ」とも言うべき存在である。かれの著述はその明晰さゆえに哲学散文の模範であり、哲学の思考はどうあるべきなのか、そのことをこれ以上ない仕方であって教えてくれる。そんなフレイゲの哲学論文を読んでゆき、外国語の哲学論文を読む力を付けながら、言語や知識をめぐるいろいろな問題を、互いに議論しながら考える。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡB 2		外国語で書かれた哲学論文を読み、読解力を高めるとともに、哲学問題について理解する。さらに、哲学問題を考える仕方を学ぶ。現代論理学の創設者にして19世紀のもっとも重要な哲学者の一人である独のフレイゲ(Gottlob Frege, 1848-1925)は、その偉大な仕事と現代への影響力のゆえに、近代美術の父になぞらえ「哲学のセザンヌ」とも言うべき存在です。かれの著述はその明晰さゆえに哲学散文の模範であり、哲学の思考はどうあるべきなのか、そのことをこれ以上ない仕方であって教えてくれます。そんなフレイゲの哲学論文を読んでゆき、外国語の哲学論文を読む力を付けながら、言語や知識をめぐるいろいろな問題を、互いに議論しながらじっくり考えてゆきます。哲学演習ⅡB 1よりも理解と議論の力が要求されます。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡB 3		外国語で書かれた哲学論文を読み、読解力を高めるとともに、哲学問題について理解する。さらに、哲学問題を考える仕方を学ぶ。現代論理学の創設者にして19世紀のもっとも重要な哲学者の一人である独のフレイゲ(Gottlob Frege, 1848-1925)は、その偉大な仕事と現代への影響力のゆえに、近代美術の父になぞらえ「哲学のセザンヌ」とも言うべき存在です。かれの著述はその明晰さゆえに哲学散文の模範であり、哲学の思考はどうあるべきなのか、そのことをこれ以上ない仕方であって教えてくれます。そんなフレイゲの哲学論文を読んでゆき、外国語の哲学論文を読む力を付けながら、言語や知識をめぐるいろいろな問題を、互いに議論しながらじっくり考えてゆきます。哲学演習ⅡB 2よりも理解と議論の力が要求されます。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡC 1		英語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、英語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の米国を代表する哲学者の一人であり、我が国でもよく知られているネイゲル(Thomas Nagel, 1937-)の論文を読む。形而上学や心の哲学から倫理学や政治哲学まで、ネイゲルの著述は多岐にわたること驚くほどである。この授業では、心と世界の関係をめぐり哲学問題を扱った文章を取り上げ、じっくり読み解いてゆき、それをもとに受講者と議論する。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡC 2		英語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、英語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の米国を代表する哲学者の一人であり、我が国でもよく知られているネイゲル(Thomas Nagel, 1937-)の論文を読みます。形而上学や心の哲学から倫理学や政治哲学まで、ネイゲルの著述は多岐にわたること驚くほどです。この授業では、心と世界の関係をめぐり哲学問題を扱った文章を取り上げ、じっくり読み解いてゆき、それをもとに受講者といろいろ議論してゆきたいと思います。哲学演習ⅡC 1よりも理解と議論の力が要求されます。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡC 3		英語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、英語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の米国を代表する哲学者の一人であり、我が国でもよく知られているネイゲル(Thomas Nagel, 1937-)の論文を読みます。形而上学や心の哲学から倫理学や政治哲学まで、ネイゲルの著述は多岐にわたること驚くほどです。この授業では、心と世界の関係をめぐり哲学問題を扱った文章を取り上げ、じっくり読み解いてゆき、それをもとに受講者といろいろ議論してゆきたいと思います。哲学演習ⅡC 2よりも理解と議論の力が要求されます。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡD 1		英語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、英語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の哲学者、とりわけ英語圏の哲学者による哲学文献を、担当者を決めつつ教員の指導のもとで緻密に読んでゆくことで、文献読解力を養う。それを通じて現代哲学で論ぜられるさまざまな問題について理解し、さらにその問題にたいする自分なりの考えを形成することを旨とする。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡD 2		外国語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、外国語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の哲学者、とりわけ英語圏の哲学者による哲学文献を講読することで、文献読解力を養うとともに、現代哲学で論ぜられる問題について理解し、自分なりの考えを形成することを旨とします。哲学演習ⅡD 1よりも理解と議論の力が要求されます。	
専門教育	専門科目	展開科目	哲学演習ⅡD 3		外国語で書かれた哲学の文章を読み、訳し、それをもとに参加者が議論することで、外国語文献を読む力を鍛えるとともに哲学問題への理解を深めます。現代の哲学者、とりわけ英語圏の哲学者による哲学文献を講読することで、文献読解力を養うとともに、現代哲学で論ぜられる問題について理解し、自分なりの考えを形成することを旨とします。哲学演習ⅡD 2よりも理解と議論の力が要求されます。	

専門教育	専門科目	展開科目	神経・生理心理学	脳と行動との関係について、脳損傷等を扱った臨床研究や正常脳における実験例を通して理解を深める。脳の活動が観察可能な行動としてどのようにあらわれているかを説明する。臨床神経心理の観点からは脳に病変のある症例を通して、実験神経心理の観点からは正常脳に対する実験的研究を基に、イラストや動画を用いて説明する。はじめに、脳神経系の構造及び機能について、脳・神経系の各部位の役割を概観する。次に、記憶、感情等の生理学的反応の機序について、情動・学修・睡眠といった重要なトピックをとりあげ説明する。次に、高次脳機能障害の概要について、脳機能の特異性が示唆されている発達障害や精神疾患について治療へのアプローチも含めて紹介する。最後に脳機能を可視化する技術についてデモンストレーションを通して視覚的に体験する。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学特殊講義A	知覚科学の主要な理論についてしっかりと基礎を身に付け、人間の知覚や行動に影響を与える心の機能を説明できるようになることを目指す。前半では、聴覚システムの仕組みと、音が脳内でどのように処理されるかをより深く理解することを目的としている。音や他の感覚情報（視覚、触覚など）に関連する一般的な例を用いて脳の活動を測定する方法を学び、聴覚情景分析、時間・リズム知覚、音声知覚に関連する単純な音や複雑な音のデモをたくさん聴きながら、聴覚知覚について学ぶ。後半は、触覚と温熱システムがどのように機能するのか、また感覚情報がどのようにシチュエーション認識や感情伝達に使われるのかをより深く理解することを目的としている。また、デモンストレーションやワークショップを実施し、学修過程における実体験を提供する。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学特殊講義B	認知発達と言語発達との関連性を知り、その評価方法について知ることを目的とする。私たちは日常、いとも簡単に言葉を使い、コミュニケーションを楽しんでいる。しかし、言葉は、言葉だけで発達するわけではない。様々な情報を見て、聞いて、感じることによって徐々に言葉を獲得する。この授業では、生を受け、言葉を話すことができるまでに起こる認知発達や言葉を獲得する経過、また、その評価について学ぶ。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学特殊講義C	応用行動分析学の基本的な内容を理解し、日常の学修・言語・行動的な困難さや潜在的な問題を具体的に捉えられるようになることを目指す。現在の発達障がい支援では、障がい特性に依拠しない診断横断的支援を遂行することが重要になり、応用行動分析学を用いた発達臨床支援が注目を集めている。本講義では特に言語獲得支援の実際に着目し、初期の言語発達から対人コミュニケーションまでの発達臨床について概観する。その過程で学修困難状態についても体験的に学修する。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡA-1	多感覚知覚とその身体性に関する英語論文の講読を通して、心理学の実験方法や研究内容に対する理解を深められるようになることを目指す。多感覚知覚とその身体性に関する最近の研究論文を取り上げ、ヒトの知覚認知の背後にある「身体（運動）」の問題について演習形式で探求する。英語の学術論文を読み、発表者の報告に基づいてディスカッションを行う。多感覚知覚とその身体性に関する問題設定を理解でき、心理学の英語論文を読めるようになる。また、英語論文の内容をプレゼンし、さらに、論文を深く理解し、新しいリサーチアクションを作り出すことができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡA-2	ヒトの知覚と認知に関する英語論文の講読を通して、心理学の実験方法や研究内容に対する理解を深められるようになることを目指す。ヒトの知覚と認知に関する最近の研究論文を取り上げ、知覚認知に関わる心の仕組みについて演習形式で探求する。英語の学術論文を読み、発表者の報告に基づいてディスカッションを行う。心理学の問題設定を理解でき、心理学の英語論文を読めるようになる。また、英語論文の内容をプレゼンし、さらに、論文を深く理解し、新しいリサーチアクションを作り出すことができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡA-3	多感覚知覚とその身体性に関する英語論文の講読を通して、心理学の実験方法や研究内容に対する理解を深められるようになることを目指す。多感覚知覚とその身体性に関する最近の研究論文を取り上げ、ヒトの知覚認知の背後にある「身体（運動）」の問題について演習形式で探求する。英語の学術論文を読み、発表者の報告に基づいてディスカッションを行う。多感覚知覚とその身体性に関する問題設定を理解でき、心理学の英語論文を読めるようになる。また、英語論文の内容をプレゼンし、さらに、論文を深く理解し、新しいリサーチアクションを作り出すことができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡA-4	ヒトの知覚と認知に関する英語論文の講読を通して、心理学の実験方法や研究内容に対する理解を深められるようになることを目指す。ヒトの知覚と認知に関する最近の研究論文を取り上げ、知覚認知に関わる心の仕組みについて演習形式で探求する。英語の学術論文を読み、発表者の報告に基づいてディスカッションを行う。心理学の問題設定を理解でき、心理学の英語論文を読めるようになる。また、英語論文の内容をプレゼンし、さらに、論文を深く理解し、新しいリサーチアクションを作り出すことができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡB-1	脳科学に関する包括的な英語論文や教科書を通じて、ヒトの認知を支える脳の仕組みについて理解を深める。指定のテキストについて、受講者は興味を共有する班を作って分担する章を決め、その内容を報告する。報告された内容をもとに、研究方法やその妥当性について議論し、適宜、内容に関連した講義をおこなう。前半と後半の各期間に、全ての班に担当が回るようにスケジュールする。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡB-2	世界の心理学論文の大部分を占める英語論文を講読することにより、認知心理学の最前線を知るとともに、下級生の指導を通して自らの理解を深める。最近の認知心理学の英語論文を取り上げ、人間の認知過程について演習形式で探求する。受講者は興味を共有する班を作って論文を選んで読み、その内容を報告する。報告された内容をもとに、研究方法やその妥当性について議論し、適宜、内容に関連した講義をおこなう。前半と後半の各期間に、全ての班に担当が回るようにスケジュールする。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡB-3	脳科学に関する包括的な英語論文や教科書を通じて、ヒトの認知を支える脳の仕組みについて理解を深める。指定のテキストについて、受講者は興味を共有する班を作って分担する章を決め、その内容を報告する。報告された内容をもとに、研究方法やその妥当性について議論し、適宜、内容に関連した講義をおこなう。前半と後半の各期間に、全ての班に担当が回るようにスケジュールする。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡB-4	世界の心理学論文の大部分を占める英語論文を講読することにより、認知心理学の最前線を知るとともに、下級生の指導を通して自らの理解を深める。最近の認知心理学の英語論文を取り上げ、人間の認知過程について演習形式で探求する。受講者は興味を共有する班を作って論文を選んで読み、その内容を報告する。報告された内容をもとに、研究方法やその妥当性について議論し、適宜、内容に関連した講義をおこなう。前半と後半の各期間に、全ての班に担当が回るようにスケジュールする。

専門教育	専門科目	展開科目	心理学演習ⅡC-1	認知心理学に関する日本語または英語論文の講読を通して、心理学の問題設定の仕方や方法、データの解釈の仕方に関する理解を深めると同時に、他者に向けてわかりやすいプレゼンテーション資料を作り、それに基づく発表が行えるようになることを目指す。最近発表された研究論文を取り上げ、主としてヒトの認知の仕組みについて演習形式で探求する。日本語または英語の学術論文を読み、発表者（グループ）のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学実験Ⅰ	心のなかで生じている主観的な体験を行動データに置き換える心理学の手法を体験することを、第一の目的とする。対面授業においては、生理心理計測機器の使用法のほか、実験統制の方法や実験者としての振るまい方を体験を通して学ぶ。心理学のいくつかのトピックスについて、実験計画に基づいたデータ収集を行い、データのグラフ化・統計的解析を通して現象を理解するとともに、データに基づいたレポート作成能力を磨く。また、実験のプログラミングも体験する。
専門教育	専門科目	展開科目	心理学実験Ⅱ	最新機器を用いた心理学実験の技法を体験する。それとともに、自分で実験計画を立てられるようになることを目指す。対面授業においては、生理心理計測機器の使用法を学ぶ。また、自らオリジナル実験を考案し、データの取得、分析、発表までの流れを学ぶ。前半では与えられた実験計画で実験を体験し、レポートを作成する。後半では自分たちで実験計画を立て実験を実施する。
専門教育	専門科目	展開科目	人間科学上級演習A1	大学院受験を希望する場合に、外国語で書かれた高度な哲学論文を読解できるようになることを目指す。外国語で書かれた論文をある程度まで読解できることは、大学院に進学して哲学研究を続けようとするなら必須である。この授業では、英語で書かれた高度な哲学文献を講読し、論文読解能力と思考力を鍛える。外国語で書かれた哲学論文を読んで、内容の要約、問題の理解、それに基づく議論ができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	人間科学上級演習A2	大学院受験を希望する場合に、外国語で書かれた高度な哲学論文を読解できるようになることを目指す。外国語で書かれた論文をある程度まで読解できることは、大学院に進学して哲学研究を続けようとするなら必須である。この授業では、英語で書かれた高度な哲学文献を講読し、論文読解能力と思考力を鍛える。外国語で書かれた哲学論文を読んで、内容の要約、問題の理解、それに基づく議論ができるようになる。人間科学上級演習A1よりも理解と議論の力が要求されます。
専門教育	専門科目	展開科目	人間科学上級演習B1	大学院受験を希望する場合に、外国語で書かれた高度な哲学論文を読解できるようになることを目指す。外国語で書かれた論文をある程度まで読解できることは、大学院に進学して哲学研究を続けようとするなら必須である。この授業では、英語で書かれた高度な哲学文献を講読し、論文読解能力と思考力を鍛える。外国語で書かれた哲学論文を読んで、内容の要約、問題の理解、それに基づく議論ができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	人間科学上級演習B2	大学院受験を希望する場合に、外国語で書かれた高度な哲学論文を読解できるようになることを目指す。外国語で書かれた論文をある程度まで読解できることは、大学院に進学して哲学研究を続けようとするなら必須である。この授業では、英語で書かれた高度な哲学文献を講読し、論文読解能力と思考力を鍛える。外国語で書かれた哲学論文を読んで、内容の要約、問題の理解、それに基づく議論ができるようになる。人間科学上級演習B1よりも理解と議論の力が要求されます。
専門教育	専門科目	展開科目	社会調査実習Ⅰ	調査の企画や実査、報告書作成に関する理論的な知識だけではなく実践知を習得することが目標である。これまでに学修した社会調査についての知識をふまえ、実際に調査の企画や実査、報告書作成を経験し、これらに関する理論的な知識だけではなく実践知を習得する。社会調査（調査の企画や実査、報告書作成など）を行うために必要な理論的・実践的な知識・技能を習得し、諸データの高度かつ応用的な分析を展開できるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	社会調査実習Ⅱ	社会調査実習Ⅰに引き続き授業である。調査の企画や実査、報告書作成に関する理論的な知識だけではなく実践知を習得することが目標である。これまでに学修した社会調査についての知識をふまえ、実際に調査の企画や実査、報告書作成を経験し、これらに関する理論的な知識だけではなく実践知を習得する。社会調査（調査の企画や実査、報告書作成など）を行うために必要な理論的・実践的な知識・技能を習得し、諸データの高度かつ応用的な分析を展開できるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	倫理学演習A-Ⅰ	ケアの倫理と政治学に関するテキストを用いて、1)ケアの倫理と政治学の関係について知り、2)それを踏まえて参加者全員で考察することで、他人の考えを知り、自分自身の意見を述べるができるようになることを本演習の目的とする。ジョン・C・トレントの『モラル・バウンダリーケアの倫理と政治学』のテキストを用いる。毎回の担当者には、レジュメを作成して発表する。他の参加者は予めテキストの該当する章を精読しておき、当該テーマについて全員で検討する。
専門教育	専門科目	展開科目	倫理学演習A-Ⅱ	ヒュームの道徳に関するテキストを用いて、1)ヒュームの見解の要点について知り、2)それを踏まえて参加者全員で考察することで、他人の考えを知り、自分自身の意見を述べるができるようになることを本演習の目的とする。ヒュームのテキスト（翻訳）を用いる。毎回の担当者には、レジュメを作成して発表する。他の参加者は予めテキストの該当する章を精読しておき、当該テーマについて全員で検討する。
専門教育	専門科目	展開科目	倫理学演習B-Ⅰ	「倫理学」とは人間（関係）のあるべき姿を探究する学問を意味し、「深層心理学」とはフロイトやユングに代表される、単なる意識的反省では届かぬ無意識の次元を探究する学問を意味する。本授業では倫理学と深層心理学という二つの学問のアプローチによって、特に西洋人と比較しながら、日本人の生き方、人間関係のあり方についての深い理解を、身近な例を用いて得ることによって、上記のような問題への答えを自覚できるようにする。専門的文献の講読を通して、先行研究においてどのような議論が展開され、どのような論点や課題が提示されているのかを把握するとともに、その論点や課題を議論を通して検討し、説得的で魅力的な考え方を自分たちで探求していく。
専門教育	専門科目	展開科目	倫理学演習B-Ⅱ	「倫理学」とは人間（関係）のあるべき姿を探究する学問を意味し、「深層心理学」とはフロイトやユングに代表される、単なる意識的反省では届かぬ無意識の次元を探究する学問を意味する。本授業では倫理学と深層心理学という二つの学問のアプローチによって、特に西洋人と比較しながら、日本人の生き方、人間関係のあり方についての深い理解を、身近な例を用いて得ることによって、上記のような問題への答えを自覚できるようにする。専門的文献の講読を通して、先行研究においてどのような議論が展開され、どのような論点や課題が提示されているのかを把握するとともに、その論点や課題を議論を通して検討し、説得的で魅力的な考え方を自分たちで探求していく。
専門教育	専門科目	展開科目	倫理学応用演習A-Ⅰ	倫理学においては、近年、理性主義の倫理学に対して、感情主義の倫理学の再検討が進められている。本演習では、「情念」とは何かについて、ルネ・デカルトの理論について知り、その長所や短所を検討することを目指す。ルネ・デカルトの『情念論』をテキストに用いて、情念とは何か、またその働き、徳との関係などについて検討する。デカルトにおける「情念」とは何か、「情念」という概念を踏まえて、情念と徳の関係を説明できるようになる。

専門教育	専門科目	展開科目	倫理学応用演習 A-II		功利主義とは何かについて、どのような理論が展開されているかを知り、その長所や短所を検討することを旨とする。ミルの功利主義に関する理論およびそのほかの功利主義に関する理論をとりあげ、功利主義とは何か、またその現代的な可能性と限界について考察する。功利主義とは何か、功利主義の長所と短所、功利主義という概念を踏まえて、道徳とは何かについて説明できるようにする。
専門教育	専門科目	展開科目	倫理学応用演習 B-I		専門的文献について内容を正確に理解し、自分の言葉でわかりやすくプレゼンする力を養うこと、また、専門的内容を自分の頭で批判的に検討し、他者と議論しながら考察を深める力を養うことを目的とする。専門的文献の講読を通して、先行研究においてどのような議論が展開され、どのような論点や課題が提示されているのかを把握するとともに、その論点や課題を議論を通して検討し、説得的で魅力的な考え方を自分たちで探求する。
専門教育	専門科目	展開科目	倫理学応用演習 B-II		カントの倫理学に関するテキストを用いて、1)カント倫理学の要点について知り、2)それを踏まえて参加者全員で考察することで、他人の考えを知り、自分自身の意見を述べるができるようになることを本演習の目的とする。カントの『道徳形而上学の基礎づけ』をテキストとして用いる。毎回の担当者は、レジュメを作成して発表する。他の参加者は予めテキストの該当する章を精読しておき、当該テーマについて全員で検討する。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 A-I		社会学の重要な理論的研究と経験的研究の双方の文献を参加者全員で読み込み、社会学的な思考法を学びながら、いまわれわれの生きている現代社会(modernsociety)とはいかなる時代かについて、緻密かつ多面的な思考を深めることを目的とする。社会学の重要な理論的研究と経験的研究の双方の文献を参加者全員で読み込み、社会学的な思考法を学びながら、いまわれわれの生きている現代社会(modernsociety)とはいかなる時代かについて、自分の頭で考え、自分の足を使って調べ、分析し、受講者同士でたがいに報告し、議論する。またこれにより、参加者が自身の現代社会論を発展させることを目指す。そのために、適宜発表者を決めて報告を行う。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 A-II		社会学演習 A-I に引き続き、社会学の重要な理論的研究と経験的研究の双方の文献を参加者全員で読み込み、社会学的な思考法を学びながら、いまわれわれの生きている現代社会(modernsociety)とはいかなる時代かについて、緻密かつ多面的な思考を深めることを目的とする。社会学の重要な理論的研究と経験的研究の双方の文献を参加者全員で読み込み、社会学的な思考法を学びながら、いまわれわれの生きている現代社会(modernsociety)とはいかなる時代かについて、自分の頭で考え、自分の足を使って調べ、分析し、受講者同士でたがいに報告し、議論する。またこれにより、参加者が自身の現代社会論を発展させることを目指す。そのために、適宜発表者を決めて報告を行う。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 A-III		社会学の重要な理論的研究と経験的研究の双方の文献を参加者全員で読み込み、社会学的な思考法を学びながら、いまわれわれの生きている現代社会(modernsociety)とはいかなる時代かについて、緻密かつ多面的な思考を深めることを目的とする。社会学の重要な理論的研究と経験的研究の双方の文献を参加者全員で読み込み、社会学的な思考法を学びながら、いまわれわれの生きている現代社会(modernsociety)とはいかなる時代かについて、自分の頭で考え、自分の足を使って調べ、分析し、受講者同士でたがいに報告し、議論する。またこれにより、参加者が自身の現代社会論を発展させることを目指す。そのために、適宜発表者を決めて報告を行う。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 A-IV		社会学演習 A-III に引き続き、社会学の重要な理論的研究と経験的研究の双方の文献を参加者全員で読み込み、社会学的な思考法を学びながら、いまわれわれの生きている現代社会(modernsociety)とはいかなる時代かについて、緻密かつ多面的な思考を深めることを目的とする。社会学の重要な理論的研究と経験的研究の双方の文献を参加者全員で読み込み、社会学的な思考法を学びながら、いまわれわれの生きている現代社会(modernsociety)とはいかなる時代かについて、自分の頭で考え、自分の足を使って調べ、分析し、受講者同士でたがいに報告し、議論する。またこれにより、参加者が自身の現代社会論を発展させることを目指す。そのために、適宜発表者を決めて報告を行う。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 B-I		社会学のモデルとその扱いを習得することが目標である。すなわちモデルを用いて観察された事象から社会、特に近/現代社会の仕組みについて推論し、その推論を、別の観察された事象に照らして評価できるようになることである。社会学の文献からモデルを抽出する技法、モデルを用いて推論する技法、モデルを評価する技法について反復学習を行い、これを習得する。文献から社会学の概念装置を抽出すること、その概念装置を用いて推論すること、概念装置を評価することができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 B-II		社会学演習 B-I に引き続き、社会学のモデルとその扱いを習得することが目標である。すなわちモデルを用いて観察された事象から社会、特に近/現代社会の仕組みについて推論し、その推論を、別の観察された事象に照らして評価できるようになることである。社会学の文献からモデルを抽出する技法、モデルを用いて推論する技法、モデルを評価する技法について反復学習を行い、これを習得する。文献から社会学の概念装置を抽出すること、その概念装置を用いて推論すること、概念装置を評価することができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 B-III		社会学のモデルとその扱いを習得することが目標である。すなわちモデルを用いて観察された事象から社会、特に近/現代社会の仕組みについて推論し、その推論を、別の観察された事象に照らして評価できるようになることである。社会学の文献からモデルを抽出する技法、モデルを用いて推論する技法、モデルを評価する技法について反復学習を行い、これを習得する。文献から社会学の概念装置を抽出すること、その概念装置を用いて推論すること、概念装置を評価することができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 B-IV		社会学演習 B-III に引き続き、社会学のモデルとその扱いを習得することが目標である。すなわちモデルを用いて観察された事象から社会、特に近/現代社会の仕組みについて推論し、その推論を、別の観察された事象に照らして評価できるようになることである。社会学の文献からモデルを抽出する技法、モデルを用いて推論する技法、モデルを評価する技法について反復学習を行い、これを習得する。文献から社会学の概念装置を抽出すること、その概念装置を用いて推論すること、概念装置を評価することができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 C-I		社会学の古典的・代表的な文献の輪読を通じて社会学的な考え方を習得し、自らそれをふまえて現代社会の諸問題について分析・考察できるようになることが目標である。社会学の古典的・代表的な文献について、事前に決めた発表者が発表を行い、続いて参加者全体でディスカッションを行う。社会学の主要な理論や知識を習得し、それらを使って自らの研究テーマに適用し、社会学研究を高度な水準で実践できるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 C-II		社会学演習 C-I に引き続き、社会学の古典的・代表的な文献の輪読を通じて社会学的な考え方を習得し、自らそれをふまえて現代社会の諸問題について分析・考察できるようになることが目標である。社会学の古典的・代表的な文献について、事前に決めた発表者が発表を行い、続いて参加者全体でディスカッションを行う。社会学の主要な理論や知識を習得し、それらを使って自らの研究テーマに適用し、社会学研究を高度な水準で実践できるようになる。

専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 C-III		社会学の古典的・代表的な文献の輪読を通じて社会的な考え方を習得し、自らそれをふまえて現代社会の諸問題について分析・考察できるようにすることが目標である。社会学の古典的・代表的な文献について、事前に決めた発表者が発表を行い、続いて参加者全体でディスカッションを行う。社会学の主要な理論や知識を習得し、それらを使って自らの研究テーマに適用し、社会学研究を高度な水準で実践できるようにする。
専門教育	専門科目	展開科目	社会学演習 C-IV		社会学演習 C-IIIに引き続き、社会学の古典的・代表的な文献の輪読を通じて社会的な考え方を習得し、自らそれをふまえて現代社会の諸問題について分析・考察できるようにすることが目標である。社会学の古典的・代表的な文献について、事前に決めた発表者が発表を行い、続いて参加者全体でディスカッションを行う。社会学の主要な理論や知識を習得し、それらを使って自らの研究テーマに適用し、社会学研究を高度な水準で実践できるようにする。
専門教育	専門科目	展開科目	現代社会分析演習		社会調査における質的データの収集方法や分析方法を理解すること、質的調査を行うために必要な知識と技能を習得することが目的とした演習形式の授業である。最初に教員が質的調査の意義や歴史について概説する。続いて、参与観察法、フィールドワーク、インタビュー等の質的調査の方法、およびライフヒストリー分析、ドキュメント分析、内容分析等の質的データの分析方法に関連する既往研究について、受講生が発表し、受講生全体で議論を行う。続いて受講生が自身で選んだ調査テーマについて具体的な調査計画を作成して発表し、受講生全体で問題点や改善点や検討する。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-I		社会学の概念を把握し、観察された事象から現代社会の仕組みを推論するための知識・技術を習得することが目標である。「現代社会の構造と変容」を解説するというより「現代社会の構造と変容」を推論するための道具立てとなる概念装置について解説することに重きをおいた授業である。こうした推論を巧みに行うためには、具体的なものと抽象的なものを自在に行き来できなければなりません。時間的な制約から授業の内容はどうしても抽象的なものになりますが、具体的なものと抽象的なものを往復しつつ解説する。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-II		本授業の目的は、異文化接触が常態化した世界でひとびとが他者と共生するための思考の方法を身に付けることである。そのために文化人類学的な理論（文化人類学は文化の多様性と普遍性について考察する学問）とあわせて具体的な事例についても検討する。この授業の担当教員はジャマイカと日本をフィールドとして調査を実施してきたフィールドワーカーであり、フィールドワークの実践をその研究の中心に置いている。授業では調査方法の多様性とそのメリット・デメリットを理解する講義からはじまり、人種やエスニシティ、文化にまつわる表象などのテーマごとに事例や関連資料を紹介しながら、その基本的な考えを学べるように設計されている。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-III		文化社会的な観点から物事を理解できるようにすることが目的である。記憶・物語・文化遺産と社会との関連について学問的に把握するうえで必要な概念や知識を習得し、それらを用いてテーマに関する事象を理解できるようにすることをめざす。第1～4回では授業テーマに関する社会学的研究の主な概念や知識を順に学ぶ。第5～9回では記憶の社会学の主要トピックであるノスタルジー・戦争・災害を取り上げ、どのような研究や議論がなされているかを見ていく。第10～14回は、文化遺産を活用した地域再生を中心的テーマとして、国内外の事例を見ながら、テーマについて学ぶ。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-IV		文化の離れたところに存在している他者を理解していくための糸口をつかむことができるようになることが目標である。具体的な文化現象に関する文化人類学的な資料の読解や視聴を通じて人類文化の多様性と普遍性について理解を深める。文化人類学およびフィールドワークの基本的な考え方について説明でき、それらに基づいて現場での発見を具体的な研究計画へと落とし込むことができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-V		文化人類学の基本的な考え方やカバーする領域について、東アジアの具体的な事例を通じて理解し、自らの身近な事例に応用できることを目的とする。文化人類学は、主に異文化を理解するための学問である。この授業では、様々なトピックについて日本を含む東アジアの事例に基づいて解説するとともに、自文化や異文化に対する理解の仕方、特に文化相対主義的アプローチについて考え方を深める。また現地の人々と交流しながら調査・研究するフィールドワークについて、講師の具体例を挙げつつ解説する。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-VI		社会学の枠組みをおさまらない広範な問題について学ぶことを通じて、逆に、社会的考察の必要性を理解することが目的である。現代社会の中で生きる自閉症者という視点から自閉症者の世界を捉えようと試みる。現代社会の中で生きる自閉症者の姿から何かを読み取れるかを考える。自閉症についての理解することだけでなく、現代社会に関する示唆を得ることが、その狙いである。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-VII		参加者が、家族・教育・労働という身近なテーマを通じて現代社会の構造を学び、それをもって社会学という学問についても理解を深めることが目的である。したがって本授業では、社会学に関心のある2年生や、社会学を本格的に学び始めたばかりの3年生などをメインの受講者として想定しつつ、受講者が、社会の科学である社会学という学問について基礎的な理解を深められるように、おもに家族・教育・労働という身近なテーマとそれらを取りまく現代的諸問題を手がかりにして、わたしたちがいまどのような社会に生きているかを分析する。必要に応じて新聞・雑誌記事なども使って具体例も織り交ぜながら授業をすすめる。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-VIII		フィールドワークという文化人類学的調査の手法と実践について理解を深めることを目的とする。この授業ではモンゴル国を議論の範囲として、その現状および背景となる歴史について多面的に紹介する。また現地の人々と交流しながら調査・研究するフィールドワークについて、講師の具体例を挙げつつ解説する。このことを通じて、モンゴルの人々の日常生活を通じて見えてくる「異文化理解」や、文化人類学に特徴的な異文化理解の態度である「文化相対主義」についても考えていきます。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 A-IX		社会学とその周辺のコミュニケーション論を理解し、日常のコミュニケーションを考えるきっかけとすることが目的である。落語を補助線とする。落語の映像をみたり、速記本を読んだりして、落語を理解し、そこから、コミュニケーション論に結び付けていく。コミュニケーション論として生かされたり、さらに社会学全般の見方の基礎の一つにして、落語にふれる機会とする。
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義 B-I		深層心理学という一自己理解を深めることはもちろんとして一こころの病を持った人の治療の一方法とだけ思っている人もいますが、社会問題や倫理学的問題を解説するのに大きな役割を果たしている。この講義ではそういった諸問題を代表的心理学者やそれに近い精神医学者の思想によって解明することを目的とする。

専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義B-II		私たちは日々、様々な常識を元にして自分や他人、世界を理解し、評価しながら暮らしている。しかし、「あたりまえ」のことが絶対的に正しいとは限りませんし、むしろ偏ったものであることもしばしばである。この授業は私たちの日常、常識についての倫理を扱うところからスタートして、生命倫理学や動物倫理学、環境倫理学などの応用倫理学の展開を学びながら、私たちが無意識に従ってきた常識を意識し、それと向き合うことで、現実の諸問題について考えることを目指す。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義B-III		従来の「正義の倫理」に対して、1980年代頃からそれとは異なる「ケアの倫理」が提唱されるようになった。本講義では「ケアの倫理」について、メイヤーロフ、コールバーグ、ギリガン、ノディングズ、スロートなどの議論を、文脈を踏まえながら詳細に検討することを通して、1. ケアの倫理とは何かについて知ること、2. ケアの倫理と正義の倫理の関係について知ること、3. 倫理とは何かについて考えること、について十分な知識を持ち、説明できるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義B-IV		第二次世界大戦後のフランス思想が何を問い、何を明らかにしたかを理解し、その現代的な有効性を考える。本授業では、フランス現代思想だけでなく、広く現代世界において何が問題かも、あらためて考え、思想家が問い直し、解明した事柄について、その理由と帰結を理解し、思想家に加えられた批判に対して、その妥当性を判断することができるようになる。また、フランス現代思想が、現代社会のなかで、どのような意義をもっているかを自分の視点から考えることができるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義B-V		責任について基本的な理解をし、現代人に求められる責任について考察できるようになる。倫理学における責任論を学び、責任概念について深く考察できるようになることを目指す。特に現代に特有な問題について、応用倫理学も参照しつつ、自分のこととしてとらえる視点を獲得できるようになることを目的とする。責任概念について学び、説明できるようになり、自分の問題として考察して、文章にできるようにする。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学特殊講義B-VI		〈周縁的〉な観点から倫理(学)を見直すことで、主流の(常識的な)倫理思想を相対化し、自身の倫理観も反省的に考えることができるようになることを目指す。まず、周縁的人間の視点がどのような醸成されるのかを学ぶために、不登校・ひきこもり経験者の半生、その生活・思考の変遷をたどり、次に、不登校・ひきこもり関連の文献をもとに、これらの現象を、倫理的に考察する。最後に、視野を広げ、周縁的視点から、従来の倫理学を相対化するメタ倫理的考察を行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	文化人類学演習 I		文化人類学の古典を踏まえつつ最新の民族誌を精読することを通じて、文化人類学の基本的な考え方をマスターすると同時に、人類が直面する諸問題の核心を巨視的に論じることを目指す。すべての参加者が関係章節を精読した上で、演習に参加することを前提とする。選ばれた発表担当者がレジュメを全員に配布し発表した後、オープン・ディスカッションを行う。文化人類学の考え方を修得すると同時に、現代における文化人類学の可能性を展望できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	文化人類学演習 II		文化人類学演習 I に引き続き、文化人類学の古典を踏まえつつ最新の民族誌を精読することを通じて、文化人類学の基本的な考え方をマスターすると同時に、人類が直面する諸問題の核心を巨視的に論じることを目指す。すべての参加者が関係章節を精読した上で、演習に参加することを前提とする。選ばれた発表担当者がレジュメを全員に配布し発表した後、オープン・ディスカッションを行う。文化人類学の考え方を修得すると同時に、現代における文化人類学の可能性を展望できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	文化人類学演習 III		文化人類学の古典を踏まえつつ最新の民族誌を精読することを通じて、文化人類学の基本的な考え方をマスターすると同時に、人類が直面する諸問題の核心を巨視的に論じることを目指す。すべての参加者が関係章節を精読した上で、演習に参加することを前提とする。選ばれた発表担当者がレジュメを全員に配布し発表した後、オープン・ディスカッションを行う。文化人類学の考え方を修得すると同時に、現代における文化人類学の可能性を展望できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	文化人類学演習 IV		文化人類学演習 III に引き続き、文化人類学の古典を踏まえつつ最新の民族誌を精読することを通じて、文化人類学の基本的な考え方をマスターすると同時に、人類が直面する諸問題の核心を巨視的に論じることを目指す。すべての参加者が関係章節を精読した上で、演習に参加することを前提とする。選ばれた発表担当者がレジュメを全員に配布し発表した後、オープン・ディスカッションを行う。文化人類学の考え方を修得すると同時に、現代における文化人類学の可能性を展望できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	文化人類学応用演習 I		文化人類学的な調査研究を幅広く実践し、そこで得られた経験をベースにしながら、論文執筆など目に見える形での成果をあげていくことが目的である。個人の研究発表がメインになるが、独自の調査の実施、海外への短期研修、研究活動、アカデミックエッセイや書評そして投稿論文の執筆、研究室HPの企画・編集など多岐に亘る。文化人類学的な文献研究やフィールドワークで積み重ねた具体的な経験を整理し、それを専門性の高い記述へと統合していく総合的な能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	文化人類学応用演習 II		文化人類学応用演習 I に引き続き、文化人類学的な調査研究を幅広く実践し、そこで得られた経験をベースにしながら、論文執筆など目に見える形での成果をあげていくことが目的である。個人の研究発表がメインになるが、独自の調査の実施、海外への短期研修、研究活動、アカデミックエッセイや書評そして投稿論文の執筆、研究室HPの企画・編集など多岐に亘る。文化人類学的な文献研究やフィールドワークで積み重ねた具体的な経験を整理し、それを専門性の高い記述へと統合していく総合的な能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	文化人類学応用演習 III		文化人類学的な調査研究を幅広く実践し、そこで得られた経験をベースにしながら、論文執筆など目に見える形での成果をあげていくことが目的である。個人の研究発表がメインになるが、独自の調査の実施、海外への短期研修、研究活動、アカデミックエッセイや書評そして投稿論文の執筆、研究室HPの企画・編集など多岐に亘る。文化人類学的な文献研究やフィールドワークで積み重ねた具体的な経験を整理し、それを専門性の高い記述へと統合していく総合的な能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	文化人類学応用演習 IV		文化人類学応用演習 III に引き続き、文化人類学的な調査研究を幅広く実践し、そこで得られた経験をベースにしながら、論文執筆など目に見える形での成果をあげていくことが目的である。個人の研究発表がメインになるが、独自の調査の実施、海外への短期研修、研究活動、アカデミックエッセイや書評そして投稿論文の執筆、研究室HPの企画・編集など多岐に亘る。文化人類学的な文献研究やフィールドワークで積み重ねた具体的な経験を整理し、それを専門性の高い記述へと統合していく総合的な能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学応用演習 A-I		英語(あるいは必要に応じてその他の外国語)の文獻読解力を鍛えること、およびテキストの内容に基づく議論を展開できるようになることを目的とする。毎回、指定された範囲を担当する受講者がテキストの要約と、要約に基づく問題提起を行う。そのあと、参加者全員でテキストの内容について議論する。なお、毎回、全員がテキストを講読する。英語(あるいは必要に応じてその他の外国語)文獻を読み、テキストの内容に基づく高度な議論を展開できるようにする。	

専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学応用演習 A-II	集団観や自然観に関する文化人類学的理論の原典（英語やその他の言語）を輪読することで文献読解力を高めると同時に、それらの理論の限界と可能性を検討することで、批判力を身に付けることがこの演習の目的である。すべての参加者が関係章節を精読した上で、演習に参加することを前提とする。選ばれた発表担当者がレジュメ（要約+批評）を全員に配布し発表した後、オープン・ディスカッションを行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会人間学応用演習 B	大学院進学の準備となるように、より難易度の高いテキストを用い、語学力や思考力を鍛錬することを目指す。受講生の希望する研究領域に応じた、より難易度の高いテキストを用いて講読と討論を行う。テキストは日本語または英語で書かれたものを用いる。自分の研究する対象に関するより難易度の高いテキストを全体として理解できるようになり、より難易度の高い理論について説明できるようになる。また、それらにどのような長所と短所があるかを具体例を挙げながら説明できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会調査実習 A 1	地域社会調査の基本的手法や全体的な過程を実際の作業を通して学ぶ。また、社会調査データ処理のための基礎的な手法についても習得する。調査計画の立案から、フィールドワーク、データの整理・分析、報告書作成までの社会調査の一連のプロセスを学修する。卒業論文作成や実務で必要となる調査を自分で設計し、データを自分で整理できる力を身に付ける。調査実習はグループ活動が重要なので現地調査への参加は必須となる。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会調査実習 A 2	社会調査実習 A 1 に引き続き、地域社会調査の基本的手法や全体的な過程を実際の作業を通して学ぶ。また、社会調査データ処理のための基礎的な手法についても習得する。調査計画の立案から、フィールドワーク、データの整理・分析、報告書作成までの社会調査の一連のプロセスを学修する。卒業論文作成や実務で必要となる調査を自分で設計し、データを自分で整理できる力を身に付ける。調査実習はグループ活動が重要なので現地調査への参加は必須となる。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会調査実習 B 1	現地調査実習の実施に向け、フィールドワークの意義・目的、事前準備、事前学修、心構えなどの習熟を目的とする。現地調査実習でおこなうフィールドワークのため、その基礎となる能力を身に付ける。フィールドワークの考え方、倫理、方法、技術及び現地の民俗誌の輪読などの事前学修を行う。民俗調査の手法を理解し、現地調査を開始する準備を行う。また、自身の身近なフィールドでの調査経験を積むことを推奨する。	
専門教育	専門科目	展開科目	社会調査実習 B 2	社会調査実習 B 2 に引き続き、現地調査実習の成果を踏まえ、民俗誌叙述による報告書の作成を行う。報告書の構成を検討しうえて、分担して執筆を行う現地調査実習を経て、そこで得た情報を民俗誌としてまとめる演習を行う。具体的に原稿を執筆しうえて相互批評を行い、記録性と社会実践を兼ね備えた民俗誌叙述を構築する。民俗調査報告書として十分な内容の民俗誌を書きあげることが目標とする。	
専門教育	専門科目	展開科目	地理調査実習 1	県内もしくは近県において1つの地域を取り上げ、調査テーマを設定して地理学的なフィールドワークの方法を習得することを目的とする。地理学的なフィールドワークの手法を学ぶ。室内での事前調査、現地調査、調査結果の取りまとめを行う。地理学的なフィールドワークを適切に行い、対象地域に関する情報を適切に収集することができるようになる。現地調査は夏休みに実施予定である。	
専門教育	専門科目	展開科目	地理調査実習 2	地理調査実習 1 に引き続き、県内もしくは近県において1つの地域を取り上げ、調査テーマを設定して地理学的なフィールドワークの方法を習得することを目的とする。地理学的なフィールドワークの手法を学ぶ。室内での事前調査、現地調査、調査結果の取りまとめを行う。地理学的なフィールドワークを適切に行い、対象地域に関する情報を適切に収集することができるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	自然地理学 II	地理学の基礎的な知識を習得する、自然環境と人間との付き合い方から生じる文化や環境問題の背景について理解を深める、多面的な視点から地域の自然環境とそこに住む人々の生活との関係性を見る力を養うことを目的とする。この授業では、人々の暮らしのなかで環境との関わりから生じた問題や文化について、主に日本国内の事例を取り上げ、自然地理学の基礎的な概念を踏まえながら解説する。事例の解説や読図作業を通じて、地理学的な視点・手法を習得するとともに、文化や環境問題を多面的に考えられるようになることを目指す。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学特殊講義 A 1	人口減少社会で生起する様々な生活課題について、地域福祉社会学の観点から系統的に理解を深めてもらうことを目指している。人口減少、高齢化、世帯の極小化、地域社会の混住化、生活圏域の広域化などが進行しつつある西日本過疎地域住民の生活構造、福祉意識を具体例としながら、地域福祉課題の背景にある人口変動、社会変動の実態を明らかにし、成熟化する高齢社会に対応するために必要な条件等について講義する。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学特殊講義 A 2	日本や世界の農村が現在どのような生活や生業、地域維持上の課題に直面しているのか、それをどのような視点からどのように研究すればよいかについて、社会学の視点から考える。農山漁村で生じる出来事を理解する前提として、農村の最も基本的な単位であるコミュニティの基本的な構造について理解するための、考え方や視点を講義する。とくに、自然と対峙した生業を営んできた社会が、どのようにして自分たちの生活やしぐさを維持してきたかについて、日本内外の農村の事例を多くとりいれながら講義する。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学特殊講義 B 1	この講義では日本民俗学における怪異・怪談研究について学ぶ。人文科学として不可思議な事象をありのままに研究対象とした民俗学の目的を明らかにする。そのうえで「経世済民」を目的とする民俗学として現代への応用の可能性を探る。日本民俗学の初期三部作の一つであり、怪異・怪談研究の古典ともいえる『遠野物語』の音読を通じて、民俗学が本来持っていた目的を体感的に探る。その後、現代における「生活の先にある怪異」を採取・分析し、郷土人の心意現象に満ちた『怪談民俗誌』の構成を試みていく。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学特殊講義 B 2	祭り／祭礼に関する専門用語を理解し解説することができるようになること、祭り／祭礼について自分なりの問題意識をもち、深く考え抜くことができるようになること、日本文化・日本社会の特質について自分なりの意見を述べるようになることを目的とする。この講義では、日本の祭り／祭礼を事例として取り上げる。祭り／祭礼は、一般に、「日本の伝統文化」あるいは「日本人の心のふるさと」といわれることがある。このようないわれ方からすると、祭り／祭礼とは、太古から変わらず行われてきた行事として理解されていると、指摘することができる。しかし、祭り／祭礼の歴史を細かく見ていくと、ほとんどの祭り／祭礼が変化していることに気づかされる。この講義では、そうした祭り／祭礼の変化、とりわけ近現代における変化に注目することで、日本文化や日本社会の特徴について考察する。	

専門教育	専門科目	展開科目	地域科学特殊講義 B 3		本講義の目的は、フィールドワークに基づく資料を中心として、現代日本における民俗の継承を通して日本文化を理解していくことにある。その理解にあたり、特に先行する物質文化研究を視野に入れた概念や語句を学び、周辺の文化の発見とその運用について理解する。本講義は、現代日本の地域社会について、専門的知識を踏まえ、その継承の理解から文化を考えていくものである。伝えられた自然環境や建築物、信仰等を、現代社会を生きる集団がいかに、次の世代へと継承していくのか、先行研究の概念や語句を整理しつつ、フィールドワークに基づく資料を事例とした考え方を学ぶ。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学特殊講義 B 4		民俗学・文化人類学の基本的な概念を手がかりに、日本を含む東アジアの文化・社会の特徴を理解することを目的とする。特に焦点を合わせるのは親族組織と祖先祭祀の問題で、東アジアの文化領域における血縁集団の機能と、それを母体とした祖先崇拝の構造について掘り下げていく。授業は講義形式で実施し、講師は具体的な地域の民俗文化の事例に触れながら、それらを分析、考察するための理論や方法、資料論について解説する。またテーマからの展開として、自文化理解/異文化理解の基本的な考え方や、現代社会におけるエスニック・アイデンティティの構築に関しても考えを深める。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学特殊講義 C 1		現代日本における農村地域の変容と課題について、地理学的な視点から理解することを目指す。現代日本における農村地域の変容と課題を、地理学的な視点から実態に即して学ぶ。具体的には、戦後農村における過疎化、農村景観とルーラリティ、むらおこしの地域的展開、企業の農業参入、植物工場等の立地展開、農産物の輸入自由化とアグリビジネスといった現代日本における農村地域の再編成を象徴するような現象を取り上げ、それらを地理学分野の先行研究にもとづいて解説する。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学特殊講義 C 2		現代の産業地理学において基礎となる理論を学修するとともに、具体的な研究事例を紹介し、産業と地域の多面的な関連性を学修する。地域の活性化や地域振興といった問題を考える際に、その地域でどのような仕事をして生活していくか、すなわち地域と産業活動との関わり合いについて考えることは不可欠である。本講義では工業を中心とする産業地理学の成果をふまえ、地域と産業の関連性について、工業地理学の基礎概念を論じ、次に、ある地域の産業や企業が、なぜそこに立地し、発展することができたのかを、立地論をふまえて論じる。地域的な条件の違いが産業活動のあり方にどのような影響を与えているかを、各地の事例を交えて紹介し、これまでの地域産業政策を振り返り、これからの地域産業政策のあり方を展望する。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学演習 A 1		報告とディスカッションを通して卒業論文作成のために必要な情報を得たり執筆のスキルを磨いたりすることが目的である。地域社会学・環境社会学・福祉社会学の基本文献を読みながら、卒業論文の作成に向けて各自の問題意識を明確にする。テキストの輪読等の与えられた課題を実行しながら、卒業論文作成にむけた問題意識を養い、その意義を他者に説明できることを目標とする。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学演習 A 2		ディスカッションを通して卒業論文を完成させることが目的である。なお、各種の発表会に向けてプレゼンテーションの技術についても学ぶ。地域社会学・環境社会学・福祉社会学の基本文献を読みながら、卒業論文を作成する。授業では各自の報告が中心となり、自分で調査を行いオリジナルな卒業論文完成までを目標とし、卒業論文の作成には、中間報告会および卒業論文発表会での発表を含む。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学演習 B 1		卒業執筆に向けての研究を進めるため、受講者各員の問題関心に基づき、毎週2～3名での研究発表を行う。各自の関心に基づいた課題設定・文献精読・口頭発表・現地調査・報告書執筆等を行う。その際には、研究の内容における現実社会との連続性や貢献度に関する意識した発表を行い、質疑応答の後、グループディスカッションを模した全員での議論も行う。参加者が各自、具体的な研究課題を設定し、現地調査等に基づく考察を行うことで、民俗学の研究方法についての理解・習得する。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学演習 B 2		地域科学演習 B 1 に引き続き、卒業執筆に向けての研究を進めるため、受講者各員の問題関心に基づき、毎週2～3名での研究発表を行う。各自の関心に基づいた課題設定・文献精読・口頭発表・現地調査・報告書執筆等を行う。その際には、研究の内容における現実社会との連続性や貢献度に関する意識した発表を行い、質疑応答の後、グループディスカッションを模した全員での議論も行う。参加者が各自、具体的な研究課題を設定し、現地調査等に基づく考察を行うことで、民俗学の研究方法についての理解・習得する。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学演習 C 1		地理学の専門性を深め、かつ、卒業論文のテーマ・方法論に関して学生が自律的に展望を拓くための基礎力を養うことを目的とする。ゼミ（口頭発表・質疑・議論）の効果的な面を考慮し対面形式で実施する。地理学の諸分野に関する文献を精読・発表し、オープンディスカッションを行う。受講生は自分の関心のあるテーマに関する文献を事前に選び、レジュメを作成して発表する。取り上げる文献は全員に配布し、事前に全員が読んでおくことを前提とする。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学演習 C 2		卒業論文の課題に関わる専門分野の理解をさらに深化させるとともに、卒業論文を作成する上での具体的な指導を行う。ゼミ（口頭発表・質疑・議論）の効果的な面を考慮し対面形式で実施する。卒業論文の経過報告を随時行う。第1に、先行研究の検討を十分に行った上で研究課題と方法を設定し、具体的な研究計画を立案する。第2に、研究計画に基づいてフィールドワーク等を行い、情報収集を行う。第3に、得られた情報を加工、分析、考察し、研究結果を取りまとめる。これら一連の過程を随時報告し、議論することによって、よりよい卒業論文の作成を目指す。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学演習 C 3		地理学の専門性を深め、かつ、卒業論文のテーマ・方法論に関して学生が自律的に展望を拓くための基礎力を養うことを目的とする。ゼミ（口頭発表・質疑・議論）の効果的な面を考慮し対面形式で実施する。地理学の諸分野に関する文献を精読・発表し、オープンディスカッションを行う。受講生は自分の関心のあるテーマに関する文献を事前に選び、レジュメを作成して発表する。取り上げる文献は全員に配布し、事前に全員が読んでおくことを前提とする。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域科学演習 C 4		卒業論文の課題に関わる専門分野の理解をさらに深化させるとともに、卒業論文を作成する上での具体的な指導を行う。ゼミ（口頭発表・質疑・議論）の効果的な面を考慮し対面形式で実施する。卒業論文の経過報告を随時行う。第1に、先行研究の検討を十分に行った上で研究課題と方法を設定し、具体的な研究計画を立案する。第2に、研究計画に基づいてフィールドワーク等を行い、情報収集を行う。第3に、得られた情報を加工、分析、考察し、研究結果を取りまとめる。これら一連の過程を随時報告し、議論することによって、よりよい卒業論文の作成を目指す。	

専門教育	専門科目	展開科目	地域科学応用演習		民俗学は農政学にその起源をもっている。その農政学は現在農業経済学と言われる。民俗学が最も苦手とする学問領域である。その基礎を学ぶことによって、今後必要となる経済の知識や数量の理解に対する苦手意識を払拭する。民俗学と農政学の関係に関する講義、そして農業経済学に関する講義を行い、講義内容の理解をすすめるために経済学に関する問題演習を行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	地域分析論演習		この授業は、地理学に関する英文で書かれた入門的テキストの講義を通して、地理学の主要概念を習得することを目的とする。人文地理学に関する平易な英文で書かれた入門的テキストを輪読する。各自の担当箇所にかかれている内容を説明し、それについて議論することによって、内容の理解を深める。地理学に関する主要概念を適切に説明できる、また、地理学に関する英文で書かれた文章を適切に読解できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学演習 A-I		4年次までの専門課程において必要な、歴史資料を解読して情報を引き出し、歴史像を組み立てる能力を身に付けることが目的である。中世史の基本的で重要な史料を選び、報告と討論を繰り返す。その際、その史料を利用した代表的論文を併せて読んでもらい、その上で報告と討論を行うように求めるので、本演習全体を通せば、日本史研究の最新の動向を探ることにもつながる。中世史について、基本的かつ「有名な」史料を、省略せずに全文を読み、十分な力を身に付け、また、その史料を利用した論文を併せて読み、史料から何を、どのようにして読み取るのかという訓練を行い、歴史学研究の能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学演習 A-II		日本近代史史料の基礎的な読み方を身に付け、卒業論文作成に必要な技術習得を目指す。日本近代史を学ぶ上で、重要な意味を持つ史料を丁寧に読み解き、議論を通して、その史料の背景にある歴史状況を深く理解する。日本近代史研究にとって重要な史料を、省略せずに全文を読むことで、基礎的研究能力を身に付け、メイン史料の周囲に位置する関連史料も視野に入れ、立体的な理解ができるようになる。また、それらの史料を利用した論文を併せて読み、史料から何を、どのようにして読み取るのかという問題意識を持つことができるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学演習 A-III		実証史学の基本である古文書の正確な解読と解釈を学ぶ。永青文庫で保管されている熊本藩の法制史料の「例」を読み解くことにより、熊本藩内で起こった事件と司法手続き、さらには刑罰の実態などを知ることができるようになる。これらを分析していくことによって、熊本藩の司法制度のあり方を示す。古文書の解読を行い、書かれている意味を正確に読み取り、問題提起し発表する能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学演習 A-IV		中世文書の諸様式に即して文書の内容を把握するとともに文書の機能を理解するための基本的な技能を獲得することが目的である。主にテキストによりながら、各種の中世文書を（その歴史的前提としての若干の古代文書を含めて）参加者の報告によって読みすすめる。中世を中心にさまざまな文書の一点一点を丁寧に読み解くことをとおして、その読解の基礎的スキルを習得し、文書をおとした歴史研究の視野を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学演習 B-I		考古学の基礎的学力である発掘調査に必要な技術を習得する。発掘調査の現場で必要な地形測量、遺跡と遺構の写真撮影、報告書作成に必要な遺物写真の撮影とレイアウト、遺物の実測・製図ができるようになる。2年次に学んだ基礎的な知識と技術をもとに、発掘調査にかかわる実務的知識・技術を修得する。2年生の基礎技術習得を手助けし、他者への指導を通して自らの技術の向上を図る。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学演習 B-II		発掘調査は報告書作成をもって終了する。調査成果を公表してその評価を広く問うとともに、活用されることを目指す。2年次に学んだ基礎的な知識と技術をもとに、報告書作成にかかわる実務的知識・技術を修得する。遺跡の内容を考古学的に説明できるようになる。報告書刊行にかかわるさまざまな作業過程を理解できるようになる。発掘調査参加者全員で調査時の記録を整理し、出土遺物を図化ならびに写真撮影し、発掘調査の記録を文字化し、内容を検討して発掘調査の学術的成果をまとめます。授業時間内だけでは決して終わらないのでそれ以外の時間を使うことが必須である。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学演習 B-III		考古学関係の専門論文を読むことができる能力の習得、考古学研究史上の論点の理解、考古資料分析の実践例を学び今後考古学研究を進めていく上で必要な資料分析能力の向上を目指す。考古学担当教員が推薦する考古学関係論文を全員が熟読したうえで、その論文の分析担当となった受講者が論文内容等について発表する。そして、課題論文および発表内容について討論し、論文についての理解を深める。その際、発表者には関連論文も調べた上で、聴衆に分かりやすい発表をすることを求める。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学演習 B-IV		英語による文献講読に抵抗がなくなり、英語圏の考古学研究の状況や方法論を理解する。James M. Skiboによる『Pottery Function』を全員で読み、内容を理解する。また、毎回、内容について発表を行い、全員で検討する。英語による考古学文献の内容を理解できる、英語で書かれた考古学関連書籍や文献を自力で読めるようになる。毎回、担当箇所を決め、翻訳を事前に行う。授業では内容を発表形式で示す。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学特殊講義 A-I		中世日本の骨格とされる荘園制の概要・特質を理解し、もって中世日本の社会と国家の歴史的特質を説明できるようになることが目的である。荘園制に関する主要な論点をとりあげて、その成立・展開・構造と歴史的位置について講義する。中世日本の荘園制についてその特質を十分に理解し、中世日本の社会と国家について説明できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学特殊講義 A-II		受講者が日本中世・近世社会論の最新の動向を理解し、研究の方向を展望できるようにするための講義である。本講義では、2024年に出版された小著『近世領国社会形成史論』等の内容によりながら、戦国社会から近世初期への歴史過程を領国社会に即して講義する。中世社会の達成や諸矛盾が集約的に表れる中・近世移行期について基礎的理解を身に付け、日本中世・近世社会論の最新の動向を理解し、研究の方向を展望できるようにする。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学特殊講義 A-III		江戸時代の支配のあり方について学び、現在に通じる官僚制、そして法治国家の承襲を理解する。幕府の司法制度の中でも特に自由刑である流罪について取り上げ、執行する側、受け入れる側、そして流人本人の置かれた状況などを重層的に考えていく。従来言われていた流罪に関する定説との共通点と相違点についても検討する。最新の研究動向を理解し、研究の方向を展望できるようになり、問題意識をもち、今後、取り組むことになる卒業論文の作成に通じる手法を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料学特殊講義 A-IV		近世近代移行期の地方政治のいかなる特質をもち、どのような要因に規定されていたのか、本講義では、近年大きく進展した「旧藩」研究の観点から、西南雄藩の一つであった旧熊本藩を事例としながら、明治前期地方政治史の再構築を目指す。近世近代移行期における地方政治の変容とその特質を、具体的な事例に即して理解できるようにし、また、旧熊本藩における士族反乱の展開とその特質を、具体的な事例に即して理解できるようにする。	

専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 A-V		幕末維新期の民政の実態を理解した上で、そうした民政運営が、民衆の運動とどのように関わっているのかという問題を追究する。時代を問わず、政治の基盤となる民政の変化をたどることによって、明治維新という社会変革の位相を明らかにする。近世の民政システムの基本構造を押さえたその特徴、近世の民政システムと民衆運動との関連性、明治期の地方制度の基本構造を押さえた近世の民政システムとの関係性を説明できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 A-VI		熊本県内の各自治体史や最新の研究動向を理解し、地域史研究のあり方を展望できるようになるための講義である。日本史研究室の教員が熊本県内の地域史をそれぞれ取り上げ、熊本の歴史を各論から俯瞰的に解説していく。当時の藩政ならびに地域社会論を各教員の視点に基づき、実証的に検証し、歴史学が現代社会において果たすべき役割について理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (4 稲葉 継陽/5回) 中・近世移行期における地域社会と権力の動態について担当する。 (44 安高 啓明/5回) 民間所有の古文書を丁寧に整理し目録を作成していくことの社会的意義について担当する。 (138 今村 直樹/5回) 近世後期の灌漑用水の共同管理にみられる地域社会のあり方について担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 B-I		埋蔵文化財の保護には、発掘調査だけでなく非常に幅広い取り組みがあること、それを進めていくに当たっては考古学・歴史学が深く関わっていること、そして、それが地域づくり・人づくりにも寄与していることを理解するとともに、人口減少社会を迎え今後社会全体が変わらなければならないなか、将来の埋蔵文化財保護について展望できるようになることも目指す。①日本の埋蔵文化財保護の歴史、法制度の仕組みとその運用の現状、②史跡、水中遺跡、近現代遺跡の保存と活用に関する現状、③世界遺産や英仏の考古遺跡保護に関する現状などを通して、今後の埋蔵文化財保護のあり方を考えていく。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 B-II		考古学とはどのような方法で調査し、研究するのか、琉球先史研究の個別のテーマを軸として考古学の調査、研究法を学ぶ。具体的には、以下の3つを目的とする。①琉球列島を素材に、考古学とはどのように調査するのかの理解を目指す。②琉球列島を素材に、考古学の研究法の理解を目指す。③琉球列島を素材に、個別のテーマではどのようなアプローチ法をとるのかの理解を目指す。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 B-III		考古学的分析手法を用いて、遺構・遺物を調査・研究し、対象とする時代や地域の特性を抽出した実践的研究方法を考え方を身に付ける。日本の戦国時代は、文字通り戦乱の時代である。その象徴とも呼べるものが「城郭」である。本講義では、特に戦国～織豊期を中心に日本の城郭の特徴、地域性などを明らかにし、そこから読み取ることのできる歴史性について考えていく内容とする。併せて城郭の調査法についても、その内容と特色を考え、明らかにすることについても考える。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 B-IV		考古学的分析手法を用いて遺構や遺物を調査・研究し、対象とする時代や時期あるいは地域の特性を抽出した実践的研究成果を学ぶ。古墳時代は「日本」という国家が形成される時期として理解できる。そうした国家形成期の古墳時代において熊本県地域はどのような位置にあるのか、熊本県地域の古墳動向の分析を通じて、そのことを考える。考古学研究法及びその実践例を正しく理解したうえで、批判的に考え、説明できるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 B-V		日本をはじめとする東アジアにおける食文化の実態と変遷について、考古学の最新成果を通して理解する。また、文献史学、民族学、さらには理化学分析などの成果と考古学を融合しながら、いかにして食文化の歴史的側面に迫ることができるのかを考える。本授業では、この問題を出発点に、様々な角度から主食を中心とする食文化を眺め、相対化することで日常的な食事の成り立ちを学ぶ。特に、考古学は過去の人々の日常的な食文化を復元するのに最適な学問である。それに文献史学や民族学を加え、さらには近年その成果が蓄積されつつある化学分析を合わせることで、より具体的な食文化の歴史の実態にアプローチする。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 B-VI		考古学的分析手法を用いて遺構や遺物を調査・研究し、対象とする時代や時期あるいは地域の特性を抽出した実践的研究成果を学ぶ。また、社会構造と政治構造が密接に関連していることを理解する。炊飯用土器や調理施設(炉や竈)、集落、古墳などを用いて分析し、古墳時代の生活様式の変化が社会構造や政治構造とどのように関わっていたのか、そして日本における国家形成とどのように関わっていたのかを考える。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学特殊講義 B-VII		本講義では、中国の新石器時代から秦漢代を中心とし、周辺地域との関係に目を向けながら中国考古学の概要について説明する。特に、これまでの政治・社会史を中心とした内容だけでなく、文化・生活面も考慮した多角的な視点からアプローチする。そのためには、近年急速に研究が進んでいる、安定同位体や土器残存脂質、プラント・オパール、デンプン粒などの理科系の分析成果を積極的に活用する必要がある。それに近年の考古学成果を取り入れながら、最新の中国考古学の状況について解説を行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学野外実習 A		未整理の古文書の目録を作成し、閲覧可能状態にする力量を身に付け、そのことを通じて社会貢献・地域貢献の重要性を理解することを目指す。主に熊本県下各地域の地方史料を素材として、その史料群が作成・伝来してきた土地で実習を行う。ある程度まとまった史料群を選び、目録作成作業を行いながら、現地調査のやり方を学び、多様な史料を読むことで、読解能力のレベルを向上させることを第一の目的とする。またこの作業を通して、古文書読解能力を持つことが、社会貢献・地域貢献につながることをしっかりと理解することを第二の目的とする。	
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学野外実習 B-I		遺跡の測量・発掘調査と遺物・記録類の整理作業、そして報告書の作成まで、一連の考古学的調査法とそれに要する技術を学ぶ。調査・整理作業は、鹿児島県伊仙町(徳之島)に所在する遺跡を対象として、合宿形式で行い、考古資料の整理・分析・研究方法を学ぶ。発掘調査に参加し、チームメイトを強調しながら、自分の与えられた作業を貫徹し、発掘調査の流れを把握することを目指す。	共同
専門教育	専門科目	展開科目	歴史資料科学野外実習 B-II		歴史資料科学野外実習B-Iで学んだことを基礎として、遺跡の測量・発掘調査と遺物・記録類の整理作業、そして報告書の作成までの一連の作業を、下級生を指導しつつ、主体的・実践的に行えるようになることを目指す。調査・整理作業は、鹿児島県伊仙町(徳之島)に所在する遺跡を対象として、合宿形式で行い、考古資料の整理・分析・研究方法を学ぶ。さらに、初學者への指導力、他者とのコミュニケーション力を身に付ける。発掘調査への諸手続きを学び、発掘調査の運営や進行、遺物整理や報告書作成に積極的に関わり、報告書作成までの流れを把握する。	共同

専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 C-I		本演習では漢文史料を正確に読解できる能力を身に付けるのはもちろんのこと、それを通じて我々が生きる現代日本とは全く異なる文化・社会のあり方を考えることを目的とする。本講義では、中国南宋時代(1127~1276)に思想家としても有名な朱熹の手によって書かれた上奏文(意見建白書)の読解を行う。宋代の歴史像についての基本事項を学ぶとともに、漢文テキストを読解することを通じて、伝統中国を生きた人々の生き方や考え方の枠組みを理解できるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 C-II		本演習では中国史の漢文史料を講読・分析し、歴史的事実を確定する能力を身に付けることを目指す。さらに中国近世の史體の文章の読み方を習得することを目的とする。中国近世の官箴書史料を講読し、把握した内容について討論し、中国近世の地方行政の実態と課題を考察する。中国史の漢文史料を講読し、把握した内容について討論し、史実を確定する能力を身に付ける。また、中国近世の史體の文章の読み方を身に付ける。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 C-III		本演習では漢文史料を正確に読解できる能力を身に付けるのはもちろんのこと、それを通じて我々が生きる現代日本とは全く異なる文化・社会のあり方を考えることを目的とする。本演習では、中国宋代(960~1276)に書かれた筆記史料の読解を行う。とくに葉夢得『石林燕語』を題材とする。宋代の歴史像についての基本事項を学ぶとともに、漢文テキストを読解することを通じて、伝統中国を生きた人々の生き方や考え方の枠組みを理解できるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 C-IV		本演習では中国史の漢文史料を講読・分析し、歴史的事実を確定する能力を身に付けることを目指す。また研究を進めるために必要な中国近世の史體の文章の読解力を演習することを目的とする。中国近世の賦役制度に関する漢文史料の記事を講読し、把握した内容について討論し、賦役制度の性格を考察する。中国史の漢文史料を読解し、把握した内容について討論し、史実を確定する能力を身に付ける。また、中国近世の史體の文章の読み方を身に付ける。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 D-I		英文テキストの読解とディスカッションを通じて、卒業論文作成時に必要な英語読解能力と論理的思考力を身に付けることを目標とする。西洋近代社会を新たな視点で考察した英文テキストの精読と、テキストの内容をめぐるディスカッションが中心となる。英語文献・史料の精読を通じて、批判的かつ論理的な思考を鍛え、また、ディスカッションを通じて、双方向的な議論のスキルを習得する。授業ではまた、テキストをより深く理解するために、資料や情報の収集と分析を求める小課題が課される。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 D-II		英文テキストの読解とディスカッションを通じて、卒業論文作成時に必要な英語読解能力と論理的思考力を身に付けることを目標とする。18・19世紀アメリカの都市・農村関係史に関する英文テキストを読んで、英語の読解能力やディスカッションの手法などのスキルを身に付けるとともに、人種、ジェンダー、階級などの視点から、新たなアメリカ社会像を学ぶ。奴隷制社会を分析する歴史学的手法を理解することができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 D-III		グループ学修を通じて、西洋史研究の情報を発信するためのプレゼンテーションのノウハウを学ぶ。受講者は、2年生とチームを組んで、各テーマについての研究報告を行う。この授業では、高校の世界史で学んだことを歴史研究として発展させるための方法を学ぶとともに、情報を社会に発信するためのプレゼンテーションと教材研究のノウハウを学ぶ。史料・情報の収集と分析を行うことができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 D-IV		本授業では、2年生で学修した西洋ジェンダー史の基礎知識と英文講読のスキルをもとに、より専門的な学術論文をテキストに英語文献や近世英語で書かれた活字史料の読み方を学ぶ。この授業では、具体的な事例と史料から近世イングランド社会、とりわけロンドンをフィールドに女性と男性の生き方を読み解いていく。テキストの精読を通じて、近世イングランドの都市社会のありようやイングランド社会における、性差や身体、ジェンダー役割、「女らしさ」、「男らしさ」、近世イングランドの文化や社会規範について理解を深める。「モノ」を手がかりに歴史を研究する手法(マテリアル・カルチャー・ヒストリー)も学ぶ。イギリス史のメインストリームに接続すると同時に、現代日本のジェンダー問題についても、近世イングランド社会のそれらと比較しつつ、考える。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 D-V		本授業では、宗教改革と移民を手がかりに、英語文献の精読・調査報告を通じて、近世イングランド社会と文化に関する知識と理解を深める。この授業では、ユグノーだけではなく、日本ではまだ研究蓄積の少ない近世ロンドンで共同体を形成したユダヤ人とドイツ人についても扱っている。加えて、都市史という観点からも移民の問題を検討する。また、サブテーマとしてFood(食文化)に着目する。最新の研究動向を参照しながら、移民研究やFoodの研究動向、方法論なども学ぶ。移民のもたらした食文化はホスト社会にどのような文化変容をもたらしたのか、イギリス社会が直面している移民問題を、近世移民と食文化を手がかりに考える。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 D-VI		本授業では、英語文献の精読・調査報告を通じて、近世イギリス社会の実態に迫る。今年度は近世ロンドン社会で行われたバジェントリ(式典、ショー)と娯楽に関する論文から論文を選んで輪読する。近世ロンドンの社会構造やさまざまなソシアビリテ、為政者と庶民の関係、ロンドンっ子と移民の関係、近世社会の娯楽などについて、最新の研究成果に基づき、理解を深める。また、儀礼や表象のもつ機能や意義についても、現代社会、日本の事例と比較しつつ、検討する。都市史研究の方法や史料について学ぶだけではなく、文学との横断的研究の可能性を探求する。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 D-VII		この授業では、近世イングランド社会について、ロンドンを中心にその社会構造、職能・地縁共同体、救貧行政や治安の問題、社会的マイノリティ(移民や女性)、男女の関係などについて、英語文献の精読・調査報告を通じて、その実態を学ぶ。それと同時に、移民研究や都市史やジェンダー史をめぐる研究動向、方法論なども学ぶ。従来、近世ロンドンは国内外からの移民流入にともなう人口増加によって、不安定な社会と理解されてきたが、近年は市区・街区などの地縁共同体、ギルドなど複数のソシアビリテがセーフティネットとして機能していたことが明らかになっている。近世ロンドンに暮らす人々のリアルをテキストや史料から読みとくしながら、過去、そして今の社会の「当たり前」を見直す批判的な思考を鍛える。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 E-I		明治期に印刷された文章を読解しつつ、それらのテキストに対して様々な解釈を与えてきた研究史の概略を重層的に理解する。近代日本を考えるにあたって避けては通れない福沢諭吉の思想を読み込む。名前は知っているも読んでいなかった原典に直接あたりつつ、それに関する先行研究の整理を行い、講義は、毎週受講者の持ち回りで進行する。自分が担当する原典は最初の1ヶ月で読了しておき、それに関する調査報告ができるよう、事前準備を行う。

専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 E-II	明治初期においては伝統的な技法である木版印刷と新しく導入された技法である活版印刷の双方が同時並行的に行われていた。2つの技法で印刷された文字と文章を比較考察しながら読み込み、記事内容が読者にどう伝えられたのかについて考える。近代日本の初期に出版された新聞錦絵版『東京日日新聞』とその元の記事を読む。近年になって翻刻されたものでなく明治ゼロ年代当時の様式で印刷された文字と文章に直接あたり、その読解と解釈を行う。また、これに関係する先行研究の理解も深める。講義は、毎週受講者の持ち回りで進行する。自分が担当する原典は最初の1ヶ月で読了しておき、それに関する調査報告ができるよう、事前準備を行う。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 E-III	ジェンダー・セクシュアリティ論を各人の問題意識に引きつけながら把握し、ゼミにおける意見交換等により自らの考えを発展させることを目指す。本演習は、翻訳等を通してコロンバンをはじめとするアナール学派歴史学を日本に導入してきた小倉孝誠の『(女らしさ)の文化史』をテキストとして、フランス19世紀から20世紀初頭にかけての女性身体表象とそれに関わる諸問題を概観する。その上で、各人の問題意識に即して個別分析を行う。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学演習 E-IV	現代文化論を各人の問題意識に引きつけながら把握し、ゼミにおける意見交換等により自らの考えを発展させることを目指す。現代文化論、ないし文化研究(カルチュラル・スタディーズ)は、1950年代イギリス民衆文化に焦点を置いて研究・活動を展開したレイモンド・ウィリアムズ等の批評家に端を発し、1970年代以降脱構築批評やフェミニズム批評、ポストコロニアル批評が扱う問題を包括しつつ現在に至っている。また、扱う問題のみならず、研究・活動が展開される地域の間でも、現代文化論は広がりを見せてきており、運動が英米を中心とする大西洋から太平洋に拡大するにつれて、アジア系の研究者も重要な役割を持ち始めている。本演習では、まずこの現代文化論の入門・概説的テキストにより全体像をつかみ、その上で、各人の問題意識に即して個別分析を行う。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 C-I	先行研究の内容を批判的に摂取し、そこから問題を発見して次の研究へと発展させていくことは、文系学問を進めていくうえで基本的かつ必須の姿勢になる。本講義では戦後における宋代政治史研究の進行状況を事例とし、そうした姿勢を身に付けることを目指す。宋代政治史研究のなかで南宋政治史の研究がこれまで著しく立ち遅れてきた原因を検討・解説するとともに、現状を打開するためにはいかなる研究を行えばいいのかを事例を示しながら確認する。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 C-II	本講義では明代の賦役黄冊・魚鱗冊関係文書史料の性格、明代里甲制体制の仕組み・階層構成などを検討し、伝統中国の社会のあり方を考察する。明代の賦役黄冊・魚鱗冊関係文書史料の性格、またそこから明らかになる里甲制体制の仕組みを講義する。さらに賦役黄冊・魚鱗冊関係文書史料の分析によって明らかになる階層構成・事産所有分布・租佃関係・社会的流動性のあり方についても講義する。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 C-III	本講義は、唐代以前の中国古代の政治・経済・社会の成り立ちを新旧の学説を対比しつつも、最新の学説にもとづいて検討し、近世以降の中国の政治・経済・社会がいかに形成されたのかを考察するものである。改革開放以降の中国では各地の開発が進んだため、漢代以前の竹簡・木簡が各地で大量に出土したほか、隋唐時代史においても、新たな石刻史料が次々に土中から発見されるに至るなど、中国古代史研究をめぐる史料状況は激変している。本講義ではそうした新史料にもとづく新たな中国古代史像を論じる。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 D-I	この授業では、英文購読に必要な知識を学ぶことを目的とし、主として社会史の観点から、近世イングランド社会について講義する。まずは、近世イングランドにおける政治、経済、社会を外観する。次に、宗教改革のインパクトを、王権儀礼、慈善(救貧)観、文化戦争、移民をテーマに紹介する。これらのテーマを通じて、プロテスタント化の進展の程度やイングランド社会の変化を明らかにする。とりわけプロテスタント宗教難民の流入が与えた影響は、その後のイギリス社会の移民とホスト社会の関係、他者受容・排除について重要なポイントとなる。この授業では、出席者の主体的な思考や議論を引き出すために、視聴覚教材やグループワークなども活用する。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 D-II	アメリカを中心にしながら、西洋近代における家族・都市社会・地域ネットワークの問題を歴史的に考察し、それらが現代社会に対してもつ歴史的射程を理解できるようになる。アメリカを中心としながら、西洋近代史で議論されてきた家族・都市社会・地域ネットワークの問題を、日本社会と比較しながら歴史的に考察し、欧米社会がこれらの問題にどのように向き合ってきたのかを理解する。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 D-III	イギリスにおける移民問題の現状とその歴史的起源について理解し、それについて説明できることを目指す。近年のEUとイギリスの関係については、難民受け入れ、テロリズムとの戦い、イギリスのEU脱退が大きな問題となっている。イギリスの移民問題の歴史的起源をさぐりながら、イギリスの国勢調査、移民問題に関する時事ニュース、視聴覚教材なども参照しながら、移民問題の現状とイギリス社会形成に果たした移民の役割とそのインパクトについて考える。さらには、我々の課題として日本社会の移民・難民受け入れについても認識を深める。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 D-IV	中世後期から近世にかけての神聖ローマ帝国を題材に、近現代とは異なる国家体制下での人々の生活世界へのアプローチを試み、現在の私たちとは異なる社会、宗教、文化などの諸相を歴史的な視点から考察することの重要性を学ぶ。本講義では、神聖ローマ帝国という複合国家の特徴を踏まえたうえで、そこで展開する中世後期から近世にかけての重要な出来事(黒死病、ルネサンス、宗教改革、魔女裁判等)の歴史的な展開を学ぶ。単なる概説に終始せず、最新の研究成果を踏まえ、それぞれの出来事の歴史的な意義について深く考察する。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 E-I	近代日本を対象とした文化史研究の成果に学びつつ、日本人のナショナル・アイデンティティに対する理解を深める。音楽に着目しつつ近代日本の歴史の展開を追う。これは、明治時代以降の日本社会で鳴り響いた音楽それ自体の変化をみようというのではなく、音楽が社会のなかでどのように理解され共有されたかについての変化をみようという試みである。政治的・経済的・教育的に多様かつ重要な役割を果たすことが期待され、実際にそれを果たしてきた/果たしているのが音楽である。音楽を素材とした文化史研究および思想史研究を通して、日本人のナショナル・アイデンティティがどうやって形成された/形成されているのかを探る。
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 E-II	地方が近代化を模索する中で、西洋文化受容に関して中等教育機関が果たした役割とその影響を、一つの地方をケーススタディとして具体的に理解する。この授業では、津軽地方の東奥義塾を中心として、地方の教育機関が近代化に果たした役割と影響を学ぶ。その具体的な影響として、キリスト教普及、自由民権運動などの政治思想、人権重視の女子教育、リンゴ栽培などの地域産業、そして西洋音楽の普及などをあげることができる。近代化の中にあつた一つの地方のケースを深く学ぶことで、他地方や中央との文化的関係性、そしてそれを可能にした教育の持つ力や影響力について、受講生それぞれの問題意識を踏まえた考察を深める。

専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 E-III		西洋近代におけるフェミニズムの歴史を把握するとともに、ジェンダー・セクシュアリティ概念や欲望・権力理論を理解するとともに、ジェンダー・セクシュアリティ概念や欲望・権力理論を理解するとともに、それについて考察してきた文学者、思想家の言葉を受けとめることによって、20世紀という時代の本質を理解することを目指す。映画『ジョア』の主要な場面を鑑賞する時間とプリモ・レーヴィ、エリー・ヴィーゼル、パウル・ツェラらの文学者、アドルノ、アーレント、エーナスら思想家の言葉を考察する時間を交互に設け、体験者の言葉と思想家の言葉の反発したり共振したりする場を作りだしていく。	
専門教育	専門科目	展開科目	超域歴史学特殊講義 E-IV		これまでの日本語学の講義で学んだ知識を活かしながら、グループごとに好きな研究テーマを設定し、資料やデータを集め、分析を行う。この授業では、「オノマトペ」の研究を行う。具体的な日本語に関する現象を分析すること、初歩的なことばの分析・研究能力を習得する。「面白いと思うこと」を具体的な成果の形にまとめるプロセスを体験的に学修する。日本語に関する問題を発見し、適切な問題設定ができるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本語学基礎演習 I		これまでの日本語学の講義で学んだ知識を活かしながら、個人もしくはグループごとに好きな研究テーマを設定し、資料やデータを集め、分析を行う。この授業では、「方言の文末表現」の研究を行う。具体的な日本語に関する現象を分析すること、初歩的なことばの分析・研究能力を習得する。「面白いと思うこと」を具体的な成果の形にまとめるプロセスを体験的に学修する。日本語に関する問題を発見し、内省を發揮して適切かつ具体的な問題設定ができるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本語学演習 I		現代日本語の語彙や文法表現等の「意味」とはどのようなものであるのか、そしてそれはどのような方法で捉えられるのかについて学ぶ。日本語を分析的に捉えるためのトレーニングとして、現代日本語のさまざまな語彙や文法表現等の意味分析を通して、目に見えない「意味」を分析する方法について学ぶ。現代日本語のさまざまな語彙や文法表現等の意味分析を行い、ことば（日本語）を分析的に捉える能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本語学演習 II		現代日本語の類義語を実際に分析し、ことばの研究における課題設定・解決方法の基礎を習得することを目指す。「むすぶ」と「つなぐ」、「コップ」と「カップ」のような現代日本語の類義語を題材として、ことばの意味を適切に分析・記述する方法を学ぶ。受講者全員で議論しながら、よりよい意味記述や説明のあり方について考える。データ（根拠）に基づく日本語の分析方法を習得し、自らの分析を適切な形にまとめることとともに、その内容を説明することができるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本語学特殊講義 I		現代日本語の文法（口語文法）を取り上げ、その体系性と多様性を理解するとともに、文法に対する視点や知識を充実させることを目指す。いわゆる口語文法の問題を中心として、現代日本語がどのような文法体系を持っているのかについて学ぶ。国語教育で教えられる「学校文法」を中心的に取り上げ、日本語教育や文法研究の視点も取り入れながら、嫌われがちな「文法」を楽しめる人を増やす。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本語学特殊講義 II		現代の日本社会に存在するさまざまな言語現象を取り上げ、日本語学的な知見からそれらを読み解くとともに、私たちのことばへのさまざまな向き合い方を考えることを目指す。現代日本語に関するさまざまなテーマを広く取り上げる。各テーマの検討を通じて、これまで学修してきた日本語学の知識を再確認するとともに、私たちが生きる現代社会や私たちのもの見方と日本語とのつながりについて考える。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本語学特殊講義 III		これまで初年次教育や他の授業で学んできた知識・技術を再構築しながら、日本語学（現代日本語）分野のさまざまな事例をもとに、アイデアから「研究」にたどり着くための考え方や方法について学ぶ。現代日本語に関する具体的な事例を扱いながら、ことばの分析・研究において必要となる視点や技術に関する総合的な理解を深め、実際にそれらを習得することを目指す。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本文学基礎演習 I		夏目漱石の作品に関する検討を通して、近代文学を分析する際の基本的な視点と方法を習得することを目的とする。夏目漱石の作品に関して、受講者はそれぞれ各作品を分担し、担当作品の表現や事象に関して文献調査と注釈作業を行い、同時に自己の分析と読解の視点を提出する。この発表に基づいて、受講生全員で意見を交換する。これらの作業を通して、漱石の文学テキストのもつ構造と、その同時代言説との関係を把握する。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本文学基礎演習 II		主に中古・中世の著名な日本古典文学作品を取り上げ、作品の輪読を通して、古典籍の基本的な取り扱い方を学ぶとともに、古典文学を研究するための必要となる基礎的な知識を習得することを目的とする。受講者はテキストとなる古典籍のくずし字を解読し、語釈や表現等の分析を行い、その特徴について考察し、発表資料にまとめる。その後、発表内容に基づき、受講者全員で意見交換を行い、テキストの特徴や表現構造、文学史的位置付けについて理解を深め、くずし字の基礎的な読解能力を身に付ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本文学演習 I		小泉八雲の作品に関する検討を通して、近代文学を分析する際の発展的な視点と方法を習得することを目的とする。小泉八雲の作品に関して、受講者はそれぞれ各作品を分担し、担当テキスト中の表現や事象に関して文献調査と注釈作業を行い、同時に自己の分析と読解の視点を提出する。この発表に基づいて、受講生全員で意見を交換する。これらの作業を通して、小泉八雲の文学テキストのもつ構造と、その同時代言説との関係を把握する。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本文学演習 II		主に中古・中世の日本古典文学作品を取り上げ、作品の輪読を通して、古典籍の調査方法を学ぶとともに、古典文学を研究するための専門的な知識を習得することを目的とする。受講者はテキストとなる古典籍のくずし字を解読し、語釈や表現等を分析し、古注釈等の文献について調査を行い、その特徴について考察し、発表資料にまとめる。その後、発表内容に基づき、受講者全員で意見交換を行い、作品の表現構造やその特徴、後代における受容について理解を深め、くずし字の読解能力を高める。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本文学演習 III		主に中古・中世の日本古典文学作品を取り上げ、作品の輪読を通して、さまざまな古典籍の調査方法を学ぶとともに、古典文学を研究するためのより専門的な知識と高度な分析手法を習得することを目的とする。受講者はテキストとなる古典籍のくずし字を解読し、語釈や表現等を分析し、古注釈や関連文献について調査を行い、その特徴について考察し、発表資料にまとめる。その後、発表内容に基づき、受講者全員で意見交換を行い、作品の表現構造やその特徴、後代における受容について理解を深め、古典籍の読解能力を高める。	
専門教育	専門科目	展開科目	日本文学特殊講義 I		近代日本における文学史とその背景にあった各時期の思想文化について学び、それらを歴史的に理解できるようになることを目的とする。近代日本の文学史の展開を、各時期を代表する表現者とそのテキストを講読しながら具体的に検討する。そして、それら文学史の展開の背景となった個々の時代における社会と文化の動向についての理解を深める。近代日本の文学史と各時期の思想文化の知識を総合的に関連付けて、それらを作品分析に適用できるようにする。	

専門教育	専門科目	展開科目	日本文学特殊講義Ⅱ		古代から近世にいたる日本古典文学の系譜について理解するとともに、文学作品を多角的に分析する力を養うことを目的とする。中古・中世の文学作品を中心に取り上げ、それらを題材とする後代の文芸の様相やさまざまな言説について検討し、近代にいたるまでの日本古典文学の展開とその社会的背景について理解を深める。作品間の影響関係や後世への受容について理解し、さまざまな種類の史料を用いて比較研究する手法を習得する。
専門教育	専門科目	展開科目	日本文学特殊講義Ⅲ		近代日本において翻訳がもたらした文化的な影響とその背景に存在した同時期の社会的状況についての知識を習得し、近代日本の文化史についての理解を深めることを目的とする。主に明治期・大正期を中心として小説家・詩人・評論家等の表現者と翻訳の関係を検討し、近代の翻訳文化の検討を通して、そこに内包された現代の社会環境に通じる様々な課題についての理解を深める。近代日本における翻訳文化についての知識を総合的に関連付けて、それらを具体的な作品分析に適用できるようにする。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 A 1		日本の文学にも深い関わりを持つ中国の古典詩について、実際の作品の読解を通して理解を深めることを目的とする。実際に自分で辞書を引き、資料を調べ、訓点を施し、議論を行う経験を積む。本講義ではまず漢詩の基本的な読み方を教えることを第一の目的とする。その為読解を行うに当たっては、訓詁と訳文だけでなく、各句ごとに語注を付け、その言葉の含有する意味について深く考える。その上で、その詩が何故高い評価を受けているのかについて考える。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 A 2		日本の文学にも深い関わりを持つ中国の古典小説について、実際の作品の読解を通して理解を深めることを目的とする。実際に自分で辞書を引き、資料を調べ、訓点を施し、議論を行う経験を積む。六朝期を代表する小説集の一つである『搜神記』の講義を行う。六朝時代の小説は「志怪」と呼ばれ、これらは創作ではなく、あくまでも記録であるといわれる。そこには昔の中国人達のような思想、世界観が含まれているのか、また中国の古典小説は日本の説話文学とも深い関係を持っている。本講義では中国の古典小説の世界に触れ、あわせて訓詁の基本的な技術や読解の方法を身に付ける。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 A 3		日本の文学にも深い関わりを持つ中国の古典詩について、実際の作品の読解を通して理解を深めることを目的とする。実際に自分で辞書を引き、資料を調べ、訓点を施し、議論を行う経験を積む。本講義では、前年度の中国語中国文学演習 A 1 の学修成果に基づいて、より高いレベルでの読解を行えるようになることを目的とする。作品そのものを読み込むだけでなく、さらに作者や時代背景についても調査し、これらをあわせて考察することで、より深く作品の本質に迫ることを目指す。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 A 4		日本の文学にも深い関わりを持つ中国の古典小説について、実際の作品の読解を通して理解を深めることを目的とする。実際に自分で辞書を引き、資料を調べ、訓点を施し、議論を行う経験を積む。本講義では、前年度の中国語中国文学演習 A 2 の学修成果に基づいて、より高いレベルでの読解を行えるようになることを目的とする。作品そのものを読み込むだけでなく、さらに時代背景や同時代の類話、後世の伝播状況などについても調査し、これらをあわせて考察することで、より深く作品の本質に迫ることを目指す。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 B 1		中国現代文学の作品を講読することで、作品への理解を深めると同時に、中国語の語学力向上を目指す。本講義では、茅盾の短編小説『春蚕』を講読する。茅盾文学のスタイルや表現手法を分析し、1930年代の中国農村社会を描写したその文学的アプローチを分析する。その分析に基づいて1930年代の中国農村が直面した経済的・社会的問題を考察することで、作品への理解を深める。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 B 2		中国現代文学の作品を講読することで、作品への理解を深めると同時に、中国語の語学力向上を目指す。前期の中国語中国文学演習 B 1 に引き続き、茅盾の『春蚕』を講読し、1930年代の中国農村社会を描写したその文学的アプローチを分析する。リアリズム文学の特徴と茅盾作品の表現技法を学び、社会背景と文学的手法との関係を考察する。また発表や討論を通じて、学生の批判的思考力の育成を目指す。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 B 3		中国現代文学の作品を講読することで、作品への理解を深めると同時に、中国語の語学力向上を目指す。本講義では、前年度の中国語中国文学演習 B 1 の学修成果に基づいて、より高いレベルでの分析を行えるようになることを目的とする。作者の思想や創作手法だけでなく、当時の社会や政治経済の状況なども視野に入れた分析を行えるようになることを目指す。また学生同士の討論で議論をリードする力を身に付けることも目指す。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 B 4		中国現代文学の作品を講読することで、作品への理解を深めると同時に、中国語の語学力向上を目指す。本講義では、中国語中国文学演習 B 2 の学修成果に基づいて、その表現技法や社会的背景との関係性について、より高いレベルでの分析を行えるようになることを目的とする。また演習発表だけでなく、学生同士の活発な議論・討論を促し、その中で自身の意見をまとめて他者に伝える力、また全体の議論をコントロールする力を身に付けることも目指す。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 C 1		初級中国語で習得した知識を活かし、中国語の原典資料を講読することで、生きた中国語を学ぶ。本講義では中国の近現代史の様々な出来事に関する原典史料を講読し、中国近現代史に対して理解を深めつつ、中国語の読解力を高め、現在の諸問題の持つ意味を考察するためのヒントを得ることを目的とする。また、習熟度によって、中国語の新聞資料やTVのニュースなど、時事中国語を用いた学修も取り入れる。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 C 2		初級中国語で習得した知識を活かし、中国語の原典資料を講読することで、生きた中国語を学修する。本授業では時事中国語のテキストを使用し、近年の中国の様態やトピックをとりあげ、中国語読解力を向上させつつ、最近の中国の動向について理解を深める。また、習熟度によって、中国語の新聞資料やTVのニュースなど、時事中国語を用いた学修も取り入れる。現代中国を見るための視点を養い、最近の中国にかかわる問題を考察できるようにする。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 C 3		初級中国語で習得した知識を活かし、中国語の原典資料を講読することで、生きた中国語を学ぶ。本講義では日本に滞在している中国人留学生のインタビューをもとにしたテキストを使用し、発音や語法などの基礎的な事項を踏まえつつ、中国語の文章を読んで訳すという作業を繰り返すことで中国語読解力を向上させることを目的とする。また、後半の授業では習熟度に応じて中国語の動画やTVニュースなども利用し、より最新の状況を理解できるよう努める。合わせて、留学生の現状や日中間関係など様々な視点から考察する。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学演習 C 4		初級中国語で習得した知識を活かし、中国語の原典資料を講読することで、生きた中国語を学修する。後期の授業では時事中国語のテキストを使用し、近年の中国の様態やトピックをとりあげ、中国語読解力を向上させつつ、最近の中国の動向について理解を深める。また、習熟度によって、中国語の新聞資料やTVのニュースなども取り入れ、より現代中国社会に対する解像度を高める。現代中国を見るための視点を養い、最近の中国にかかわる問題を考察できるようにする。

専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学特殊講義Ⅰ	本講義では中国や、台湾、香港など東アジア地域を中心として歴史的事項を踏まえつつ、現状をめぐる諸問題に対する理解を深める。中国を中心として東アジア地域の近現代史を概観し、歴史的な視点から現在の問題を考察する。また、メディアリテラシーとの関連で、時事問題に関して新聞記事を毎回とりあげ、その内容について解説する。中国および東アジア地域の現状について修得した知識をもとに、様々な視点から多角的に考察できるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学特殊講義Ⅱ	本講義では中国や、台湾、香港など東アジア地域を中心として歴史的事項を踏まえつつ、現状をめぐる諸問題に対する理解を深める。東アジア地域の現状に関する様々なトピックをとりあげて、深掘りする。また、メディアリテラシーとの関連で、時事問題に関して新聞記事を毎回とりあげ、その内容について解説する。東アジア地域の現状について修得した知識をもとに、様々な視点から多角的に考察できるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	中国語中国文学特殊講義Ⅲ	日本の文学や日本文化と深い関わりを持つ中国古典小説を通して、中国の文化、とりわけ中世期の民俗文化について理解を深め、日本文化との関わりを考察することを目的とする。本講義では、まず中国の古典小説、とりわけ志怪小説・伝奇小説について、理解を深めることを第一の目的とする。その上で、具体的に作品を訳読し、分析することを通じて、そのような物語がどのような民俗文化を反映して語られているのか、について考える。
専門教育	専門科目	展開科目	英語学演習A	19世紀後半から現在に至るまでの英語で書かれたフィクションやエッセイ等を取り上げ、テキストの言語的特徴についての分析方法を学ぶ。本年度対象となる作家は、ジョン・オカダ、ヒサエ・ヤマモト、カズオ・イシグロなど日本にルーツがある英米文学作家及び日本在住の英米文学作家などである。日本にルーツがある英米文学作家及び日本在住の英米文学作家の著書について基本事項を理解し、授業のテキストについて社会文化的背景の基本事項を理解する。
専門教育	専門科目	展開科目	英語学演習B	「英語学演習A」で学んだ内容を踏まえ、19世紀後半から現在に至るまでの英語で書かれたフィクションやエッセイ等について、テキストの言語的特徴についての多角的分析を行う。本年度対象となる作家は、ジョン・オカダ、ヒサエ・ヤマモト、カズオ・イシグロなど日本にルーツがある英米文学作家、および日本在住の英米文学作家などである。日本にルーツがある英米文学作家及び日本在住の英米文学作家の著書を包括的に理解し、授業のテキストについて社会文化的背景を包括的に理解する。
専門教育	専門科目	展開科目	英文学演習A	初期近代演劇についての文化背景と言語的特性の基礎を理解し、演劇に対する基本的な知識を身に付けることを目指す。ウィリアム・シェイクスピアの『テンペスト』を講読し、このお芝居における魔術の特性と政治性を訳読する。辞書を使いながら初期近代英語を訳読するとともに、初期近代の文化背景を理解し、演劇テキストに表象される文化事象を相対化できるできるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	英文学演習B	「英文学演習A」で学んだ内容を踏まえ、初期近代演劇についての文化背景と言語的特性の理解を深め、演劇に対する幅広い知識を身に付けることを目指す。ウィリアム・シェイクスピアの『テンペスト』を講読し、このお芝居における魔術の特性と政治性を訳読する。辞書を使いながら初期近代英語を訳読するとともに、初期近代の文化背景を理解し、演劇テキストに表象される文化事象を相対化できるできるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	米文学演習A	アメリカ文学作品について、作家の文学的特徴や時代背景を理解した上でテキスト分析を行う。ノーベル文学賞作家Toni Morrisonの小説A Mercy (2008)を取り上げ、アメリカ植民地時代における人種の問題に着目しながら作品を精読する。アフリカ系アメリカ文学における奴隷体験のトラウマ及びアメリカにおける人種構造について、テキストの精読を通して理解する。
専門教育	専門科目	展開科目	米文学演習B	「米文学演習A」で学んだ内容を踏まえ、アメリカ文学作品について、作家の文学的特徴や時代背景を包括的に理解した上でテキスト分析を行い、さらに、批評理論に基づいた作品解釈を試みます。ノーベル文学賞作家Toni Morrisonの小説A Mercy (2008)を取り上げ、アメリカ植民地時代における人種の問題に着目しながら作品を精読する。アフリカ系アメリカ文学における奴隷体験のトラウマ及びアメリカにおける人種構造について、テキストの丹念な精読を通して理解するとともに、Toni Morrisonの経歴と文学的テーマ、他のアフリカ系アメリカ人作家との関連性について、複数の参考文献を読みながら幅広く理解する。
専門教育	専門科目	展開科目	英文学特殊講義	この講義は主に初期近代（ルネサンス）時代のイギリスを対象として、英語圏の文化背景を分析、解説していく。シェイクスピア作品からの引用を多く参照して、フィクションの世界を面白くしている社会不安や欲望を観察する。本授業ではシェイクスピアの劇作品を紹介しつつ、王国相続制度や階級制度、結婚制度など、同時代の文化・社会的背景からシェイクスピア劇の面白さを解説する。初期近代イギリスにおける社会的、文化的背景を理解し、同時代の演劇テキストに表象されている文化事象を相対的に論じることができるようになる。
専門教育	専門科目	展開科目	米文学特殊講義A	アメリカ文学作品について、作家の経歴と文学的主题、他の同時代作家の作品との比較を通して考察する。また、作品の執筆から出版までの経緯や映画化に関する事情を学ぶことで、作品の成り立ちや社会的意義についての基本的な理解を目指す。アフリカ系アメリカ人作家James Baldwinの中編小説If Beale Street Could Talk(1974)を取り上げ、ポスト公民権運動期における人種差別の問題について考察する。
専門教育	専門科目	展開科目	米文学特殊講義B	「米文学特殊講義A」で学んだ内容を踏まえ、アメリカ文学作品について、作家の経歴と文学的主题、時代背景、批評動向などを通して多方面から考察する。また、作品の執筆から出版までの経緯や映画化に関する事情について文献資料を用いて調査し、作品の成り立ちや社会的意義についての包括的理解を目指す。アフリカ系アメリカ人作家James Baldwinの中編小説If Beale Street Could Talk(1974)を取り上げ、ポスト公民権運動期における人種差別の問題について考察する。
専門教育	専門科目	展開科目	独語独文学演習A 1	現代ドイツのコミックとグラフィックノベルについての基礎的な知識やそこで扱われている様々なテーマについての理解を身に付けた上で、その分析方法と読解力を養う。受講者が日本語訳や英語訳に頼らずに、ドイツのコミックとグラフィックノベルを原文（初中級～中級レベル）で読んで、時代・社会背景等を正しく理解し、文学作品として評価することができるように、適切な和訳もできるようにすることを旨とする。教員によるドイツのコミックとグラフィックノベルの歴史と現状、およびその読み方や分析方法等について紹介した後に、「ローカルヒストリー」「現代史」「女性史」「文学」をテーマとしたグラフィックノベルの代表的な作品の抜粋を原文（初中級～中級レベル）で読んでいく。その際、ドイツにおけるコミック・グラフィックノベル研究における動向を参考にしながら、作品の分析や日本語訳についても考える。

専門教育	専門科目	展開科目	独語独文学演習 A 2	現代ドイツのコミックとグラフィックノベルについての基礎的な知識やそこで扱われている様々なテーマについての理解を身に付けた上で、その分析方法と読解力を養う。受講者が日本語訳や英語訳に頼らずに、ドイツのコミックとグラフィックノベルを原文（中級～中上級レベル）で読んで、時代・社会背景等を正しく理解し、文学作品として評価することができるように、適切な和訳もできるようにすることを旨とする。教員によるドイツのコミックとグラフィックノベルの歴史と現状、およびその読み方や分析方法等について紹介した後に、「ローカルヒストリー」「現代史」「女性史」「文学」をテーマとしたグラフィックノベルの代表的な作品の抜粋を原文（中級～中上級レベル）で読んでいく。その際、ドイツにおけるコミック・グラフィックノベル研究における動向を参考にしながら、作品の分析や日本語訳についても考える。	
専門教育	専門科目	展開科目	独語独文学演習 B 1	ドイツ語中級から中上級へのレベルアップを目指す授業である。ドイツ語の仕組みに関する理解力を総合的に深めながら、とりわけ、日本語訳に頼らずに（辞書や文法書を活用しながら）ドイツ文学作品を原文で自信を持って読めるようになることを目的とする。教科書（前半部分）に沿って、ドイツ語の代表的な作品の抜粋したテキスト（中上級レベル）及び参考資料（学術論文、作家の日記や書簡等）を精読する。本授業では、テキストの文学的な評価や解釈についても学び、特にそれぞれのテキストにある文法現象に注目し、関連文法事項について実践的な演習を行う。授業の一部はドイツ語のみで行う予定であり、パートナー練習やグループ練習も取り入れて、受講者が話す機会を設ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	独語独文学演習 B 2	ドイツ語中級から中上級へのレベルアップを目指す授業である。ドイツ語の仕組みに関する理解力を総合的に深めながら、とりわけ、日本語訳に頼らずに（辞書や文法書を活用しながら）ドイツ文学作品を原文で自信を持って読めるようになること、またドイツ語の語彙力を高めることを目的とする。教科書（後半部分）に沿って、ドイツ語の代表的な作品の抜粋したテキスト（中上級レベル）及び参考資料（学術論文、作家の日記や書簡等）を精読する。本授業では、テキストの文学的な評価や解釈についても学び、特にそれぞれのテキストにある文法現象に注目し、関連文法事項について実践的な演習を行う。またドイツ語の単語テストやドイツ語会話の聞き取り、書き取りなどを織り交ぜ、ドイツ語の総合的な力を高め、テキスト読解を中心とする課題を毎回の授業で指定するので、受講者はそれを解いて授業に参加する。	
専門教育	専門科目	展開科目	独語独文学特殊講義 A	ドイツ文学のクンストメルヒェン（Kunstmärchen）とノヴェレ（Novelle）をテーマに、文学研究の方法（前提的知識の獲得、問題点の整理、論点の吟味）を実践的に身に付けること、またさまざまな文学テキスト（中級レベル）を読む能力を高めること、文学解釈について討議し、文章で表現できるようにすることを目的とする。まずクンストメルヒェンとノヴェレに関する文学史的背景と、専門的なジャンル区分についてドイツ語の研究書を読んで整理し、研究ノートを作成する。その後、ドイツ文学の作品の読解を行う。参加者の中から、ドイツ語のテキスト（中級レベル）を日本語訳する担当、翻訳を用いて作品解釈を発表する担当などを割り振り、発表と討議によって授業を進める。	
専門教育	専門科目	展開科目	独語独文学特殊講義 B	ドイツ文学のクンストメルヒェン（Kunstmärchen）とノヴェレ（Novelle）をテーマに、文学研究の方法（前提的知識の獲得、問題点の整理、論点の吟味）を実践的に身に付けること、またさまざまな文学テキスト（中上級レベル）を読む能力を高めること、文学解釈について討議し、文章で表現できるようにすることを目的とする。まずクンストメルヒェンとノヴェレに関する文学史的背景と、専門的なジャンル区分についてドイツ語の研究書を読んで整理し、研究ノートを作成する。その後、ドイツ文学の作品の読解を行う。参加者の中から、ドイツ語のテキスト（中上級レベル）を日本語訳する担当、翻訳を用いて作品解釈を発表する担当などを割り振り、発表と討議によって授業を進める。	
専門教育	専門科目	展開科目	独語独文学特殊講義 C	ホロコースト体験をもとに書かれた手記、ホロコーストを題材とする文学作品を読み、ホロコーストをめぐる記憶や語り多様性について学ぶ。ホロコーストは、生還者やその子供たちの世代によってどう記憶され、語られるのか、ホロコーストの記憶や語り問題をどうに文学作品を通して考察することで、文学作品の読解力や調べる力を養い、報告やディスカッションを通して、自分の考えを説明する力を養う。	
専門教育	専門科目	展開科目	ドイツ語圏文化論演習	現代ドイツ社会の様々な現象について自ら課題を見つけ出し、必要な情報を入力し、適切な方法で分析を行い、その結果を発表できるようにすることを旨とする。また、その際に必要なドイツ語能力を身に付けることも目的とする。現代ドイツ社会・文化の各分野に関する既習知識を再確認し、ドイツ文化論に関わる基本的な参考文献、データベース、検索ツールと情報源を紹介し、その活用法を指導する。本授業の枠内での調査、あるいはドイツ留学の際に研究調査活動を効果的に実施できるように、各研究テーマに関する和洋書の基本的文献及び研究水準を把握できるように指導し、独自のアプローチを提起できるよう支援する。また、各自の関心のある研究テーマについて、日本から入手・アクセスできる資料や情報源を活用し、適切に分析かつ位置づけることができるよう指導する。それらを踏まえて、具体的なフィールドワーク・プロジェクトの計画を作成し、研究テーマに適切な調査資料の選択やインタビュー先の確保等ができるよう指導と支援を行う。さらに、ドイツ語による（オンライン）インタビューの仕方等についての実践演習も行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学演習 A 1	この授業では、上級レベルのフランス語（CEFRレベルA2～B1）を学修する。FLE(外国語としてのフランス語)の教科書を使用し、2回の授業で1課のペースで学修する。まずは、会話（読み、発音、語彙など）の勉強から始め、その後、文法のポイントを詳しく学び、練習問題を解いていく。口頭での表現力と理解力を養うために、各授業の一部で日常的な話題（趣味、嗜好、旅行など）についてのディスカッションを行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学演習 A 2	この授業では、上級レベルのフランス語（CEFRレベルB1）を学修する。FLE(外国語としてのフランス語)の教科書を使用し、2回の授業で1課のペースで学修する。まずは、会話（読み、発音、語彙など）の勉強から始め、その後、文法のポイントを詳しく学び、練習問題を解いていく。口頭での表現力と理解力を養うために、各授業の一部で受講者が選んだテーマについてディスカッションを行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学演習 B 1	これまで学んだ文法知識を生かして、単語の意味を調べながら、フランス語の原文を読んでいく。中級レベルのフランス語を習得していることを履修条件とし、フランス語の原著テキストを使って、原文の文法構造を把握し、翻訳をする。小説作品の精読を通してフランス語の読解力を高め、フランス文学作品に現れた日本を理解する。また、マルローの芸術論を読み、「想像の美術館」の概念を理解する。	

専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学演習 B 2		時事フランス語の語彙、文体の特徴を理解する。現代のフランスに対する理解を深め、日本との比較の可能性を探る。対面授業の形式により、受講者全員が記事の解釈に効果的に参加する。最初に教員がフランスにおけるメディアの現状を紹介した後、いくつかの記事を取り上げ、読み進めつつコメントを加える。授業の後半では受講者各自がテーマを決め、新聞、週刊誌等の記事を精読する。受講者は担当の際、注釈等を準備し、他の受講者と和訳を行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学演習 B 3		フランス語の文学テキストにあらわれる異文化表象（日本・オリエン特・スペイン）について、原文を読みながら考察する。フランス文学の作品の抜粋をフランス語の原文で読むことにより、中級・上級のフランス語力を身につけ、自分でフランス語文献を読めるようにする。19世紀、20世紀フランス文学の他者表象をめぐる社会的・歴史的背景を学ぶことにもなる。また取り上げる作品・テーマについてフランス語でコメントできるようにする訓練もする。授業のテーマに沿った発表に積極的に取り組む。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学演習 B 4		フランス語の読解力を養成することを目的とする。取り上げる原文は19世紀以降の散文作品（モーパッサン、ゾラ、フローベール等）を主とするが、フランス語の音についての理解を深めるために、ボードレール他の詩についても扱う。授業は受講者による音読、訳読、文法的説明に関する質疑応答など演習形式で行い、原文を精読する。受講者は、予習にあたって文意を理解するだけでなく、語彙、表現、文法的な疑問などについて十分に調べ、質疑応答に備えることが求められる。なお、各作品について、文学作品の解釈の上で重要と思われる点について議論を行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学演習 C 1		文法の復習を織り込みつつ、応用可能な基本例文を暗唱し、問題演習を重ねることにより、和文仏訳の基礎的な力を養成する。受講者の板書への解答例を対面授業の形式で受講者、教員で検討する。比較的簡単な和文仏訳をし、基本的な文法・語法を整理復習すると共に、使える語彙を増して、和文仏訳の基礎的な力を養成することと併せ、やや進んだ関連事項をも学ぶ。所謂「仏借文」を可能にする例文を記憶しディクテを行うと共に、前回扱った問題から小テストを毎回行う。その後、その回の受講者の解答を添削しつついくつかの解答例を示し、解説を付する。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学演習 C 2		前期に引き続き、文法の復習を織り込みつつ、応用可能な基本例文を暗唱し、問題演習を重ねることにより、和文仏訳の基礎的な力を養成する。仏語仏文学演習 C 1 に引き続き、比較的簡単な和文仏訳をし、基本的な文法・語法を整理復習すると共に、使える語彙を増して、和文仏訳の基礎的な力を養成することと併せ、やや進んだ関連事項をも学ぶ。所謂「仏借文」を可能にする例文を記憶しディクテを行うと共に、前回扱った問題から小テストを毎回行う。その後、その回の受講者の解答を添削しつついくつかの解答例を示し、解説を付する。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学特殊講義 A		16世紀フランス宗教戦争の時代におけるロンサール、ドービニエなどの詩人たちの行動と作品への理解を得る。16世紀フランス宗教戦争の諸相にあって、ロンサール、バイフ、デボルト、ビブラック、ドービニエなどがどのように行動したかを考察する。そして、彼らの詩作と宗教戦争との関係を作品の読解し、20世紀の歴史・社会・文学・思想を理解する。また、提示するキーワードでつながるフランス近現代(18世紀、19世紀、21世紀)の作家・作品についても取り上げる。	
専門教育	専門科目	展開科目	仏語仏文学特殊講義 B		20世紀のフランス人作家、アンドレ・マルロー（1901-1976）の作品を複数のキーワードで読み解きつつ、フランス近現代文学を俯瞰する。フランスの20世紀を代表する作家アンドレ・マルローの生涯と作品を複数のキーワードで解説し、20世紀の歴史・社会・文学・思想を理解する。また、提示するキーワードでつながるフランス近現代(18世紀、19世紀、21世紀)の作家・作品についても取り上げる。	
専門教育	専門科目	展開科目	フランス語圏文化論演習		フランス語圏への海外研修や留学に際して必要な情報を収集し、研修・調査の計画を立て、発表する。計画の実施に必要なフランス語能力を習得し、異文化対応能力の基礎を学ぶ。本授業の履修にあたっては、夏季休業期間以降にフランス語圏での研修を予定している2年生以上を対象として、最低1年程度のフランス語の学習歴が必須となる。研修時に調査・研究するテーマを各自見つけることが求められる。 (オムニバス方式/全15回) (21 Michel SAGAZ/5回) フランス滞在で役に立つフランス語について担当する。 (38 畑 重弥子/10回) フランス語圏への海外研修や留学に際して必要な研修・調査の計画について担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	展開科目	世界文学論		本授業では、「世界文学」という理念の誕生から変容、今日の意義、今後の課題までを、様々な事例に即して学部、国家や民族といった枠組みに位置づけられてきた「国民文学」が、翻訳を介して、文化的政治的意味合いが変わることもある。移民や女性といった周縁化された書き手は、しばしば様々な表現媒体を駆使して、既成の枠組みに挑戦する。多言語状況のもとでは、既知の文化潮流が、ダイナミックな異種混合性を獲得することもある。世界的な広がりによって考えると、個々の作品や文化現象に思わぬ発見があることを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (5 井上 暁子/5回) モダニズムと多様性の広がりについて担当する。 (15 西横 健/5回) 比較文学の観点から近代日本と中国における外国文学の受容、夏目漱石について担当する。 (34 富村 憲貴/5回) ハンセン病文学の越境性について担当する。	オムニバス
専門教育	専門科目	展開科目	比較文学演習 I		この授業の目的は、比較文学に含まれる「比較芸術」について理解を深めることである。具体的には文学と映画、マンガ、写真、音楽、絵画などの領域との関わりを扱い、比較芸術の視点から考察する。テキストとして『比較文学比較文化ハンドブック』（東京大学出版会、2024）所収「比較芸術」の章を用いて、比較芸術研究の方法を学び、実践を試みる。概要は、まずは比較芸術関連の論文や学術書を読むことから始め、それから、各自で資料を探索し、それぞれ研究発表をするかたちで進める。	
専門教育	専門科目	展開科目	比較文学演習 II		この授業の目的は文学作品や文化的な事象について多角的に考察し、各テーマの理解を深めるとともに、研究報告の経験を積み、質疑応答や討論に慣れることを目指す。具体的には『比較文学比較文化ハンドブック』（東京大学出版会、2024）所収の「比較文化」の章を教材に、比較文化研究の方法を学びながら実践をする。毎時間1名がみずから選んだテーマで口頭発表を行い、出席者全員による質疑応答を通してそのテーマの発展と深化を図る。	

専門教育	専門科目	展開科目	比較文学特殊講義Ⅰ	本授業では、異邦や越境が文学・芸術のテーマとして、20世紀以降めざましい発展を見せてきたことを学ぶ。本授業では、異邦や越境を扱う文学・芸術が、どのようなやり方で、その変化に役買ってきたかを理解する。異邦、越境というテーマは、古代ギリシア時代から文学に登場し、とりわけ20世紀以降、顕著な発展をみせてきた。まず作家と創作言語の多様な関係について基本的な知識を得た上で、次に、亡命文学や移民文学といったジャンルがどのように発展してきたか、とくにこれらのジャンルが、各国民文学にどのような位置づけられてきたかについて学ぶ。さらに、表現メディアの問題についても学ぶ。今日、異邦や越境といったテーマは、文学よりもむしろ、映画、アニメーション、グラフィックノベルに頻出している。こうした知識をふまえ、具体的な作品を読み、議論する。	
専門教育	専門科目	展開科目	比較文学特殊講義Ⅱ	テキスト論、翻訳研究、メタファー研究の観点から、文学研究の基本的な諸問題について学び、文学作品の読解を通して、テキストに多面的にアプローチする視座を習得することを目指す。文学研究におけるテキストをめぐる基本概念（間テキスト性、パラテキストなど）をたどったのち、翻訳研究、メタファー研究の観点から、文学研究の基本的な諸問題について学ぶ。随時、文学作品を読解し、日常言語と文学言語の差異について考察する。翻訳可能性・不可能性、比喩の認知といった観点から、最終的には機械翻訳、AIの言語と文学言語の境界線について検討する。	
専門教育	専門科目	展開科目	国際文化学演習Ⅰ	作品に触れ、論点を見出し、文献を調査し、文章を書くという国際文化学研究の一連の流れを経験することを目的とする。具体的には、近年の映画を実際に見て、そこから論点を抽出し、どのような表現技法によって、いかなる文化的葛藤を提示しているのかを議論し、それについて調査し、評論文を書いていく。映画を鑑賞し、ディスカッションによって論点を出し合う授業を2回、関連資料や参考文献を調査し発表する授業を1回、提出された評論文を論評し合う授業を1回の計4回を一つのターンとする。数名の担当者が発表と評論文の執筆を行う。どの映画を鑑賞するかは、初回授業で話し合う。	
専門教育	専門科目	展開科目	国際文化学演習Ⅱ	卒業論文に向けて、英語文献を理解し、内容について英語で討議できるようになることを目指す。自らの研究テーマに関連する、英語で書かれた文献を探し、内容に関する発表とディスカッションを行うことで、情報を収集する力、議論を構成する力、および英語運用力を高める。英語文献の細部まで正確に読み取り、内容を説明すること、さらに、英語文献の内容を批判的に分析し、明確な論点を設定し議論することができるようになる。	
専門教育	専門科目	展開科目	国際文化学演習Ⅲ	国際文化学履修モデルの学生にとって卒業論文に必要な共通の能力を高めることを目指す国際文化学演習Ⅰおよび国際文化学演習Ⅱと異なり、国際文化学演習Ⅲは、特定の文化圏についての演習科目である。中国語圏、英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏について1年ごとにローテーションで素材を提供し、受講生は、履修した外国語を活用し、対象となる文化圏の文学、映画や文化現象について深く掘り下げて学ぶ。	
専門教育	専門科目	展開科目	外国語演習A1	中国語の会話力と聴解力を体系的に向上させ、日常生活や社会的場面での実践的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。この授業では、学修・仕事・人間関係などの多様なテーマを扱い、スピーキングとリスニングを統合した学修を進める。各課では、中級レベルの語彙や文法を確実に習得した上で、まずリスニングを行い、聞いた内容に基づいて質問に答えたり、全体を要約したりする練習を行う。その後、学んだ語彙や表現を実際の場面で活用し、自由な表現へと進めていく。スピーキングとリスニングの双方向的な演習を通じて、中国語での円滑なコミュニケーション能力を養う。	
専門教育	専門科目	展開科目	外国語演習A2	本授業は、中国語の基礎を習得した学生を対象に、より高度な文章作成能力の習得を目指す。中国語の機能別文型の構造や表現スタイルに焦点を当て、段階的なライティング演習を通じて、実践的な表現力と論理的な文章構成力を身に付ける。本授業では、模範文の読解と段階的なライティングスキルを通じて、中国語の文章作成能力を養う。まず、機能別文型を使った作成から始め、次に接続詞などを用いた句群展開を行い、最後に模範文の構造やスタイルを模倣した文章作成へと進む。さらに、課題へのフィードバックとピアレビューを通じて、実践的な文章表現力と論理的な構成力を高める。	
専門教育	専門科目	展開科目	外国語演習B1	本授業では、まず平易なドイツ語の文章の読解を通して、受講者が初級文法を復習し体系的に学ぶことから始め、次第にドイツ語の文章の難易度を高め、中級文法についても学ぶ。難易度に配慮しつつ比較的短い文章を選んで読み進めることでドイツ語の読解能力を高める。さらに、関連文法事項について実践的な練習も行う。授業の一部はドイツ語のみで行う予定であり、パートナー練習やグループ練習も取り入れて、受講者が話す機会をできるだけ多く設ける。	
専門教育	専門科目	展開科目	外国語演習B2	本授業では、20世紀のドイツ文学作品を読み進める。辞書を参照することにより独力で文章の意味が理解できるようになることをまず目指す。語彙を増やすこと、中級文法を習得することも重要だが、作家の文章と向き合うことにより、作家の文体や文学的な表現を鑑賞できるように努める。テキストの文学的な評価や解釈についても学ぶが、本授業では特にそれぞれのテキストにある文法現象に注目し、関連文法事項について実践的な練習も行う。またドイツ語の単語テストやドイツ語会話の聞き取り、書き取りなどを繰り返し、ドイツ語の総合的な力を高めていく。	
専門教育	専門科目	展開科目	外国語演習C1	この授業の主要目的の1つは、学生の自己表現力と理解力を向上させることです。口頭でのコミュニケーションを重点的に行いますが、ライティングスキルも教わります。もう1つの重要な目的は、今日のフランスの文化的、社会的側面を見出すことです。そのために、提案されたテーマを、テキスト研究（言語的側面、一般かつ深く掘り下げた理解）、語彙の向上、フランスに関する知識の向上という形でテキストを通じて学修します。扱われるテーマには、たとえば芸術、美食、仕事、教育などが含まれる。	
専門教育	専門科目	展開科目	外国語演習C2	この授業では、異文化へのアプローチを取り入れ、フランス、ベルギー、セネガルなどのフランス語圏の国と日本の違いについて考察する。受講者はテーマを選択し、それについて他の受講者の前で発表する。登録した学生の数に応じて、発表は1人ずつ、または小グループ間で行い、発表は、クラス全員で議論が展開されるような内容にする。学生は様々なテーマ（社会的、文化的など）を見つけたり、考えを示したり、意見を表現したりすることを学ぶ。やり取りは可能な限りフランス語で行う。	
専門教育	専門科目	展開科目	国際文化学特殊講義Ⅰ	言語学の基本的な用語・概念と考え方を修得することを目指す。私たちの普段話していることには、普段は気付かれないが、興味をそそる事実が隠れている。この授業では、それはどのような事実なのか、また、そのような事実をどのような方法で発掘し・分析するのかを学ぶ。取り扱う言語は主に英語と日本語。両言語や世界の他の言語を対照しながら、共通点や相違点を理解する。	
専門教育	専門科目	展開科目	国際文化学特殊講義Ⅱ	現代的な文化状況を批判的に捉え、歴史伝統に新しい理解をもたらす文化研究を実践的に経験する。また、日常的な生活様式やメディアでの話題、すでに知っている文学作品や映像作品から研究のアプローチを見出す方法を体得することを目的とする。数回の授業ごとにコメントシートを提出してもらい、テキストや映像の資料について議論し、意見を出してもらい、最後に、現代社会と感情の関係を考察する簡略なレポートを課する。	

専門教育	専門科目	展開科目	国際文化学特殊講義Ⅲ		世界各地で使われている英語の成り立ちと特徴を学び、実例をもとに読解・聴解・発話ができることを目指す。英語発祥の地であるイギリスの英語の歴史と特徴を学んだのち、世界の各地に広がった英語の特質を地域ごとに見ていく。その後、ジャーナリズム、ビジネス、芸術文化などの領域で用いられる英語の実例を読み、聞き、発話することを通して、これらの英語に対応できる素地を養う。	
専門教育	専門科目	展開科目	キャリアデザイン実習		「自分の足場を固めて、確かな足場から大きくジャンプする」をコンセプトに、グローバル社会を生き抜いて自分のキャリアを設計する。(1)自分が10年先、20年先どんな仕事をしたいのかを考え、キャリアプランを立てて活動を実行に移すことを支援する。(2)業界や企業の研究、就職活動への自分なりの戦略を学ぶ。(3)エントリーシートの書き方や面接の受け方、文章や言葉での表現を実践的に学ぶ。(4)夏季に職場体験(インターンシップ)を行うことにより、仕事に対して意識を高め、企業で求められている能力の向上を図る。	
専門教育	専門科目	展開科目	現代芸術文化論A-1		ラブコメマンガの作品読解を通じて、現代のポピュラー文化におけるジャンルの機能や特性に対する理解を深める。あらゆる文化的産物の消費や鑑賞において、われわれは意識するとせざるとにかかわらず何らかの「ジャンル」を認識し、一定の枠組みの中に自らの経験や嗜好あるいは対象物の性質を位置づけてその意味を理解している。しかし、「ジャンル」とは大きな共通理解のようでありながら、一方で明確にその定義や境界を示すことが難しいものでもある。ここでは担当者が専門とするラブコメマンガを題材として、判断や評価の前提となるジャンル意識の構成要素や歴史の変遷について考える。	
専門教育	専門科目	展開科目	現代芸術文化論A-2		メディア芸術について考えるための前提となる基本的な理論やメディアごとの特性について理解する「メディア芸術」と聞いてもピンと来ない人が大半だと思われるが、これは2001年に制定された文化芸術振興基本法(現在は文化芸術基本法)でマンガやアニメなどの「新しい」カテゴリを「芸術」として位置づけるために登場した用語である。こうした事例からもわかるとおり、「芸術」は本質的な区別によって芸術とそうでないものに分かれているわけではなく、社会的に構築された概念である。「メディア芸術」ということばを用いるかどうかはさておき、マンガなりアニメなりゲームなりを研究対象とする場合には、「文化」や「芸術」といったカテゴリを対象とした社会学や歴史学の方法論を学ぶ必要がある。本授業では代表的な理論をいくつか紹介したのち、それぞれのメディアに特徴的な性質等について議論する。	
専門教育	専門科目	展開科目	現代芸術文化論B-1		文化資源学の多様な研究領域に関する論文を講読し、収集した文化資源を研究や実践にどのように活かすかについて概説する。本授業では、参加者各自が興味をもつ領域の論文講読をもとに、私たちの身近にある「文化資源」はどのような観点から価値づけがなされ、今後どのような研究・実践の展開が期待されているのか、また、どのようなかたちで資料を収集するのかについて、指摘できるようにする。	
専門教育	専門科目	展開科目	現代芸術文化論B-2		漫画出版の現場だからこそ語ることができる、漫画とそこから派生するメディアコンテンツの魅力・特色を言語化・体系化し、編集する方法について理解を深める。漫画出版社の編集部やライツ事業部が日常的に行っているコンテンツ制作術や市場分析などについて講義し、漫画はもとより漫画から派生するメディアコンテンツの魅力や特色を「作り手側の視点」を含めて様々な角度から見直し編集する技術を学ぶ。	
専門教育	専門科目	展開科目	現代芸術文化論C-1		日本映画の歴史を学び、学術的・批評的な映画の見方を身に付ける。また、自分の考えを適切に言語化できるようになる。すぐれた娯楽映画には、観客の認知的負荷を下げるためのさまざまな工夫が詰め込まれている。スクリーンを漫然と見ているストーリーを問題なく追うことができるのはそうした工夫によるものである。その工夫の積み重ねが、作り物であるはずの映画の登場人物に感情移入して、気づけば物語世界にすっかり没入していたという観客の鑑賞経験を可能にする。それでは、作り手は具体的にどのような工夫を凝らしているのか。一本の映画は膨大な数のショットからなり、脚本・構図・照明・編集・カメラワーク・音楽・演技・美術などの要素によって支えられている。講義では、いくつかの映画作品を通して、分析的なアプローチ方法を学び、実際に映画批評を書いていく。	
専門教育	専門科目	展開科目	現代芸術文化論C-2		日本におけるアニメーション映画の歴史を学び、作品を学術的・批評的に見る方法を身に付ける。また、自分の考えを適切に言語化できるようにする。独自の進化をたどってきた日本のアニメーションは、国内外で幅広い支持を集めている。この講義では、日本におけるアニメーション映画の歴史と、個々の作品を分析的に読み解くための方法論を学ぶ。それに付随して、映像テキストの細部を分析し、その内容を言語化する技術を磨く。	
専門教育	専門科目	展開科目	現代芸術文化論D-1		「アーカイブ」と呼ばれるものについて、特にメタデータの取得という観点から学ぶ。世間で言われるところの「アーカイブ」とは世界中の学問から「アーカイブズ学」とはやや異なる。便利ワードとしての「アーカイブ」が求めているものについて、マンガなどを事例として主にメタデータの取得から実践的に学ぶ。また別の異相となるデジタルアーカイブについても取り扱う。	
専門教育	専門科目	展開科目	現代芸術文化論D-2		従来の学術領域におけるマンガを対象とする研究は、児童文化や若者文化といった限定されたカテゴリの中の特殊な問題として取り扱われる傾向があり、独立した対象とみなされることはそう多くない。図書館情報学においても、一般に図書資料として提供されている現実と比べて、研究課題としてはそれほど大きな(重要な)ものとはみなされていない。本講義では、マンガを図書館史・メディア史・教育史といった複数の分野に関わる横断的な検討課題として位置づけるための予備的な作業として、より広い意味でのマンガの公共性についていくつかのトピックから検討する。	
専門教育	専門科目	展開科目	課題研究Ⅰ	○	各研究室の教員の指導のもと、学生自身でさまざまな参考文献にあたり、研究の方向を定められるようにする。資料の調べ方などのガイダンスを受けつつ、文献を読みながら自分の問題関心を明確にしていく。夏季休業期間の間に後期の課題研究Ⅱの研究テーマを設定する。最後に、課題研究Ⅱの研究計画書と夏季休業中の学修報告を提出する。	
専門教育	専門科目	展開科目	課題研究Ⅱ	○	各研究室の教員の指導のもと、学生自身でさまざまな参考文献にあたり、研究の方向を定められるようにする。前期の課題研究Ⅰに続いて指導教員の指導を受けつつ、文献を読み、自分の問題関心を明確にしていく。また、4年生の研究発表を聞き、議論に参加する。最後に、3年生での研究のまとめとして最終報告書を提出する。	
専門教育	専門科目	展開科目	課題研究Ⅲ	○	テーマについての調査、研究、考察の成果を論文という形にまとめる能力と技能を身に付ける。卒業論文制作のための研究指導を指導教員から定期的に受け、主題の探究と考察に必要な作業を行う。3年次までの学修を基盤として、関心のある問題の調査、研究、考察の成果をレポートや卒業論文にまとめる。	
専門教育	専門科目	展開科目	卒業論文	○	大学4年間の研究の集大成として卒業論文を執筆する。それによって学士号にふさわしい能力があることを示す。学生が指導教員とも相談しながら、卒業論文のテーマを自分で見つけて決定し、執筆していく。執筆の過程で課題研究ⅢIを通じて教員の指導を受ける。	

専門教育	資格取得科目	法学入門	「法とは何か」「法学とは何か」という問題を、「権利のための闘争」（ルドルフ・フォン・イェーリング）という視座から一貫したかたちで探究することにより、法と法学の構造を体系的に把握する。「権利のための闘争」をめぐる基本的着想を様々な角度（裁判・国制・法・政治思想）から繰り返し捉え直すことで、法と法学の立体的把握を目指す。上記の諸目的に関連して、法学が一般に共有する基本的諸原理を通覧することで、法学の習得にあたり必要となる研究姿勢を身に付ける。基本的に教員の専攻（法哲学・法思想史）に即して授業を進め、国制史・法制史など隣接分野の諸知見を援用する。適宜、熊本の社会的課題に焦点を置くことにより、具体的事例に即しつつ原理的考察を展開する力を養う。	
専門教育	資格取得科目	政治学入門	私たちが政治の関係について考える。この授業では、最初に政治のイメージをつかんだ上で、政治の諸側面に焦点を当て、私たちが政治のつながりについて理解を深める。選挙、議会、政党、官僚制、裁判所、マスメディア、世論、社会運動、NPOなど現実政治の諸側面に焦点を当て、基礎的な知識を踏まえた上で、私たちが政治の関係について理解を深める。授業では、一方的な講義にならないように、受講生の多様な声を取り上げて、双方向的なやり取りを目指す。また毎回、時事問題を取り上げる。	
専門教育	資格取得科目	書道	中学校で書写を教えるための知識や技能を身に付ける。又、現代の文字文化の背景にある流れを学修し書写教育の意義を理解する。理論面では授業作りの要点と方法について学ぶ。実技面では漢字の書体の変遷を理解しそれぞれの書体の特徴を捉え、中学に必要な楷書、行書、平仮名、片仮名の特徴や基本点画の書き方を習得する。なお、・文字文化について理解し日本語表記に用いる文字の歴史を把握した上でそれぞれの書体の特徴を書き表す技能を修得する。・中学書写に必要な基本的用筆、字形を理解し硬筆にも生かすことができる。・手書き文字の重要性を理解し積極的に技能修得に努め書写教育の必要性について十分な考察をすることができる。ことを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	教職入門	現代における教職の意義と役割、職務等を総合的に学び、学校における教師の実際の活動を理解する。また、これからの教職のあり方について考察することができる。そして、教職への進路選択に資することを目的とする。教職について、その意義と役割、求められる資質能力、職務内容等を説明し、さらに働く「場」としての学校の「内」と「外」における連携協力という観点からその組織・運営についても考えていく。	
専門教育	資格取得科目	教育学概論	教育を教育思想と教育実践の観点から理解する。教育の目標・内容・方法について、現在の課題に対して歴史的成果を生かして、その解決法を探る。教育は社会・文化を不可分の関係にあることを理解する。教師の指導観と子ども理解は相互に関連していることを理解する。教育という事象を教育思想と教育実践、双方から考察する。教育の目標・内容・方法について、現在の課題に対して歴史的成果を生かして、その解決法を探る。教育は社会・文化を不可分の関係にあることを考察する。教師の指導観と子ども理解は相互に関連していることを考察する。	
専門教育	資格取得科目	教育の制度と社会	①現代の学校教育を取り巻く社会的状況や制度、その課題について理解すること。②学校と地域との連携および協働の意義やその方法について理解すること。③学校安全について実情を知ったうえで、具体的な安全管理・安全教育の取り組みを理解していること、教育に関する社会的・制度的・経営的事項について基礎的な知識を身に付け、また、その課題を理解することを目的とする。加えて、現代的課題として、地域との連携や学校安全についての基礎的知識も身に付ける。上記の目的を達成するために、本講義では特に、教育社会学的な視点および考え方を重視する。こうした姿勢を身に付けることで、「常識」や「思い込み」から距離をとって、教育現象を検討する。	
専門教育	資格取得科目	教育心理学	1. 教育心理学における3つの代表的な学派を中心に、教えることと学ぶこと、教師のあり方に関する議論の変遷を理解する。2. 上記の過程で掘り起こしてきた、主要な心理学的概念、その基盤となる研究事例、および代表的な研究者名を習得する。3. 以上の知見を踏まえて、学ぶことを日々刷新し、児童生徒とのより良い関係を築くための幅広い考え方と手がかりを身に付けていく。教育心理学の概要をその歴史的発展に即して講義し、基本知識と今後の発展的な学びの基盤を形成することとなる。	
専門教育	資格取得科目	特別支援教育原理	特別支援教育の理念及び制度、特別な支援を必要とする子ども達の実態と指導・支援について理解する。授業の概要発達障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対して、小中学校等において、個別の教育的ニーズを踏まえて組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について学修する。 (オムニバス方式/全8回) (53 菊池 哲平/3回) 特別支援教育とインクルーシブ教育システム、「通級による指導」の実際、特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援について担当する。 (145 半田 健/3回) 発達障害のある子どもの理解と支援、様々な障害の理解（知的障害、病弱・身体虚弱ほか）、校内支援及び関係者との連携の進め方について担当する。 (67 本吉 大介/2回) 「自立活動」の実際、個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成について担当する。	オムニバス
専門教育	資格取得科目	教育課程論	各学校の教員は、生徒に何を学ばせ、どのような資質・能力を身につけさせたいのかを考え、カリキュラムを主体的に編成する必要がある。そのため、教職課程での学修において、カリキュラム編成の基本原則と学習指導要領の内容等を理解することは重要である。この授業では、現代社会において子どもたちにどのような知識や資質・能力が求められるのかについて考え、教育課程の編成に参画するための基礎力を身に付ける。教育課程を編成するための基礎的事項について学修する。また、学習指導要領の成立と変遷の背景を知り、その内容について検討する。	
専門教育	資格取得科目	特別活動及び総合的な学習の時間の指導（進路指導及びキャリア教育を含む）	特別活動及び総合的な学習の時間の指導（進路指導及びキャリア教育を含む）について基礎的な認識を形成する。 (1) 特別活動の指導法について講義・実践する。 (2) 総合的な学習の時間の指導法について講義・実践する。 (3) 進路指導、キャリア教育の原理について講義・実践する。 なお、特別活動・総合的な学習の時間・進路指導・キャリア教育それぞれについて、学習指導要領の目標を達成できるような年間指導計画に位置付けた実施計画を作成し、実践することができることを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	道德教育の理論と実践	そもそも道德とはいったい何か、道德を“教育する”とはどういうことか。本授業では、各受講者が、この問いに底の底から答えられるようになることを第一の目的とする。そしてその上で、どのような道德教育を「よい」と言うのか、具体的にどのような実践をしていけるかを考え、とりわけ「哲学対話としての道德教育」と「プロジェクトとしての道德教育」の実践の経験を積むことを第二の目的とする。道德および道德教育の本質を学ぶとともに、さまざまな実践例を参照しながら、よりよい道德教育の実践のあり方を考える。	

専門教育	資格取得科目	中等社会科教育（社会・公民）Ⅰ		社会科・公民科の授業計画などを分析することを通して、様々な授業づくりの理論を理解する。さらに、それらの理論に基づいて、教科書を活用した授業を開発する。なお、1. 社会科・公民科の授業には様々な類型が存在することを十分に理解している。2. 社会科・公民科の授業記録を具体的に分析できる。3. 教科書を効果的に活用した授業を開発できる。ことを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	中等社会科教育（社会・公民）Ⅱ		テキスト等を利用して中等社会科の内容編成や学習指導について理解を深めるとともに、ワークシートを活用した実践的な模擬授業に取り組む。なお、1. 既習事項を十分に活用して中等社会科の特色を理解できる。2. 優れた社会科授業の条件を十分に踏まえて授業を開発できる。3. 効果的なワークシートを作成して模擬授業を実践できる。ことを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	中等社会科教育（社会・地理歴史）Ⅰ		社会科、地理歴史科、公民科に関する理論的説明を中心に講義を構成する。前半は、意義（本質）、目標論（学力論）を鍵概念として設定し、受講生の社会科観を再構築することを目的に、過去、外国から事例を抽出し、実践を分析し、各目標を比較・検討する。後半は教育課程とマネジメントを鍵概念として、なぜそのようなことをしないといけないのか、意図されたカリキュラムをどのように実施されたカリキュラムとして組み替えるか、最低基準である学修指導要領はどのようなことを求めているか、を理論的に考察したのち、実際にカリキュラムをマネジメントする演習を行う。	
専門教育	資格取得科目	中等社会科教育（社会・地理歴史）Ⅱ		教師の専門職性としてPDCAサイクルを回すことができる教師というものがある。本講義では、そのPDCAサイクルを実際に回す経験をする。具体的には、単元を構築する上での様々な注意点を自覚し、それを踏まえて単元を構築し、その構築した単元を実践・評価・改善するというものである。この経験を通して、自身でPDCAサイクルを自覚的に回すことができる教員に必要なる資質・能力を総合的に涵養することが目的である。教師は自覚的に単元を構築する存在である、との前提に立ち、教員による実演を適宜踏まえながら、グループで1時間の小単元案（教授書）を構築する。そのうえで、授業を改善する際に必要な評価の仕方について講義し、その講義内容を踏まえて、その小単元を実践・評価し、改善する。	
専門教育	資格取得科目	中等国語科教育Ⅰ		中学校・高等学校の国語科指導に必要な全般的な知見や、「書くこと」の指導についての指導理論及び指導方法に関する基礎的な知識と技能を習得する。中学校・高等学校の国語科指導に必要な全般的な知見や「書くこと」の学習指導に関する講義と、個別の教材に即した教材化の実践についての演習を行う。なお、国語科の教科構成について、指導要領改訂の趣旨を捉えて理解することができる。・「書くこと」領域の学習内容に関する基礎的な知識を理解し、文章の構成や記述に生かすことができる。・教材研究や言語活動分析を生かし、育成すべき生徒の資質・能力を明らかにしながら、具体的な手立てを取り入れた授業の計画ができる。ことを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	中等国語科教育Ⅱ		中学校・高等学校国語科における「伝統的な言語文化」の指導についての、指導理論及び指導方法に関する基礎的な知識と技能を習得する。中学校・高等学校国語科における「伝統的な言語文化」の学習指導に関する講義と、個別の教材に即した教材化の実践についての演習を行う。なお、中学校・高等学校における「読むこと」の学習指導理論を理解したうえで、教材の特性をふまえた学習指導案を作成し授業デザインをすることができることを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	中等国語科教育Ⅲ		中学校・高等学校国語科における「話すこと・聞くこと」の指導についての指導理論及び指導方法に関する基礎的な知識と技能を習得する。中学校・高等学校の国語科指導に必要な全般的な知見や「話すこと・聞くこと」の学習指導に関する講義と、個別の教材に即した教材化の実践についての演習を行う。なお、「話すこと・聞くこと」領域の学習内容に関する基礎的な知識を理解し、文章の構成や記述に生かすことができる。・教材研究や言語活動分析を生かし、育成すべき生徒の資質・能力を明らかにしながら、具体的な手立てを取り入れた授業の計画ができる。・協働での指導案作成と検討会を通して、指導に対する多面的な見方を得るとともに、内在する自他の指導観を捉えて見つめ直すことができる。ことを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	中等国語科教育Ⅳ		中学校・高等学校国語科における「読むこと」の学修指導についての、理論と実践に関する基礎的な知識と技能を習得する。中学校・高等学校国語科における「読むこと」の学修指導に関する講義と、個別の教材に即した教材化の実践についての演習を行う。	
専門教育	資格取得科目	英語科教育Ⅰ		英語科教育の理論と実践を学ぶ。コミュニケーション能力の養成に重点を置いた英語科教育指導理論についての理解を深め、実践的な指導力を養成する。コミュニケーション能力養成重視の学習指導要領を理解するとともに、模擬授業を通して、具体的な教材を活用し、授業展開や学習指導案作成等の理論と実践を学ぶ。なお、コミュニケーション能力養成重視の英語科の学習指導要領を理解し、具体的な授業の展開や教材の準備、学習指導案作成等の発展的な指導力を模擬授業で実践することができることを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	英語科教育Ⅱ		英語科教育法の理論を学び、マイクロティーチングを通して、英語科の授業を実践的に展開できる指導力を身に付ける。小中高での英語授業のあり方を学び、実際の指導法を身につける。マイクロティーチング演習を通して、実践的な英語の指導ができるように立案、準備、実践をすることにより、学校現場で活用できるスキルの向上を図る。なお、指導すべき内容を適切に理解し、マイクロティーチングの立案、準備、実践ができる。マイクロティーチング後に省察し、修正ができることを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	英語科教育Ⅲ		教材作成法を学ぶ。そして、それを利用したマイクロティーチングを通じ、指導ができる力を身に付ける。講義と演習を通して、教材開発に関する理論と教材開発の方法を学ぶ。リスニング教材、リーディング教材などの作成方法を学び、具体的な教材の作成をする。さらに、作成した教材を使用したマイクロティーチングと省察を行う。ICT機器などの教育デジタルメディアを活用した教材作成にも触れる。	
専門教育	資格取得科目	英語科教育Ⅳ		コミュニケーション能力養成を重視する英語科教育の理論と実践を学ぶ。言語テスト法の理解を深めコミュニケーション能力を適切に評価する方法、ICT機器などの教育デジタルメディアを効果的に活用した実践的な指導力と評価力を養成する。講義と演習を通して、言語テストに関する理論と言語テスト作成術を学ぶ。語彙・文法テスト、リスニング・テスト、リーディング・テスト、スピーキング・テスト、ライティング・テストの作成術を学び、具体的な教材を活用して、それぞれのテスト項目を作成する。さらに、パフォーマンス・テストの作成と評価について学び、実際のパフォーマンスの評価演習を行う。さらに、ICT機器などの教育デジタルメディアを効果的に活用した指導技術を身に付ける。最後に、模擬授業を通して、実践的な指導と評価法を身に付ける。	

専門教育	資格取得科目	教育方法・技術	人の学びに関する基本的な知識を得ること、また教育者としてどのようなスタンスで教育にあたるかについて考えること、心理学の知見を用い人が学習する上で一般的なメカニズムや各発達段階における学習の特徴、また学習への影響要因について説明する。なお、学習のメカニズムや教育の方法を学びながら、単に技術や知識の効率的な伝達という側面だけではなく、人と人同士の関わりの中での育ちという視点も持ち、各自の追及する教育観を実現する方法について十分に考えを深めることを目標とする。
専門教育	資格取得科目	教育とICT活用	情報通信技術（ICT）を効果的に活用した学習指導などに加え、児童・生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。個人学習やグループ学習を基本に、情報通信機器の実技を伴う演習を通したり、学校現場の実態を理解したりすることによって、情報通信技術を効果的に活用した実践的な指導力を高める。なお、ICTに関する知識と技能を修得し、学校現場で情報機器を用いて授業を行い、新たなICT活用の在り方について考察することができることを目標とする。
専門教育	資格取得科目	生徒指導の理論と方法	生徒指導を教職員や関係機関と連携しながら組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。生徒指導の意義や原理を理解するとともに、すべての生徒を対象とした学級、学年、学校における生徒指導の進め方を理解する。また、生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等の校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。なお、生徒指導の基礎と実際について学ぶ。・教育現場における主な課題について考える。・相談を受ける者としての基本的な態度を身につける。・学ぶことに興味関心を持ち、この授業内容だけでなく、様々な書籍や資料、情報、他者との意見交換等をもとに、課題を自分事として捉え、自分の考えに反論する意見も説得することができる。ことを目標とする。
専門教育	資格取得科目	教育相談の理論及び方法	様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を身に付ける。子どもを取り巻く状況（学校・家庭・社会）や、学校教育の領域でなされている活動がどのように心理的健康と関連するかを概観し、様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を提供する。それらを知的にも体験的にも学修する。
専門教育	資格取得科目	教職実践演習（中・高）	教職を目指す学生が、授業創造の意義と実践への理解を深めるとともに学校現場の諸課題を主体的に捉えることで、自らの教師としての資質や実践力を向上させることを目指す。令和4年度より年次進行で実施される新学習指導要領について改訂の理念やICT活用を含む具体的なポイントを理解し、より豊かな授業創造のための具体的な手立てについて実践的な力を養うとともに、授業相互、授業と授業以外の活動との有機的連関性を企図した学習指導計画作成への意識を高める。また、学校現場が抱える課題について具体例を交えながら対処法を考察していく。
専門教育	資格取得科目	事前・事後指導	教育実習に臨むに当たって必要な知識等を学びます。また、教育実習での体験・実践を通して、教員としての資質・能力および実践的指導力の基礎を学ぶ。別途周知する当該年度の教育実習「事前・事後指導」計画に基づき、教育実習前の4月と教育実習後の11月以降に合計8回の事前・事後指導を行う。なお、1. 教育活動の観察や参加を通して、教育活動について深く理解することができる。2. 教職という社会的役割や責任および使命を果たしうる職業人としての高い自覚を持つことができる。3. 教育理論と実践の相補的な関係について深く理解することができる。4. 実践における具体的な活動を通して、教育技術の重要性を認識し、高度に習得することができる。ことを目標とする。
専門教育	資格取得科目	中等教育実習Ⅰ	実習校での教科教育や生徒指導等の教育活動の体験・実践を通して、教員としての資質・能力および実践的指導力の基礎を学ぶ。実習校の定める期間に、中学校において10日間、あるいは同一校または中高一貫校において15日間に（「中等教育実習Ⅱ」の実習時間を含む）の教育実習を行う。なお、1. 教育活動の観察や参加を通して、教育活動について深く理解することができる。2. 教職という社会的役割や責任および使命を果たしうる職業人としての高い自覚を持つことができる。3. 教育理論と実践の相補的な関係について深く理解することができる。4. 実践における具体的な活動を通して、教育技術の重要性を認識し、高度に習得することができる。ことを目標とする。
専門教育	資格取得科目	中等教育実習Ⅱ	実習校での教科教育や生徒指導等の教育活動の体験・実践を通して、教員としての資質・能力および実践的指導力の基礎を学ぶ。実習校の定める期間に、中学校において10日間、あるいは同一校または中高一貫校において15日間に（「中等教育実習Ⅱ」の実習時間を含む）の教育実習を行う。なお、1. 教育活動の観察や参加を通して、教育活動について深く理解することができる。2. 教職という社会的役割や責任および使命を果たしうる職業人としての高い自覚を持つことができる。3. 教育理論と実践の相補的な関係について深く理解することができる。4. 実践における具体的な活動を通して、教育技術の重要性を認識し、高度に習得することができる。ことを目標とする。
専門教育	資格取得科目	生涯学習概論	生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学修活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことを目的とする。1. わが国における教育の歴史的展開、2. 生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築、3. 生涯学習の意義と特性、4. 生涯学習・社会教育行政の展開、5. 生涯学習の内容・方法と指導者
専門教育	資格取得科目	博物館経営論	博物館は生活の質にかかわる公共的な存在であり、博物館資料は公共の財産である。ここではその視点から、博物館の形態面と活動面において、利用者とミュージアムワーカー双方の立場に立った適切な管理・運営を理解する。また、生涯学習社会における博物館の意義と役割を、ミュージアムマネジメントの視点から読み解くための、基礎的な学力及び能力を身に付けることを目的とする。1. 博物館の経営基盤、2. 博物館の経営、3. 博物館と多様な主体との連携
専門教育	資格取得科目	博物館資料保存論	資料の保存と公開（展示）という相矛盾した行為の意義を博物館活動の中で明確にし、博物館における資料保存及び保存・展示環境を科学的に捉えることを目的とする。併せて博物館の周辺地域における資源や文化遺産の保護と活用に関して基礎的な知識を身に付けることを目的とする。1. 博物館における資料保存の意義、2. 資料の保全（育成）、3. 地域社会における資料保存
専門教育	資格取得科目	博物館展示論	展示は広範な人々を対象とした情報伝達手段である。博物館は資料を媒体として展示活動を行い、情報を伝達していることから、他の社会教育機関との相違を明確にしている。こうした観点から、博物館における展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことを目的とする。1. 博物館展示の意義、2. 博物館展示の実際、3. 展示の解説活動

専門教育	資格取得科目	博物館教育論		博物館活動の総体を「教育」ととらえ、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。あわせて、生涯学習社会における博物館教育の可能性を理解し、実践的能力を身に付けることを目的とする。1. 学びの意義、2. 博物館教育の意義と理念、3. 博物館の利用と学び、4. 博物館教育の実践	
専門教育	資格取得科目	博物館情報・メディア論		博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開の課題等について理解をはかります。博物館の諸活動を情報という観点から見直し、コミュニケーション充実のための適切な情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことを目的とする。1. 博物館における情報・メディアの意義、2. 博物館情報・メディアの理論、3. 博物館における情報発信、4. 博物館に関する法と権利	
専門教育	資格取得科目	博物館実習Ⅰ		博物館実習Ⅰ（見学実習）は博物館実習Ⅱ（学内実務実習）及び博物館実習Ⅲ（館園実習）の前段階に実施し、様々な博物館（設置者別・法的区分別・館種別）の運営実態を学ぶことを目的としている。見学を通して施設及び設備の理解を深め、利用者の観点から施設整備の在り方を学修すると共に、学芸員課程を履修する上で必要な全般的知識の習得を図る。また、館ごとの見学レポート及び終了後は総括レポートを提出してもらい、担当教員が添削をして受講生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を行う。1. 多様な博物館の姿を観察する、2. 常設展及び特別展の見学、3. バックヤードの見学、4. ミュージアムショップ等の付帯設備見学、5. ミュージアム・ワーカールの日常観察	
専門教育	資格取得科目	博物館実習Ⅱ		資料調査、資料撮影、キャプション・解説文の作成、展覧会の開催にともなう一連業務、教育普及活動を展開する際の基礎的な実務能力、資料の取扱・梱包及び輸送に係る事柄等を身に付け、館園実習に備えることを目的とする。適宜提出を求める各課題及び博物館実習Ⅱ（学内実務実習）を体験しての反省・自己評価等を総括レポート（期末課題）としてまとめ、それらを実習担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を行う。1. 学芸業務のあれこれ、2. 資料調査、3. 資料撮影、4. 資料調査からキャプション、解説文の作成、5. 展覧会開催にともなう基礎知識、6. 教育普及活動にともなう基礎知識、7. 文化財の取扱及び梱包並びに輸送	
専門教育	資格取得科目	博物館実習Ⅲ		これまでの博物館に関する科目で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念と設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると共に、博物館資料の取り扱いや教育普及活動、来館者対応等における実務の一端を担うことによって、学芸員としての責任感や社会意識を身に付け、博物館で働く心構えを涵養することを目的とする。また、館園実習を体験しての反省・自己評価等レポートを課し、担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を実施する。1. 管理・運営に関する実習、2. 施設・設備に関する実習、3. 資料調査に関する実習、4. 資料の収集・保管に関する実習、5. 展示に関する実習、6. 教育普及活動に関する実習	
専門教育	資格取得科目	公認心理師の職責		心理専門職資格の臨床心理士と公認心理師を対比しつつ、その専門性について理解する。また両資格に求められる倫理と基本姿勢（基本的人権の尊重、守秘義務、安全保護義務、多職種連携、チームにおけるはたらき）を学び、保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働の諸分野における心理専門職のはたらきの実態を知る。心理専門職としての臨床心理士と公認心理師を対比しつつ、心理職における専門性について理解を深め、保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働分野における心理専門職の実態のはたらきについて知るとともに、実践において求められる法制度の知識と、心理専門職としての倫理と基本的姿勢を学ぶ。	
専門教育	資格取得科目	臨床心理学概論		臨床心理学は、応用心理学の1つであり、心理学的な諸理論や科学的知見に基づく方法を実践し、問題行動の改善、心理社会的な不適応状態の解消、さまざまな病理的問題の解決、あるいは人格的な成長の促進を目指す学問、かつ専門的な援助体系である。それらこころの問題や悩みへの臨床心理学の支援について学習する。支援法の背景理論やその成立までの歴史を概観した上で、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野における主な問題に対する援助方法、および臨床の実践の概要について支援の実例を取り上げながら臨床心理学の基礎的な知識を身に付ける。 (オムニバス方式/全16回) (153 高岸 幸弘/8回) 心理学的支援法について担当する。 (154 黒山 竜太/8回) 臨床心理学の理論について担当する。	オムニバス
専門教育	資格取得科目	学習・言語心理学		人の行動が変化する過程ならびに言語の習得における機序、これらの研究方法について、基礎的な知識を得るとともに、自身の日常生活における課題解決に応用できる力を身に付ける。本科目は、人の行動が変化する過程を扱う学修心理学の領域と、言語の習得における機序を扱う言語心理学の領域とを扱っている。言語を操ることは人間の特長であると同時に、人間の行動とその変化とは人間心理を客観的に研究することのできる対象であり、心理学の中で基礎的な領域といえる。本科目は、このような観点から人間の行動と言語、ならびに研究方法について概説するものである。	
専門教育	資格取得科目	感情・人格心理学		人に感情はなぜあるのか、いかなる機能を有するのかを進化心理学的に考察する。また、豊かな感情をどうやって育ててゆくのかを教育心理学的に考察する。さらに、ネガティブな感情をコントロールして適応的に生きる方法を臨床心理学的に考察する。それらの考察を通して、進化心理学的、教育心理学的、臨床心理学的に、感情が人格形成に及ぼす影響と人格が感情に及ぼす影響を考察してゆく。 (オムニバス方式/全16回) (52 藤中 隆久/8回) 感情理論について担当する。 (154 黒山 竜太/8回) パーソナリティ理論について担当する。	オムニバス
専門教育	資格取得科目	社会・集団・家族心理学		主に心理学の各領域における諸問題を理解し、人間関係をうまく形成するためのコミュニケーションに活用する力を身につけることを目的とする。本講義では、主に心理学の各領域（発達・認知・教育・臨床心理学）におけるコミュニケーションの問題を取り上げる。また、コミュニケーションに関する心理学研究を紹介し、日常生活に役に立つよう具体的な例を挙げながら解説する。講義のテーマによって、グループディスカッションを取り入れる。このように、集団と自己、愛着形成などの理解を深め、人間関係をうまく形成するためのコミュニケーション能力とは何かを考える。	

専門教育	資格取得科目	発達心理学		情動と認知の発達についてこれまで行われてきた研究の知見を整理しながら、子どもが発達して行く様相について吟味・検討する。講義の前半は、子どもの中で情動はどのように生まれ、概念的に理解していくのか、さらにはその情動を子どもはどのように自ら制御できるようになるのか、情動の一般的な発達についてこれまで行われてきた情動発達研究の成果について概説する。講義の後半は、子どもはどのように世界に関わり世界を認識していくのか、外界や他者との相互作用の中で子どもの認知発達のプロセスについて、これまで行われて来た認知発達研究の成果について概説する。	
専門教育	資格取得科目	障害者・障害児心理学		様々な障害のある人の理解及び支援を行う上で必要な、障害の基本的な捉え方、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などの各種の障害の概要、心理社会的課題と支援に関する内容を解説する。それらの観点を踏まえ、障害に対する早期支援や家族支援、地域援助といった障害のある個人とその人を取り巻く周囲を含む、心理社会的観点の基礎について概説する。	
専門教育	資格取得科目	心理的アセスメント		心理アセスメントの対象の理解と倫理的配慮など心理アセスメントについて基本的な考え方を学習した上で、人の心を数量的に測定する方法である心理検査についての学習を行う。心理検査は多様であるがその中で、数量的な処理を中心に行う知能検査と、投影検査法のロールシャッハテストを中心に数種類の検査を体験することで、施行方法及び結果処理方法、報告書の書き方についての基本的な知識を身に付ける。そして、心理的アセスメントの基礎知識となる、心の状態に関する知識を増やすことをねらいとする。 (オムニバス方式/全16回) (152 高崎 文子/8回) ロールシャッハについて担当する。 (153 高岸 幸弘/8回) 知能検査について担当する。	オムニバス
専門教育	資格取得科目	心理学的支援法		困難を抱えている人に対する心理的支援として、心理療法がある。ここでは、代表的な心理療法として、精神分析、クライアント中心療法、行動療法、認知行動療法、箱庭療法、エンカウンターグループ、フォーカシング、心理劇、臨床動作法を取り上げ、講義する。また、それらの心理療法の初歩の実践が出来るようになるために、実践トレーニングの時間も講義内に取り入れていく。 (オムニバス方式/全16回) (52 藤中 隆久/8回) 人間性アプローチについて担当する。 (154 黒山 竜太/8回) アクションメソッドについて担当する。	オムニバス
専門教育	資格取得科目	健康・医療心理学		健康・医療心理学は、特に医療の領域において患者の心理や患者を支える家族の心理および医療従事者の心理を取り扱う。本授業では、①ストレスと自身の疫病との関係と支援、②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、③保健活動が行われている現場における心理社会的課題および必要な支援、④災害時等に必要心理に関する支援を中心に人の行動、疫病、支援について理解を深める。	
専門教育	資格取得科目	福祉心理学		福祉現場において公認心理師として活動するために求められる役割、知識や技能について理解し実践できるようになることを目指す。福祉現場において、公認心理師に求められる必要不可欠な知識や役割について学ぶ。福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題と必要な支援方法及び虐待、認知症に関する必要な支援について理解を深めることができるような授業を行う。	
専門教育	資格取得科目	教育・学校心理学		学校現場における心理・社会的課題や必要な支援について、教育心理学の知見から理解を深める。また、学校現場における諸課題についてとりあげ、心理学の理論を用いて解説し、教育実践にどのように対応するかを考える。 1. 学校現場における諸課題について、心理学的な視点から理解する。 2. 教育実践における具体的な対応について検討することができる。ことを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	司法・犯罪心理学		公認心理師法における「司法・犯罪分野」の要点を踏まえて、少年事件、刑事事件、家庭紛争事件の3部で構成する。第1部は、司法における犯罪心理学、非行臨床をもとに少年事件を取り上げる。第2部は、児童虐待、高齢者虐待、離婚と面会交流などの家庭紛争事件、さらに体罰問題など学校に関わる問題への対応を解説する。第3部は、攻撃性をもとに犯罪の4類型を理解したうえで、ストーカー犯罪、凶悪事件の精神鑑定例、犯罪被害者への贖罪を取り上げる。また、司法における心理臨床家の活動も紹介する。最後に現在の司法の潮流である司法臨床、治療的司法、加害者臨床をもとに、司法・犯罪心理学の展望と課題を解説する。	
専門教育	資格取得科目	産業・組織心理学		産業・組織心理学の基本概念や主要研究、代表的な人名等を概説し、基本的な理解を図る。産業・組織心理学の基本概念や主要研究、代表的な人名等を概説し、基本的な理解を図るため、講義形式での授業を行う。組織心理学およびその基本にある集団力学について、自らの言葉で説明し自身の経験を対象として社会実践につなげる力量を獲得する。また、産業・組織心理学の主要概念や代表的研究など最低限の基本知識について、ひととおりあらましを理解できるようになることを目標とする。	
専門教育	資格取得科目	人体の構造と機能及び疾病 A		私たちの健康は正常な構造が正常に機能して初めて可能となる。看護師などの医療職に就くためには私たちの身体の正常な構造を知り、それがどのように機能しているかを理解しておく必要がある。私たちの身体の中には胃や腸、心臓、筋肉等々さまざまな器官・組織があるが、これらは互いに独立して働いているわけではなく、筋運動をすると心拍が速くなることからわかるように、相互に密接に関連しながら機能している。このような機能の調節も含めて、トータルとしての人体の構造と機能を理解することを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (24 岡田 隆夫/8回) 人体の構造と機能を学ぶための基礎知識、血液、呼吸、神経系、心臓と血液の循環、内臓機能の調節、生体の防御機構を担当する。 (245 坂井 建雄/7回) 人体の構造と機能を学ぶための基礎知識、消化と吸収、心臓と血液の循環、尿の生成と体液の調節、身体の支持と運動、神経系、生殖・発生と老化の仕組みを担当する。	オムニバス

専門教育	資格取得科目	人体の構造と機能及び疾病 B	<p>疾病によって引き起こされる様々な身体内部の変化と生活への影響、疾病の回復過程とそれを促進する要因についての知識は、疾病を予防し、疾病に対して適切な医療、看護の提供するために不可欠なものである。本講義では、看護師が疾病の成立と回復促進を理解することの必要性、疾病の原因とそれによって細胞や組織に生じる変化、基本的な病変の成り立ち、疾病に対して提供される医療についての講義を行ったうえで、生命活動や生活にどのような障害をもたらすのかという視点から、様々な疾病について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (246 岡田 忍/4回)</p> <p>病の原因と細胞・組織障害、再生と修復、基本的な病変とその機序、健康状態を脅かす微生物と生体防御、消化機能の障害を担当する (247 佐伯 由香/3回)</p> <p>呼吸機能の障害、循環機能の障害、造血機能の障害を担当する (248 田城 孝雄/2回)</p> <p>疾病に対する医療、消化機能の障害を担当する (249 長嶋 洋治/3回)</p> <p>排泄機能の障害、運動機能の障害、生殖機能の障害を担当する (250 山内 豊明/3回)</p> <p>神経機能の障害、栄養バランスの障害、内部環境調節機能の障害を担当する</p>	オムニバス
専門教育	資格取得科目	精神疾患とその治療	<p>精神疾患にはどのようなものがあり、それぞれどのような特徴をもっているか、疾患をどのように診断し治療するのか、治療法にはどのようなものがあるか、精神疾患の当事者をとりまく社会制度や援助のための社会資源はどのような現状にあるか、このような基本的な知識・理解を獲得することを目的とする。なお、1. 精神疾患に関する知識を獲得し、治療の実践についても理解する。2. メンタルヘルス不調者への接し方・対応に関する実践についての知識を得る。ことを目標とする。</p>	
専門教育	資格取得科目	関係行政論	<p>本講義では、公認心理師を目指す学生が将来、公認心理師として円滑な活動をするために不可欠となる「法律や施策、制度等」に関する基礎知識を身に付けることを目的としている。はじめに公認心理師制度が誕生した背景について学ぶ。社会環境の大きな変化に伴い、日常生活の中で複雑な課題が多く発生するようになり、心の健康に関する専門的な支援に対する国民の期待が大きくなってきた。このようなニーズに応えるため誕生した公認心理師制度に関連する法律、行政による支援制度、他の多様な職種や機関等との連携などについて理解を深める。これらの学びを踏まえて、公認心理師の果たす大事な役割をしっかりと把握したうえで、専門職としての将来を展望する。弁護士、福祉関係者などゲストスピーカーによる事例紹介も予定している。</p>	
専門教育	資格取得科目	心理演習	<p>本授業は、演習形式の授業を行い、心理学の知識及び技能の基本的な水準の習得を目的としている。本授業は公認心理師受験に必要な単位であり、通年開講の30コマの授業回を予定している。4人の教員で授業を行う。授業では提示されたテーマ等をもとに、受講生がプレゼンテーションを行い議論をしたり、事例検討を行ったりする。また、心理面接の技能を身につけるために、カウンセリングのロールプレイング等も行う。授業回によっては、授業内容の振り返りとしてリフレクションシートの提出を求めることもある。</p>	
専門教育	資格取得科目	心理実習	<p>心理臨床現場の実際を知り、心理臨床の基本的姿勢と技法を習得し、心理臨床実践家として役立つことができるようにする。本実習では、心理学、特に臨床心理学、発達心理学が活用されている施設で行う実習を通して、心理職の業務内容と役割と義務等についての学びを深める。実習施設は、医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働領域から複数の現場での実習を予定している。実習中は施設の指導者および担当教員の巡回指導を受けながら学ぶ。</p>	
専門教育	資格取得科目	日本語文章作成	<p>この授業の目的は、日本語以外の言語を母語とする学生（留学生）が、「感想を書く」「レポートを書く」などの大学生活で必要とされる日本語を書く能力をつけることである。授業では、それぞれの求められた文章の中で「何を書かなければならないのか」を学修・理解したのち、実際に文章を書くという演習を行う。最終目標である「レポートを書く」ための学修の際には、日本の大学図書館での文献検索の仕方、日本語での参考文献の書き方、レポートの構成などを学び、自分の専門分野で必要なレポート作成が日本語でできるようになることを目指す。</p>	
専門教育	資格取得科目	日本語文章読解	<p>この授業の目的は、日本語以外の言語を母語とする学生（留学生）が、日本語の文章を「早く・正しく」読むことができるようになることである。授業では、日本語の文章を短いものから読み始め段階的に長いものを多く読んでいく「多読（たどく）」の方法で「早く」文章読解をする力を身に付ける。また、文章を読んだあと、学生同士が「再話（さいわ）:retelling」をし、読んだ文章を正しく理解できているのか確認する機会を持つ。</p>	
専門教育	資格取得科目	日本の文化と社会	<p>この授業の目的は、日本語以外の言語を母語とする学生（留学生）が、日本で生活する上で必要となる基本的な知識（習慣、年中行事、様々なルールやシステムなど）について日本語で学修し、知見を深めることである。講義形式で日本文化と社会の基本事項について学修したのち、日本で生活していく過程で気付いた疑問点や問題点を他の学修者と共有し、日本文化だけでなく、自文化への気づきや理解を深めることを目指す。</p>	